



教科目概要

2025年度

越谷保育専門学校

幼稚園教諭保育士養成学科 1年
教科目概要

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 科目配当表（2025年度入学生 1年生）

2025.4.1現在

教養科目卒業要件：9単位以上履修

幼稚園教諭2種免許取得要件：8単位（日本国憲法2・体育2・英語コミュニケーション2・情報機器の操作2）

保育士資格取得要件：8単位（体育講義1・体育実技1・体育以外から6以上）

区分	授業科目	授業形態	単位数	卒業	幼2種	保育士	開講時期・時間				備考
							1年	1年	2年	2年	
							前期	後期	前期	後期	
教養科目	倫理学	講義	2			⑥単位以上履修				30	
	文学	講義	2							30	
	英語コミュニケーション	演習	2	○	○		30				
	日本国憲法	講義	2	○	○		30				
	社会学	講義	2							30	
	生き物	演習	1	○			30				
	情報機器の操作	演習	2	○	○		30				
	体育講義	講義	1	○	○	○	15				
	体育実技	実技	1	○	○	○				30	
	小計		15					135		120	
卒業必要単位及び時間			9					135	30		(165時間)

専門教育科目卒業要件：73単位以上履修（必修72単位以上及び選択1単位以上）

幼稚園教諭2種免許取得要件：31単位

保育士資格取得要件：62単位（必修53単位 *から9単位以上（保育実習Ⅱ・保育実習指導Ⅱ含む））

（専門教育科目）

区分		授業科目	授業形態	単位数	卒業	幼2種	保育士	開講時期・時間				備考	
								1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期		
専門教育科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目	・領域に関する専門的事項	子どもの健康とあそび	演習	1	○	○	○	30				
		子どもと人間関係	演習	1	○	○	○		30				
		子どもと環境	演習	1	○	○	○	30					
		子どもの文化と言葉	演習	1	○	○		30					
		子どもの言語文化表現	演習	1	○	○	○		30				
		子どもの音楽基礎演習	演習	1	○	○	○	30					
		子どもの発達と音楽表現	演習	1	○	○	*		30				
		子どもの発達と造形表現Ⅰ	演習	1	○	○	○	30					
		子どもの総合表現	演習	1	○	○	*			30			
		・保育の内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育内容健康	演習	1	○	○	○		30			
	保育内容人間関係	演習	1	○	○	○			30				
	保育内容環境	演習	1	○	○	○		30					
	保育内容言葉	演習	1	○	○	○		30					
	保育内容表現（音楽）	演習	1	○	○	○			30				
	保育内容表現（造形）	演習	1	○	○	*			30				
	教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	講義	2	○	○	○	30				
		・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校連携への対応を含む。）	保育・教職論	講義	2	○	○	○	30				
		・教育に関する社会的、制度的又は経済的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	幼児教育経営学	講義	2	○	○				30		
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	発達心理学	講義	2	○	○	○		30			
		・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援保育	演習	1	○	○	○		30			
		・教育課程の意義および編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	保育・教育課程論	講義	2	○	○	○			30		
	通修、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	幼児教育の方法及び技術	演習	1	○	○	*		30			
・幼児理解の理論及び方法		子ども理解の理論及び方法	演習	1	○	○	○		30				
・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談の理論及び方法	演習	2	○	○				30			

	授業科目	授業形態	単位数	卒業	幼2種	保育士	開講時期・時間				備考
							1年	1年	2年	2年	
							前期	後期	前期	後期	
教育実践に関する科目	保育・教職実践演習	演習	2	○	○	○				60	
	教育実習指導	演習	1	○	○		30				
	教育実習Ⅰ	実習	2	○	○		60				1年生9月（幼稚園）
	教育実習Ⅱ	実習	2	○	○				60		2年生9月（幼稚園）
・保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	○		○	30				
	子ども家庭福祉	講義	2	○		○	30				
	社会福祉	講義	2	○		○	30				
	子ども家庭支援論	講義	2	○		○			30		
	社会的養護Ⅰ	講義	2	○		○			30		
	自立支援とライフデザイン	講義	2			*				30	
・保育の対象の理解に関する科目	子ども家庭支援の心理学	講義	2	○		○		30			
	子どもの保健	講義	2	○		○		30			
	子どもの食と栄養A	演習	1	○		○			30		
	子どもの食と栄養B	演習	1	○		○				30	
	教育心理学	講義	2			*				30	
・保育の内容・方法に関する科目	保育内容総論	演習	1	○		○				30	
	乳児保育Ⅰ	講義	2	○		○		30			
	乳児保育Ⅱ	演習	1	○		○			30		
	社会的養護Ⅱ	演習	1	○		○				30	
	子育て支援	演習	1	○		○				30	
	子どもの健康と安全	演習	1	○		○			30		
	特別支援保育Ⅱ	演習	1	○		○			30		
	子どもの発達と造形表現Ⅱ	演習	1	○		*		30			
	子どもの発達と造形表現Ⅲ	演習	1			*				30	
	音楽実技演習	演習	1	○			30				
	子どもの弾き語り演習Ⅰ	演習	1			*		30			
	子どもの弾き語り演習Ⅱ	演習	1			*			30		
	子どもの運動あそび	演習	1			*			30		
	保育教材（パープサート・パズルシアター）	演習	1			*		30			
	保育教材（パペット・エプロンシアター）	演習	1			*			30		
	こどもとおもちゃ	演習	1			*			30		
保育実習	保育実習ⅠA	実習	2	○		○			80		1年生2月（保育）*
	保育実習ⅠB	実習	2	○		○			80		1年生3月（施設）*
	保育実習Ⅱ	実習	2	○		*			80		2年生8月（保育）
	保育実習指導ⅠA	演習	1	○		○		30			
	保育実習指導ⅠB	演習	1	○		○		30			
	保育実習指導Ⅱ	演習	1	○		*			30		
専門科目 開講単位数・開講時間小計			83				960		1110		
教養科目及び専門科目 開講単位数・開講時間合計			98				1,095		1,230		
卒業必要単位及び時間数（選択1単位を30時間2年次前期選択として換算）			82				1,035		930		1,995
専門科目72単位＋選択1単位＋教養9単位：合計82単位											

*保育実習ⅠA、保育実習ⅠBの単位認定は2年次になります。

実習時期は、原則決められた時期に実施予定。ただし、受け入れ先の都合で変更する場合があります。

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 開講科目一覧（2025年入学生）

番号	教科目名	担当講師名	開講年次
1	倫理学	次年度開講	2
2	文学	次年度開講	2
3	英語コミュニケーション	鈴木孝義	1
4	日本国憲法	針谷重輝	1
5	社会学	次年度開講	2
6	生き物	三澤善道	1
7	情報機器の操作	生山 浩	1
8	体育講義	会田秀樹	1
9	体育実技	次年度開講	2
10	子どもの健康とあそび	坂田康之	1
11	子どもと人間関係	相川怜美	1
12	子どもと環境	瑞穂 優	1
13	子どもの文化と言葉	上垣内伸子	1
14	子どもの言語文化表現	横関由紀	1
15	子どもの音楽基礎演習	永島晴美	1
16	子どもの発達と音楽表現	渋谷るり子	1
17	子どもの発達と造形表現Ⅰ	森高光広	1
18	子どもの総合表現	次年度開講	2
19	保育内容健康	会田秀樹	1
20	保育内容人間関係	次年度開講	2
21	保育内容環境	瑞穂 優	1
22	保育内容言葉	上垣内伸子	1
23	保育内容表現（音楽）	次年度開講	2
24	保育内容表現（造形）	次年度開講	2
25	教育原理	元木 廉	1
26	保育・教職論	狩野浩二	1
27	幼児教育経営学	次年度開講	2
28	発達心理学	殿塚貴史	1
29	特別支援保育	山田陽子	1
30	保育・教育課程論	次年度開講	2
31	幼児教育の方法及び技術	星野敦子	1
32	子ども理解の理論及び方法	伊集院理子	1
33	教育相談の理論及び方法	次年度開講	2
34	保育・教職実践演習	次年度開講	2
35	教育実習指導	渋谷るり子	1
36	教育実習Ⅰ	渋谷るり子 他専任	1
37	教育実習Ⅱ	次年度開講	2
38	保育原理	相川怜美	1
39	子ども家庭福祉	船澤修一	1
40	社会福祉	伊藤弓月	1
41	子ども家庭支援論	次年度開講	2
42	社会的養護Ⅰ	次年度開講	2
43	自立支援とライフデザイン	次年度開講	2
44	子ども家庭支援の心理学	蓮井千恵子	1
45	子どもの保健	中村千景	1

番号	教科目名	担当講師名	開講年次
46	子どもの食と栄養A	次年度開講	2
47	子どもの食と栄養B	次年度開講	2
48	教育心理学	次年度開講	2
49	保育内容総論	次年度開講	2
50	乳児保育Ⅰ	未定	1
51	乳児保育Ⅱ	次年度開講	2
52	社会的養護Ⅱ	次年度開講	2
53	子育て支援	次年度開講	2
54	子どもの健康と安全	次年度開講	2
55	特別支援保育Ⅱ	次年度開講	2
56	子どもの発達と造形表現Ⅱ	森高光広	1
57	子どもの発達と造形表現Ⅲ	次年度開講	2
58	音楽実技演習	横関由紀・永島晴美・渋谷るり子・川上由美・船田佳代	1
59	子どもの弾き語り演習Ⅰ		1
60	子どもの弾き語り演習Ⅱ	次年度開講	2
61	子どもの運動あそび	次年度開講	2
62	保育教材（ベアフット・パズルシアター）	新井恵美子	1
63	保育教材（パペット・エプロンシアター）	次年度開講	2
64	こどもとおもちや	次年度開講	2
65	保育実習ⅠA	相川怜美 他専任	1
66	保育実習ⅠB	瑞穂優 他専任	1
67	保育実習Ⅱ	次年度開講	2
68	保育実習指導ⅠA	相川怜美	1
69	保育実習指導ⅠB	瑞穂 優	1
70	保育実習指導Ⅱ	次年度開講	2

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目	
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士			
3	英語コミュニケーション	演習	2	■				○	○	○	鈴木孝義	該当しない	
科目区分		教育職員免許法施行規則第66条の6に関する科目 / 教養科目(外国語)									担当形態	単独	
ディ・ア ミ・リ-との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。								○	《授業の概要》			
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。								○	国際化の進展に伴い、多くの外国人の子供が保育園等に入園してくることが予想される。将来幼児教育を目指す学生に、「保育に関する英語」を身につけさせていく。併せて一般的な「国際語としての英語」を習得させていく。			
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。								○	《キーワード》			
加・リ・ア ミ・リ-との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。								○	保育英語 English Grammar 自学自習			
	「読む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。												
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。												
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。								○					
《一般目標》				《到達目標(行動目標)》									
・保育現場における国際化に対応して、保育に関する英語表現や英単語等を理解し、使えることができる。				・保育に関する英語表現や英単語などを習得する。									
・会話表現を学んで、初歩的な英会話ができる。				・英会話に必要な表現や音声の知識を習得する。									
・習得した英文法や英単語等に関する知識を活用して、自発的に学習する習慣を身につけることができる。				・中学校や高校で学んできた英語の基本的な文法事項を復習・確認する。									
授業回数	授業計画								授業外学習及び準備等				
①	授業についての説明(授業内容、評価方法等) Unit 1 (保育の英会話への第一歩)、発音(母音の発音)								教科書の最初にある「はじめに」を眺めてくる 復習(英単語等の暗記、発音練習)				
②	小テスト Unit 2 (みんなと保育園ようこそ)、発音(子音の発音)、英語の歌								復習(英単語等の暗記、発音練習)				
③	小テスト Unit 7 (保育者の仕事)、辞書の引き方								復習(英単語等の暗記)				
④	小テスト Unit 5 (クラスメイトとの出会い)、基本的な英文法(be動詞)、英語の歌								復習(英単語等の暗記、文法の確認)				
⑤	小テスト Unit 6 (ディヴィーの登園と辞園)、基本的な英文法(現在完了)								復習(英単語等の暗記、文法の確認)				
⑥	小テスト Unit 8 (昼食)、基本的な英文法(仮定法: ていねいな表現)								復習(英単語等の暗記、文法の確認)				
⑦	小テスト Unit 9 (排泄に関する会話)、基本的な英文法(5文型)、英語の歌								復習(英単語等の暗記、文法の確認)				
⑧	小テスト Unit 10 (けんか)、基本的な英文法(助動詞、命令文)								復習(英単語等の暗記、文法の確認)				
⑨	小テスト Unit 11 (けがと病気)、基本的な英文法(接続詞、代名詞)								復習(英単語等の暗記、文法の確認)				
⑩	小テスト Unit 12 (電話での応対)、基本的な英文法(関係代名詞)								復習(英単語等の暗記、文法の確認)				
⑪	小テスト Unit 13 (満足)、基本的な英文法(間接疑問)								復習(英単語等の暗記、文法の確認)				
⑫	小テスト Unit 3 (時間と数)、基本的な英文法(比較)								復習(英単語等の暗記、文法の確認)				
⑬	小テスト Unit 4 (地図と道案内)、基本的な英文法(動名詞、不定詞、分詞)								復習(英単語等の暗記、文法の確認)				
⑭	小テスト Unit 14 (赤ちゃんのケア)、最後のまとめ(単語と重要構文)								復習(英単語等・重要構文の総復習)				
⑮	小テスト Unit 15 (卒園)、最後のまとめ(英文法他)、英語の歌								復習(英単語等・文法の総復習)				
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考						
	50%	30%	評価に加えず	5%	評価に加えず	15%							
使用教科書	「保育の英会話」(Childcare English)(第3版) 赤松直子・久富陽子著、朝倉書林						参考図書	毎回プリントを配布する					
学生への メッセージ	保育に関する英語を楽しみながら学びましょう。また、生涯学習という視点から英語を自学自習する態度を身につけましょう。						履修上の注意	毎時間実施する小テストに集中すること 発表時には積極的に参加すること					
実務経験と 科目の関連													

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目	
				1年		2年		卒業	第2種	保育士			
				前期	後期	前期	後期						
4	日本国憲法	講義	2	■				○	○	○	針谷重輝	該当しない	
科目区分		教育職員免許法施行規則第66条の6に関する科目 / 教養科目（外国語・体育以外）									担当形態	単独	
ディプロマ の 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									○	《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									○	憲法は、国が守らなければならない国民の権利や国のしくみについて定めているルールである。授業では、日本国憲法の根本理念と内容を身近な事例を取り上げて解説したり、課題解決をしたりして、学びを積み重ねていく。		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。												
カリキュラム の 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○	《キーワード》		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。												
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○	日本国憲法 国民権 基本的人権の尊重 平和主義		
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。													
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》									
○日本国憲法の必要性を理解する。				○日本国憲法の必要性を理解することができる。									
○一人一人の権利が守られるための憲法を理解する。				○一人一人の権利が守られるための憲法を理解することができる。									
○安心・安全な生活を送ることができるための憲法を理解する。				○安心・安全な生活を送ることができるための憲法を理解することができる。									
○世界の人々が平和に暮らすことができるための憲法を理解する。				○世界の人々が平和に暮らすことができるための憲法を理解することができる。									
○課題解決のための思考力・判断力・表現力を育成する。				○課題解決のための思考力・判断力・表現力を身に付けることができる。									
授業回数		授業計画									授業外学習及び準備等		
①		授業ガイダンス・憲法の歴史と概要									日本国憲法の前文と全文		
②		大日本帝国憲法と日本国憲法									日本国憲法の前文と全文		
③		日本国憲法(国民権)									前文・第1章		
④		日本国憲法(基本的人権の尊重)									第13条～15条・第19条～26条		
⑤		日本国憲法(平和主義)									第2章		
⑥		基本的人権の尊重(個人の尊重と差別禁止)									第13条～14条		
⑦		基本的人権の尊重(表現の自由)									第21条		
⑧		基本的人権の尊重(内心の自由と信教の自由)									第19条～20条		
⑨		基本的人権の尊重(参政権・生存権・教育を受ける権利)									第15条・25条・26条		
⑩		国民の権利と義務①（事例研究と概要）									第3章		
⑪		国民の権利と義務②（事例研究と人権保障）									第3章		
⑫		立法権と国会									第4章		
⑬		行政権と内閣									第5章		
⑭		司法権と裁判所									第7章		
⑮		地方自治・まとめ									第8章		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考						
	50%	評価に加えず	30%	10%	評価に加えず	10%							
使用教科書	授業ごとに資料を配布予定					参考図書	「こども六法」山崎聖一郎著(弘文堂) 中学校や高等学校で使用した社会科公民的分野等の教科書で、日本国憲法全文の記載されている書籍						
学生への メッセージ	日本国憲法を自分の生活と関連付けて、身近に理解していきましょう。					履修上の注意	日本国憲法を自分の生活と関連付けて、身近に理解できるように努めてください。						
実務経験と 科目の関連													

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある教員による授業科目		
				1年		2年						
				前期	後期	前期	後期	卒業	第2種	保育士		
6	生き物	演習	1	■				○		○	三澤 善道	該当しない
科目区分		教養科目（外国語・体育以外）								担当形態	単独	
ディパ ボリとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。								○	《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									身近な生き物を観察し、動植物の理解を深めるとともに、環境に適応して進化してきた生命の神秘を学習させる。		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。									毎回の講義では課題（実習等ではレポート）を完成し提出させる。		
カキム ボリとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。								○	《キーワード》		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。									生き物って不思議		
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。								○			
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。											
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》								
○生物の基本的知識を身につけ、幼児教育者としての教養を深める。				・身近な生き物の名前を覚える。								
○子どもたちに身近な自然との接し方、生命の大切さをわかりやすく伝えられるようにするために、実習を通して生き物の扱い方を身につける。				・ヒトを含め身近な生き物の特徴を子どもに分かりやすく説明できる。								
				・身近な生き物の飼育・栽培方法を説明できる。								
				・自然の植物を使った遊びを列挙できる。								
授業回数	授業計画								授業外学習及び準備等			
①	生き物って何か、生物多様性って何か考えよう								予習：生物の普遍的な特徴を調べる。 復習：生きていることを体感する。			
②	魚を観察しよう								予習：好きな魚について調べる。 復習：メダカの飼育をまとめる。			
③	草花のつくりを調べよう								予習：植物の体のつくりを調べる。 復習：身近な植物の観察・レポート完成。			
④	野外観察のすすめ								野外学習（帽子、あれば虫メガネ） 復習：野外観察のレポート完成。			
⑤	虫（主に昆虫）について調べよう								予習：昆虫の特徴を調べる。 復習：学習した虫を観察しまとめる。			
⑥	葉をじっくり見よう（葉脈標本づくり）								実習室（古歯ブラシ・葉 持参） 実習室、復習：実験レポート完成。			
⑦	身近な植物を調べよう								予習：各県の木と花を調べる。 復習：調べた雑草をまとめる。			
⑧	身近な鳥の特徴を知ろう								予習：鳥の特徴を調べる。 復習：身近な鳥を観察しまとめる。			
⑨	ダンゴムシ博士になろう								予習：ダンゴムシとワラジムシを区別する。 復習：ダンゴムシの飼育をまとめる。			
⑩	アメリカザリガニ博士になろう								予習：外来種について調べる。 復習：アメリカザリガニの飼育をまとめる。			
⑪	カタツムリ博士になろう								予習：カタツムリの特徴を調べる。 復習：カタツムリの飼育をまとめる。			
⑫	生き物の色の不思議さを体感しよう（ムラサキキャベツの色素の実験）								予習：アントシアンを含む植物を調べる。 実習室、復習：実験レポートを完成。			
⑬	愛玩動物や世界の動物についてまとめよう（生き物カードづくり）								予習：好きな動物の生態を調べる。 復習：生き物カード（レポート）を完成。			
⑭	ヒトの体を理解しよう（体のつくり）								予習：五臓六腑について調べる。 復習：肝臓・腎臓についてまとめる。			
⑮	ヒトの体を理解しよう（感覚）								予習：五感についてまとめる。 復習：錯覚についてまとめる。			
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考					
	評価に加える	評価に加える	20%	評価に加える	60%	20%						
使用教科書	特に指定しない。 （プリントを配布します。）					参考図書		適宜紹介します。				
学生への メッセージ	子どもの目線で生き物を見てみよう。					履修上の注意		色鉛筆・ハサミを用意。天候や実習室の都合等で、授業内容の順番を変更することがあります。				
実務経験と 科目の関連												

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期						卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	第2種				保育士
				前期	後期	前期	後期						
7	情報機器の操作	演習	2	■					○	○	○	生山 浩	該当しない
科目区分		教育職員免許法施行規則第66条の6に関する科目 / 教養科目（外国語・体育以外）										担当形態	単独
ディパ ルとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										○	現場での情報機器の活用を想定し、学級事務のお手紙やメディアを活用した補助教材を	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○	MicrosoftOffice（Word、Excel、PowerPoint）で作成していきます。	
カキム ルとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	MicrosoftOffice（Word、Excel、PowerPoint）で作成	
	「読む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										○	いきます。	
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入しに学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										《キーワード》		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○	教材制作、メディア作成、文書作成、図表作成、情報作成、情報集計、プレゼンテーション、パソコン	
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。													
《一般目標》													
・情報機器を活用するために必要な専門用語を理解するとともにコンピュータに慣れ親しむことを目標とする。						・情報機器を単体で使用するだけでなく、パソコン、インターネット、スマホ、プリンターなどを組み合わせて使用できるよう、情報機器に慣れ親しむことを第1の目標とする。							
・制作物の目標や目的に合わせて、使用するソフトウェアの選択や目標とする制作物を独力で制作できる技能の修得を目指す。						・お手紙、出席簿や成長記録、イラストやアニメーションなどを作成できるようMicrosoftOffice（Word、Excel、PowerPoint）の使い方を修得する。							
授業計画													
①	・ガイダンス：授業の受け方や評価方法について解説する。・基本操作：パソコンの起動、Windowsの基本操作、パソコン、スマホ、インターネット、USBメモリーについて解説、Teamsの使用										USBメモリーを持参		
②	・PowerPointによる教材制作①：教材「〇〇と〜れ？」の作成、スライドレイアウト、図形の配置、スライドの作成、スライドショー、発表者ツール、スライドの切り替えアニメーション										前週に出てきた専門用語の確認		
③	・PowerPointによる教材制作②：図形の・枠線・塗りつぶし等の設定、図形の編集、図形の結合、図形のクリックとアニメーション、アニメーションのタイミング設定、アニメーションの効果設定										前週に出てきた専門用語の確認		
④	・PowerPointによる教材制作③：音声の録音とトリミング、音声の再生タイミングの設定、オブジェクトのクリックと音声の再生、教材「〇〇と〜れ？」の独自ページの作成										前週に出てきた専門用語の確認		
⑤	・PowerPointによる教材制作④：教材「〇〇と〜れ？」の完成、Teamsを使った提出 ・PowerPointのまとめ：Formsを使った小テストの実施										前週に出てきた専門用語の確認		
⑥	・Excelによるクラス名簿の作成：Excelの基本操作と各種名称の紹介、オートフィルによる連番入力、名前入力、カナ入力（関数）、罫線、列幅調整、住所入力郵便番号、名簿の完成										前週に出てきた専門用語の確認		
⑦	・Excelによる出席簿の作成：基礎名簿シートの複製、データのコピーと貼り付け、年月日の入力と関数による曜日の表示、土日に色帯を入れる条件書式、出席簿のカレンダー機能の完成										前週に出てきた専門用語の確認		
⑧	・Excelによる出席簿の作成：データの入力規則（テーブル）の設定、関数による出欠席日数等の自動集計・月次集計、出席簿の完成										前週に出てきた専門用語の確認		
⑨	・Excelによる身体測定記録の作成：単位（cm、kg）の設定、関数によるクラスの平均値計算、クラス単位の棒グラフの作成、個人の推移折れ線グラフの作成										前週に出てきた専門用語の確認		
⑩	・Excelによる名簿・出席簿、身体測定記録の完成：Teamsを使った提出 ・Excelのまとめ：Formsを使った小テストの実施										前週に出てきた専門用語の確認		
⑪	・Wordを使ったフォーマルなお手紙（入園式の案内書）の作成：日付の入力と配置、宛先の入力と配置、送り主の入力と配置、タイトルの入力と配置、あいさつ文の挿入と編集、記書きの入力										前週に出てきた専門用語の確認		
⑫	・Wordを使ったフォーマルなお手紙（入園式の案内書）の作成：簡易地図の作成（キャンパス、図形）、切り取り線の作成、印刷、PDFの作成、入園式の案内書の完成、Teamsを使った提出										前週に出てきた専門用語の確認		
⑬	・Wordを使ったクラスだより（実習報告書）の作成：表の作成、列の分割・結合、罫線の各種設定、図形の挿入、図形の重なり設定（前面、背面）、フォーマットの完成										前週に出てきた専門用語の確認		
⑭	・Wordを使ったクラスだより（実習報告書）の作成：データの入力とフォントの設定、イラストの挿入（著作権について）、イラストの重なり設定、写真の挿入、クラスだよりの完成										前週に出てきた専門用語の確認		
⑮	・テスト：情報機器を扱う用語の理解度を確認する筆記テスト ・授業アンケートの実施												
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考		なし				
	評価に加えず	50%	評価に加えず	評価に加えず	30%	20%							
使用教科書	教科書は無し						参考図書		なし				
学生へのメッセージ	園児に興味・関心を持ってもらうために、パソコンに慣れ親しむ、専門用語、使い方を理解していきましょう！						履修上の注意						
実務経験と科目の関連													

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

1
年

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年		卒業	第2種	保育士		
				前期	後期	前期	後期					
8	体育講義	講義	1	■				○	○	○	会田秀樹	該当しない
科目区分		教育職員免許法施行規則第66条の6に関する科目 / 教養科目(体育)									担当形態	単独
ディパ と の 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》 教育者(保育者)として必要な体育(運動生理学・運動心理学・運動栄養学・体育史)の教養を深め、自己の健康管理(維持増進)ができるようにする。	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。											
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。											
か と の 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										《キーワード》	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。											
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。											
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												
《一般目標》 運動効果を正しく得るために、運動によって起こる心身の特性を理解する。						《到達目標(行動目標)》 ○運動時及び運動後の心身の生理的、心理的变化について分かる。 ○応急処置の方法を分かる。 ○ウォーミングアップとクーリングダウンの重要性について分かる。						
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	運動とストレス										自身のストレス度を自覚し、ストレス解消に運動を取り入れられるようにする。	
②	老化に伴う身体諸機能の変化と運動										健康寿命を理解し日々の生活に運動を取り入れるようにする。	
③	活性酸素と運動										健康寿命を理解し日々の生活に運動を取り入れるようにする。	
④	運動の種類と筋肉の関係										目的あった運動実践ができるようにする。	
⑤	ATPの再合成										スポーツ栄養を理解し、バランスの良い食事を実践に取り組む。	
⑥	運動に関する外相予防 水分摂取の重要性										RICEの有効性を理解し実践に生かせるよう復習する。	
⑦	ストレッチ										傷害予防を理解し日々の生活で実践する。	
⑧	運動の効果										運動の効果を理解し、自分に合った運動を日々の生活に取り入れ実践する。	
⑨	以下余白											
⑩												
⑪												
⑫												
⑬												
⑭												
⑮												
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度	参加度	備考				
	評価に加入	80%	評価に加入	評価に加入	評価に加入	20%						
使用教科書	指定しない							参考図書		特になし		
学生へのメッセージ	運動が心身に及ぼす効果を理解し、毎日の生活に取り入れよう。							履修上の注意		講義1単位の履修ですので、6回以上の出席が必要です。		
実務経験と科目の関連												

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目	
				1年		2年		卒業	第2種	保育士			
				前期	後期	前期	後期						
10	子どもの健康とあそび	演習	1	■				○	○	○	坂田康之	該当する	
科目区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項（健康）										担当形態	単独	
ディプロマ との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										○	健康で安全な生活ができる知識を学 ぶ。幼児の運動あそび全般として、発 達に応じた遊び方の知識、補助の仕 方、安全配慮、並びに運動会発表の仕 方を理解する。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○		
カリキュラム との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分 野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										《キーワード》		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										○	健康、あそび、心、戸外、安全、 模擬指導、怪我、食育、運動、縄 跳び、パルーン、組体操、一斉指 導	
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合さ せ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。												
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自 己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。												
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取 り組む力を育む。										○		
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》									
・あそびを通して、子どもの心を優先した保育ができる。				・領域「健康」に関する心身の発達を理解する。									
・あそびを通して、子ども達が戸外で体を動かせるように援助できる。				・子ども達の発達に応じた特徴と意義を理解する。									
・危険なあそび、危険な場所、災害時の行動等を理解する。				・幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解する。									
・発達に応じてあそびの内容を理解する。				・安全教育、怪我や病気の予防を理解する。									
・運動会で役に立つ競技の種目の指導法を身につける。				・各年齢にあった運動あそびの考案ができる。									
授業計画												授業外学習及び準備等	
①	領域「健康」のねらいと内容について 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わうあそび											領域「健康」に関する部分を読む	
②	仲間づくり・挑戦する心を育てるあそび 健康な心と体を育むとは 園生活での安全配慮に関する事例											園生活での安全配慮を考えよう	
③	危険な場所、危険なあそび方、災害時などの行動の仕方、安全に配慮した保育者の援助 幼児期に起こりやすい怪我の特徴とその対応											子どもを戸外であそばせる工夫	
④	自然の中で伸び伸びと体を動かす。身近な環境や遊具などを活用したあそび 幼児期に多様な動きを獲得する意義について												
⑤	乳幼児期の生活習慣の形成について（着脱衣・食事・睡眠・清潔・排泄）												
⑥	乳幼児の心身の発達のな特徴 ①身体の発達について 生活上の留意点												
⑦	乳幼児の心身の発達のな特徴 ②心の発達について												
⑧	発達に応じたあそびについて 幼児期運動指針の指導ポイント											グループワーク	
⑨	意欲を高めるあそび（道徳性・規範意識の芽生えを育てる）												
⑩	仲間と協力して取り組むあそび（協同性と自立心の芽生えを育てる）												
⑪	忍耐力を養うあそび												
⑫	子どもの安全管理・怪我・食育について												
⑬	仲間づくり、挑戦する心を育てるあそびの模擬実践											模擬指導に向けての準備	
⑭	意欲を高めるあそびの模擬指導											模擬指導に向けての準備	
⑮	仲間と協力して取り組むあそびの模擬指導											模擬指導についての課題を整理する	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考						
	評価に加える	評価に加える	20%	50%	20%	10%							
使用教科書	幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説 プリントを適宜配付						参考図書	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説					
学生への メッセージ	楽しく真剣に取り組んで下さい！						履修上の注意						
実務経験と 科目の関連	幼稚園副園長として、幼稚園生活全体における保健指導、安全指導に関わるとともに、幼稚園での正課活動や運動会、体育指導を長 くおこなっている教員による授業であり、領域「健康」における、子どもの発達や健康、安全について、運動あそびを通して理解する。												

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期						卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある教員による授業科目													
				1年		2年		卒業	第2種				保育士												
				前期	後期	前期	後期																		
11	子どもと人間関係	演習	1		■				○	○	○	相川怜美	該当する												
科目区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項（人間関係）										担当形態	単独													
ディプロマ との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》													
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。											現代の子どもの人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解するとともに、領域「人間関係」の指導の基礎として、人間関係の発達、他者との関係、協同性の育ち、道徳性や規範意識など、その後の人生を支える力になることを理解する。													
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○														
幼稚園 との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	《キーワード》													
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											人間関係 信頼関係 発達 協同性 道徳性や規範意識													
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。																								
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。																								
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。																								
《一般目標》													《到達目標（行動目標）》												
領域「人間関係」のねらいと内容を理解する 人と関わる力の育ちについて理解する 人間関係の発達について理解する 子どもの人間関係をとりまく現代的課題を理解する													・ 幼児を取り巻く人間関係における現代的課題や社会背景を理解したうえで、幼児期の人間関係の発達について理解する ・ 領域「人間関係」の指導・援助の基礎となる、乳幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身につける ・ 映像資料や事例などによる具体的な保育場面や乳幼児期の姿を通して、人間関係の発達や保育者の役割を理解し、説明できる ・ 愛着形成の重要性を理解し、説明することができる												
授業計画													授業外学習及び準備等												
① 領域「人間関係」のねらいと内容について													シラバスを精読し、分からない用語について調べておく。												
② 子どもと人間関係における現代的課題とは													配布資料を精読し、自身の考えをワークシートにまとめる。												
③ 乳児期から育つ人と関わる力の発達について													配布資料を精読し、自身の考えをワークシートにまとめる。												
④ 乳幼児期の遊びや生活の中で見られる人との関わる力の発達（保育者との関係や役割）													配布資料を精読し、自身の考えをワークシートにまとめる。												
⑤ 乳幼児期の遊びや生活の中で見られる人との関わる力の発達（友達との関係性）													配布資料を精読し、自身の考えをワークシートにまとめる。												
⑥ 乳幼児期の遊びや生活の中で見られる人との関わる力の発達（集団での関係）													配布資料を精読し、自身の考えをワークシートにまとめる。												
⑦ 乳幼児期の「自立心」の育ちと発達													配布資料を精読し、自身の考えをワークシートにまとめる。												
⑧ 幼児期の「協同性」の育ちと発達													配布資料を精読し、自身の考えをワークシートにまとめる。												
⑨ 幼児期の「協働性」「道徳性・規範意識」の芽生えと発達													配布資料を精読し、自身の考えをワークシートにまとめる。												
⑩ 幼児期の人間関係への広がりについて（家庭・園生活・地域）													配布資料を精読し、自身の考えをワークシートにまとめる。												
⑪ 地域社会との連携小学校との連携について（学期以降の育ちのつながり）													配布資料を精読し、自身の考えをワークシートにまとめる。												
⑫ 人と関わる力の育ちがその後続く一人一人の人生を支えることの理解													配布資料を精読し、自身の考えをワークシートにまとめる。												
⑬ 乳幼児期の人間関係の発達における保育者の役割													配布資料を精読し、自身の考えをワークシートにまとめる。												
⑭ テーマ（課題）に沿った指導計画主の作成													発表に向けた準備												
⑮ 各グループの発表とディスカッション																									
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考																		
	評価に反映	10%	45%	10%	20%	15%																			
使用教科書	幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説・保育所保育指針解説 その他レジュメ												参考図書	授業内で紹介する											
学生へのメッセージ	領域は1領域のみで成り立つものではありません。他の領域で学んだことを意識しながら「人間関係」について学びを深めていきましょう。事例や保育現場の資料を丁寧に読み解き、関わるのなかでの状況や保育者の心づかいや価値観について、主体的に目的意識を持って学びましょう。												履修上の注意												
実務経験と科目の関連	インターナショナルスクール幼児部、小学校での勤務経験を活かし、保育現場における事例や現場での事例などを題材とした講義・演習を行いながら、人と関わる力の育ちや発達、保育者の役割について教授する。																								

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある教員による授業科目		
				1年		2年						
				前期	後期	前期	後期	卒業	第2種	保育士		
12	子どもと環境	演習	1	■				○	○	○	瑞穂 優	該当しない
科目区分		領域及び保育内容の指導法に関する科目		必要事項		領域に関する専門的事項（環境）				担当形態	単独	
ディプロマ 取得との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。								○	《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。								○	保育内容「環境」の指導で必要となる感性を養うとともに、子どもが「環境」に興味、関心をもって関わる発達の様相について学ぶ		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。								○			
幼稚園 実践との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。											
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。								○			
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入しに学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。									《キーワード》		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。								○	・5領域 ・10の姿		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。								○	・人的環境・物的環境 ・自然環境・社会的環境 ・環境にかかわる子どもの姿		
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》								
・子どもを取り巻く環境（物的・人的・安全等）とその重要性について理解する				・子どもの身近な環境の種類や特徴・性質及びその重要性を列挙できる								
・環境に関する子どもの思考・認知的発達・科学的発達の特徴を理解する				・子どもの環境に関する専門的知識が説明できる								
・子どもを取り巻く望ましい環境が具体的に想定できる				・保育実践を想定し、子どもの望ましい環境について具体的な計画と提案できる								
授業回数		授業計画							授業外学習及び準備等			
①	オリエンテーション 「環境」とは何か							<事前> 教科書の目次を確認する <事後> ワークシートを完成する				
②	子どもの主体性（能動性、好奇心、探求心、有能感）と環境							<事前> 教科書第2章を通読する <事後> ワークシートを完成する				
③	子どもの発達と人的環境							<事前> ワークシートを確認する <事後> ワークシートを完成する				
④	子どもの発達と物的環境（安全安心な環境とESD）							<事前> 教科書第3章を通読する <事後> ワークシートを完成する				
⑤	子どもの発達と自然環境							<事前> 教科書第4章を通読する <事後> ワークシートを完成する				
⑥	子どもの発達と社会的環境							<事前> 教科書第5章を通読する <事後> ワークシートを完成する				
⑦	子どもを取り巻く物的環境①（自然・・・季節と天気、地域）							<事前> ワークシート（事前）を完成する <事後> ワークシートを完成する				
⑧	子どもを取り巻く物的環境②（自然・・・動植物）							<事前> ワークシート（事前）を完成する <事後> ワークシートを完成する				
⑨	子どもを取り巻く物的環境③（飼育、栽培）							<事前> ワークシート（事前）を完成する <事後> ワークシートを完成する				
⑩	子どもを取り巻く物的環境④（道具、素材）							<事前> ワークシート（事前）を完成する <事後> ワークシートを完成する				
⑪	子どもを取り巻く社会的環境①（文字・数量・図形）							<事前> ワークシート（事前）を完成する <事後> ワークシートを完成する				
⑫	子どもを取り巻く社会的環境②（情報・標識）							<事前> ワークシート（事前）を完成する <事後> ワークシートを完成する				
⑬	ワーク①『幼稚園を設計しよう』							<事前> いろいろな幼稚園のHPを見てくる <事後> 課題（幼稚園）を完成する				
⑭	ワーク②教材研究発表会							<事前> 発表の準備（課題）をする <事後> 発表のまとめ（課題）をする				
⑮	まとめ 環境構成と保育者の役割							<事前> これまでのワークシートを確認する <事後> 提出物を整理する				
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考					
	評価に加える	評価に加える	30%	30%	30%	10%						
使用教科書	久保健太・高嶋景子・宮里境美 編著 保育内容「環境」ミネルヴァ書房						参考図書	・幼稚園教育要領―平成29年告示 ・保育所保育指針―平成29年告示 ・幼稚園教育要領―平成29年告示				
学生へのメッセージ	子どもの「やりたい」を大切に保育環境づくりについて学んでほしいと思います。						履修上の注意	提出期限を遵守し、模擬保育では積極的に取り組みましょう				
実務経験と科目の関連												

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

1
年

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年		卒業	第2種	保育士		
				前期	後期	前期	後期					
13	子どもの文化と言葉	演習	1	■				○	○	○	上垣内伸子	該当しない
科目区分		領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門事項（言葉）								担当形態		単独
ディ・アム・サとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。								○		《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。								○		①言葉の意義と機能を理解するための基礎的知識を解説する。②幼児が豊かな言葉を身に付け、想像する楽しさを広げるための知識を解説する。③幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする児童文化財の知識と実践方法を解説する。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。								○			
	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。								○			
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。								○			
加わらむ・サとの関連	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。								○		《キーワード》	
	学習評価は、成績評価基準をシラパスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようになる。								○		①言葉の意義と機能 ②言葉に対する感覚 ③言葉の楽しさ ④想像する楽しさ ⑤児童文化財	
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。								○			
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》								
①人にとっての言葉の意義と機能を理解する。②乳幼児の言葉の発達過程において、乳幼児が自らの言葉の機能に気付く道筋を理解する。③幼児が言葉に対する感覚を豊かにし、言葉の楽しさを実感できるような活動を実践し実践に生かす。④乳幼児の豊かな言葉の獲得に役立つ児童文化財の意義を理解し活用法を理解して実践に生かす。				①言葉の意義と機能を理解し説明できる。②乳幼児の言葉の発達過程を理解し、乳幼児の言葉の機能の気づきを想定し説明できる。③児童文化財を教材とする保育実践を想定し、評価の高い名作絵本を分類し有効性を説明できる。④言葉を育て、楽しさを広げる児童文化財の意義を理解し、活用法と指導案を作成し実践できる。								
授業回数		授業計画								授業外学習及び準備等		
①		＜領域「言葉」のねらい、内容の取扱いの解説＞ 領域「言葉」を踏まえ、幼児の言葉に対する感覚を豊かにする実践についての基礎的な知識について説明する。								領域「言葉」のねらいと内容の取扱いについてまとめ、素話の発表に向けて練習を始める。		
②		＜言葉の意義と機能＞ 人間にとっての話し言葉・書き言葉の意義を考え、誕生からの言葉の獲得と発達過程を理解する。								「言葉とは何か」について、自分の言葉でまとめる。身近にいる幼児の言葉に耳を傾け、記録する習慣をつける。		
③		＜言葉の特質と機能＞ 幼児期の言葉の発達過程を理解し、言葉の持つ「伝達」「思考」「行動調整」等の特質と機能について考える。								乳幼児の言葉の獲得と発達過程についてまとめ、素話の発表に向けて練習をする。		
④		＜言葉に対する感覚＞ 素話の実践を通して、言葉の「楽しさ」と「美しさ」への気づきを、幼児にいかにか与えることができるかを検討し、グループでまとめ発表する。								素話をするときの留意点をまとめ、自分の語り方を振り返り、改善点を明確にする。		
⑤		＜言葉に対する感覚＞ 言葉の感覚を豊かにする言葉遊びを体験し、言葉遊びと幼児の発達との関連を考える。								言葉を豊かにする実践の意義を、幼児の発達との観点から説明する。		
⑥		＜児童文化財の特質と意義＞ 言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財について、基礎的な知識を身に付け、それぞれの特質と意義について考える。								児童文化財の特質と意義についてまとめ、その特質を分類・整理する。自分の好きな絵本を用意する。		
⑦		＜児童文化財の実践＞ 幼児の発達における児童文化財の意義について理解し、説明できる。（自分の好きな絵本の発表、絵本に描かれた子どもの気持ちの読み取り）								絵本に描かれた子どもの気持ちを確かめる。絵本に描かれた子どもの気持ちを読み取りまとめる。		
⑧		＜児童文化財を用いた保育の実践＞ 子どもと共に物語や絵本と触れ合う実践を想定し、グループで絵本の読み聞かせを行い、望ましい実践について考える。								絵本の読み聞かせを通して、自己課題を整理するとともに、自身の実践力を高める。		
⑨		＜幼児が仲間との一体感を感じる児童文化財＞ 共に鑑賞する仲間との一体感を生み、その後の言語表現をより豊かにする参加型の絵本をグループで考えて製作する。								一体感と共感をもたらす児童文化財を理解する。グループで楽しむ練習をする。		
⑩		＜幼児が仲間との一体感を感じる児童文化財＞ 仲間との一体感と楽しさを共有する場の状況を生み出す工夫について、絵本の読み聞かせのグループ発表を通して理解する。								動きとそれに伴う言葉の適切性を理解する。		
⑪		＜言葉に対する感覚＞ 児童文化財を用いた自己紹介を考え、発表することを通して、幼児に対しての言葉による伝えあいの楽しさを味わうとともに、その意義を理解する。								言葉の楽しさと美しさについて、自分の言葉でまとめる。		
⑫		＜言葉の特質の理解と感覚を豊かにする体験＞ 物の「名前」に着目し、命名の由来や理由を考えながら自らが新しい言葉を生み出し表現する。								言葉の機能について理解し、説明する。		
⑬		＜言葉に対する感覚／人間にとっての言葉の意義や機能＞ 自分が出会った幼児の姿を言葉にし、詩作することによって自身の言葉に対する感覚と幼児理解を深める。								あらためて、言葉の意義と機能について考える。		
⑭		＜言葉に対する感覚／人間にとっての言葉の意義や機能＞ 自作の詩を発表し、取り上げた幼児に対する理解を含めて発表し、言葉の機能についての理解をさらに深める。								あらためて、「言葉とは何か」について、自分の言葉でまとめる。		
⑮		＜本授業のふりかえり＞ 領域「言葉」のねらいと内容を再確認し、幼児が言葉の感覚を豊かにし、言葉の楽しさと美しさを実感できる実践について理解を深める。								言葉の意義、言葉に対する感覚、児童文化財について、まとめる。		
評価内容・方法		試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考				
		評価に加える	評価に加える	40%	10%	40%	10%					
使用教科書		指定せず。必要に応じて資料配布。						参考図書		『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指導解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』		
学生へのメッセージ		言葉の面白さと美しさ、絵本など乳幼児のための児童文化財に触れ、「言葉」の魅力を発見しましょう。						履修上の注意		グループワークや発表の機会が多く持たれるので、積極的な学習参加に努めてください。		
実務経験と科目の関連												

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある教員による授業科目		
				1年		2年						
				前期	後期	前期	後期	卒業	第2種	保育士		
14	子どもの言語文化表現	演習	1		■			○	○	○	横関由紀	該当する
科目区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項（言葉）								担当形態	単独		
ディプロマ との関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。								○	《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									子どもが、豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な、領域「言葉」の理解につながる基礎的な知識を学ぶ。子どもが言葉を習得していく過程を学ぶだけでなく、保育を目指すものの自身の言葉に対する感覚を豊かにする必要がある。言葉を育て、想像を豊かにする児童文化財を通して、実践しながら理解を深める。		
カリキュラム との関連	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。								○	《キーワード》		
	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									①言葉の意義と機能 ②言葉に対する感覚 ③言葉の楽しさと美しさ ④お話づくり ⑤紙芝居 ⑥劇遊び		
	「読む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。								○			
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。								○			
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。											
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。								○			
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》								
①言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解する ②幼児にとっての児童文化財の意義を理解する ③児童文化財を通して子どもと楽しむ読み語りを身に付ける ④想像力を豊かに広げ作品を作成し発表することで保育現場での実践力を身に付ける				①言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践を幼児の発達の特徴と合わせて説明できる ②児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）について基礎的な知識を身につける ③児童文化財を通してどのように保育に取り入れていくか理解し実践できる								
授業回数									授業外学習及び準備等			
①	子どもにとって「ことば」とは 子どもの言葉の発達過程から考える オノマトペ（擬態語、擬音語）を使った気持ちの伝え方（言語表現）を学ぶ								教科書（42～54）			
②	どのように言葉を獲得していくか 言葉の楽しさ、美しさを感じよう（演習）わらべうた・伝承遊びを用いて								教科書（54～65）			
③	言葉に対する感覚を豊かにする実践とは（DVD鑑賞）「言葉あそび」の色々と保育への取り入れ方 3歳児の言葉遊びを事例から学ぶ								レポート			
④	言葉に対する感覚を豊かにする実践 子どもと楽しむ「言葉遊び」を考える 4歳児の言葉遊びを事例から学ぶ								教科書（185～192） レポート			
⑤	言葉を楽しむ お話の世界を楽しむために想像する楽しさを広げる「児童文化財」とは 5歳児の言葉遊びを事例から学ぶ								レポート			
⑥	絵本読み聞かせ 絵本の種類 読み聞かせを通して絵本についての理解を深める								教科書（119～120）			
⑦	絵本昔話 絵カードを用いたお話づくり 童話を題材に取り上げた歌（演習）								教科書（130～135）			
⑧	お話づくり 物語の続きを考えて話を作る 保育での取り入れ方を学び演習する											
⑨	お話づくり発表 表現法の工夫を考える 効果音を用いた音楽絵本・物語（鑑賞）								レポート			
⑩	紙芝居 紙芝居の種類と選び方、扱い方を学ぶ 読む・演じるを意識した演習								教科書（135～139）			
⑪	表現の世界を楽しむための劇のシナリオ作り 年齢に応じた言葉の表現を考える								教科書（154～157）			
⑫	劇遊びの小道具づくり 及び 構成調整											
⑬	劇遊び演習 舞台上の場面転換を考える											
⑭	劇遊び演習 リハーサル 携帯等を用いて録画し検討する											
⑮	劇発表 授業の振り返りとまとめ											
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考					
	評価に加える	評価に加える	30%	30%	25%	15%						
使用教科書	改訂新版 保育内容「言葉」言葉とふれあい、言葉で育つ（東洋館出版社）						参考図書	授業内で必要に応じて紹介します。				
学生への メッセージ	言葉に対する感覚を豊かにし、言葉で表現する楽しさを幼児の目線に立って一緒に考えましょう。日常の言葉遊びから、保育者らしい楽しい言葉を使いましょう。						履修上の注意	移動教室の際、上履きが必要になる場合があります。				
実務経験と 科目の関連	幼稚園教諭の経験をもとに、言葉遊びから児童文化財を用いた保育現場での活用法まで実践力が身につくよう教授する											

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期						卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目			
				1年		2年		卒 業	第 2 種				保 育 士		
				前期	後期	前期	後期								
15	子どもの音楽基礎演習	演習	1	■					○	○	○	永島晴美	該当しない		
科目区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項（表現）										担当形態	単独			
ディ・ア ム・サとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》 領域「表現」の基礎となる理論と実践 について、身体、音楽の様々な表現 について基礎的な知識と技能を学ぶ。子 どもの表現を支えるため、学生自らも 自身の表現を通して気づきや工夫をし ながら、理解を深め様々な表現力を身 につける。			
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。														
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。														
かむら ム・サとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分 野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	《キーワード》 歌唱・模倣あそび・リトミック リズムあそび			
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										○				
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入しに学びと実践を融合さ せ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。														
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自 己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。														
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取 組む力を育む。														
《一般目標》 表現に必要な、音楽の基礎知識を身につける 様々な表現活動の方法を知る。 保育者として必要な表現力を身につける				《到達目標（行動目標）》 子どもの表現を支えるため、学生自身の表現を豊かに活動する。 様々な表現活動について理解し、工夫することができる。 子どもの素朴な表現を見出し、受け止め、共感するために、子ども の表現の姿を理解する。											
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等				
①	領域「表現」のねらいと内容・表現のための基礎知識（音符とリズム）										幼稚園教育要領解説 領域《表現 》を読む				
②	表現のための基礎知識														
③	様々な表現活動（子どもの表現の実態）										幼稚園教育要領解説p240				
④	様々な表現活動（模倣あそび・言葉あそび・リズムあそび）										携帯等録画機能のある機器を持参				
⑤	3歳児の表現と発達（保育者の関わり）										幼稚園教育要領解説p238				
⑥	4歳児の表現と発達（保育者の関わり）														
⑦	5歳児の表現と発達（保育者の関わり）														
⑧	あそび歌の意義とわらべうた										幼稚園教育要領解説p240				
⑨	子どもと楽しむ歌唱表現と教材研究（生活のうた）														
⑩	子どもと楽しむ歌唱表現と教材研究（季節や行事のうた）														
⑪	子どもと歌唱表現するための伴奏とその導入・環境構成の工夫														
⑫	打楽器の音色を知る（打楽器の種類・演奏法）										幼稚園教育要領解説p240				
⑬	楽器による表現（子どもの即興演奏を引き出す）														
⑭	楽器による表現（リズム楽器アンサンブル）										携帯等録画機能のある機器を持参				
⑮	楽器による表現活動を工夫する														
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考		授業テーマに関する気づきをまとめたもの（レポート・作品課題）な ど、学生自身の学びを可視化したものと、学生自身の表現への取り組 みを中心に評価する。						
	評価に加える	評価に加える	30%	20%	35%	15%									
使用教科書	幼稚園教育要領解説 Colla Parte 心を育む子どもの歌 適宜レジュメを配布					参考図書		幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 保育所保育指解説							
学生への メッセージ	音楽の基礎知識を理解し、子どもの表現を受け止める感性 を磨きましょう。					履修上の注意									
実務経験と 科目の関連															

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期						卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	第2種				保育士
				前期	後期	前期	後期						
16	子どもの発達と音楽表現	演習	1		■				○	○	○	渋谷り子	該当しない
科目区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項（表現）										担当形態	単独	
ディパ ムとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。											この授業は、領域《表現》における専門的事項を学ぶ科目です。前期に引き続き、領域《表現》のねらいと内容の理解を深めながら、さまざまな音楽に関する専門知識と豊かな感性と表現に関する活動を、自ら体験することを通して学びます。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。												
カキム ムとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	《キーワード》	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										○		
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。											領域表現・環境と音・器楽活動 身体表現	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。												
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》							
○領域《表現》のねらいと内容を理解する ○音楽表現、身体表現の基礎的な知識と技能を修得する ○子どもの感性を養うための音楽活動の重要性や内容を理解する						1) 年齢ごとの音楽表現の発達を知る 2) 年齢ごとの発達に即した音楽あそびや活動を知る 3) 周囲の表現を受け止め、共感することができる 4) 表現する楽しさを実感し、工夫することができる 5) 協働して表現することができる 6) 基礎知識を活かして子どもの表現活動を展開することができる							
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	領域「表現」のねらいと内容の理解 ノンバーバルコミュニケーション 要領・指針の位置づけと相互の共通点 音に気づく感じる（風船をつかって）										毎時間リアクションペーパーの提出があります		
②	音への興味を育む活動 ～音拾い装置を使って身近な物の音を聞いてみよう～												
③	イメージを表現する ～音の色、形を考えよう～												
④	イメージを表現する ～音を聴いて表現する～ 【音を描く】												
⑤	イメージを表現する ～音楽を聴いて描こう、協働して表現を楽しもう～ 【指えのぐをつかおう】												
⑥	環境と音 ～自然の中の音探し～ 【絵本 もりのおとぶくろ】										近くの公園で活動		
⑦	環境と音 ～もりのおとぶくろの活動を考える～ （グループ活動）												
⑧	環境と音 ～もりのおとぶくろの活動～ （発表と共有、活動の考察）												
⑨	イメージにあった音を探そう 【おとえほん】												
⑩	絵本と音楽・リズムダンス【はらべこあおむし、できるかな】												
⑪	身体をつかった表現 ～テーマに合わせて動きを創作する～												
⑫	器楽活動について ～ミュージックベルとトーンチャイム～												
⑬	器楽活動について ～鍵盤打楽器の奏法～ 【マリンバ、グロッケン、シロフォン】												
⑭	器楽活動について ～鍵盤ハーモニカと打楽器の指導～												
⑮	器楽活動について ～指導のポイントと保育者の配慮 子どもの遊びを豊かにする表現～ 【聖者の行進】												
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考		授業テーマに関する気づきをまとめたもの（レポート・作品課題）など、学生自身の学びを可視化したものと、学生自身の表現への取り組みを中心に評価する。				
	評価に加えず	評価に加えず	60%	25%	評価に加えず	15%							
使用教科書	保育者養成のための音楽表現（大学図書出版）						参考図書		幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説 わくわく音遊びでかんたん発表会（すずき出版） 純田淳子				
学生へのメッセージ	自らの感性と五感を働かせて、取り組みましょう。						履修上の注意		お天気により、授業内容を入れ替えることがあります				
実務経験と科目の関連													

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年				
				前期	後期	前期	後期			
17	子どもの発達と造形表現Ⅰ	演習	1	■				○ ○ ○	森高光広	該当する
科目区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項（表現）								担当形態	単独
ディプロマ との関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。								《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。								乳幼児は自ら生きるための力を様々な経験や行動を通して獲得していく。5領域の中で「造形」の学びは大切である。子どもの感性を育み、主体性を大切に、自らの感性を駆使して楽しく制作することの大切さを再確認することを目的とする。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。								○	
カリキュラム との関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。								○	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。								○	
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入し学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。								○	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。								○	
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。								・ 既成概念からの脱却 ・ 感じ、考え、試み、工夫する ・ 発達の段階による活動の違い ・ 主体的な活動の援助	
《一般目標》					《到達目標（行動目標）》					
小学校の「図画工作」、中学校の「美術」などの過去の経験を踏まえ、乳幼児の発達や行動の中で「人間としての営み」として初めての行為である造形活動を支え、より豊かなものとするための援助ができるように、具体的な制作からその基礎・基本を自ら楽しく作る経験を通して学ぶ。現場に出て自ら手立てを探り、探求するための基礎を学ぶ。					大人の考えや方法を教えることなく、子どもが主体的に感じ、考えて自ら行動することと見守る大人が身近にいることは大切である。子どもを主体的な人間に育てていくために、子どもの造形活動でもその主体性を踏まえて援助ができるように、制作や活動の具体的な手立ての基礎を学び、教育現場でも応用できるための力を身につける。					
授業計画										
①	保育内容表現のねらいと内容 体験から学びを振り返る（ものとのかかわることからの学びを再認識する。）☆作品画像各自保存、随時確認します								○ 常に汚れても汚されてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ	
②	体験的学び 紙素材-1（ちぎる・破く活動）								○ 常に汚れても汚されてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ	
③	体験的学び 紙素材-2（切る活動）								○ 常に汚れても汚されてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ	
④	体験的学び 紙素材-3（工作 平面の視点から）								○ 常に汚れても汚されてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ	
⑤	体験的学び 紙素材-4（工作 半立体面の視点から）								○ 常に汚れても汚されてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ	
⑥	体験的学び 描く-1（絵の具）								○ 常に汚れても汚されてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ	
⑦	体験的学び 描く-2（色鉛筆・クレヨン・色ペン）								○ 常に汚れても汚されてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ	
⑧	体験的学び イメージを広げる-1（季節のイメージから）								○ 常に汚れても汚されてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ	
⑨	体験的学び イメージを広げる-2（海のイメージから）								○ 常に汚れても汚されてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ	
⑩	体験的学び つくる-1（つくってあそぶ①）								○ 常に汚れても汚されてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ	
⑪	子ども理解をふまえた応用-1（子どもの意欲を引き出す設定①）								○ 常に汚れても汚されてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ	
⑫	体験的学び つくる-2（つくってあそぶ②）								○ 常に汚れても汚されてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ	
⑬	子ども理解をふまえた応用-2（子どもの意欲を引き出す設定②）								○ 常に汚れても汚されてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ	
⑭	体験的学び つくる-3（つくってあそぶ③）								○ 常に汚れても汚されてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ	
⑮	子ども理解をふまえた応用-3（子どもの意欲を引き出す設定③）まとめ								○ 常に汚れても汚されてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考	欠席の場合、当日の課題レポートと欠席回分の制作の提出で加点します。締め切りについては要相談		
	評価に加えず	評価に加えず	35%	15%	35%	15%				
使用教科書	『造形表現』竹井史編著、森高光広・他(著)、一藝社、2200円 ISBN-13: 978-4-86359-155-4						参考図書 幼稚園教育要領（平成29年3月告示、文部科学省） 保育所保育指針（平成29年3月告示、厚生労働省） 幼児教育施設認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示、内閣府/文部科学省/厚生労働省）			
学生へのメッセージ	楽しく制作することを通して、子どもの目線で考えて具体的な造形活動の援助ができるように学びます。						履修上の注意 課題は期限内提出を基本とします。制作した作品などの画像は各自スマホで保存します。ICT活用を随時します。			
実務経験と科目の関連	小学校低学年児童、幼稚園や保育園での園児に対する造形活動の指導経験等を活かし、子どもの育ちと行動の理解及び発達に応じた造形活動とその援助について伝える									

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期						卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	第2種				保育士
				前期	後期	前期	後期						
19	保育内容健康	演習	1		■				○	○	○	会田秀樹	該当する
科目区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法（情報機器及び活用を含む）										担当形態	単独	
ディプロマ ポリシーとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》 幼児が自ら健康で、安全な生活を作り出す力を養うことができるように、幼児期に育みたい資質能力を理解し、遊びを通して発達に即した指導ができる方法を身につける。		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。												
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。												
カリキュラム ポリシーとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										○		
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。												
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学習を振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												
《一般目標》													
○領域「健康」のねらい及び内容を理解する。 ○領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育方法を身につける。													
《到達目標（行動目標）》 ○ねらい内容について全体を理解する。幼児が経験して身に付ける内容について指導上の留意点を理解している。小学校との教科等とのつながりを理解している。 ○情報機器及び教材の活用を理解し活用できる。模擬保育や振り返りを通して保育を改善する視点を身に付ける。具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。													
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	健康の概念の把握												
②	領域「健康」のねらい、内容、内容の取扱いについて 幼児期終わりまでに育ってほしい姿										課題＊指定日に提出ができない場合評価は50%換算とする。		
③	幼児のからだの特徴について（身体的特徴・機能的特徴）										小テストもしくは課題＊小テストを欠席した者は課題とし評価は50%換算とする。		
④	幼児の心の特徴について（情緒・パーソナリティ・社会性・粘り強さ）										小テストもしくは課題＊小テストを欠席した者は課題とし評価は50%換算とする。		
⑤	基本的生活習慣（幼児の生活スタイル）「早寝早起き朝ご飯」 情報機器及び教材の活用方法										小テストもしくは課題＊小テストを欠席した者は課題とし評価は50%換算とする。		
⑥	戸外遊び・散歩の意義 戸外へと導く手段 お散歩マップの活用												
⑦	安全指導 遊びの中で育む安全・計画的な指導で育む安全 ヒヤリハットの活用方法										お散歩マップの作成提出＊指定日に提出ができない場合評価は50%換算とする。		
⑧	実践方法・活動から育む心身の健康 色々な遊び提供												
⑨	模擬保育1伝承遊び かるたを題材として健康指導 小学校教育へのつなぎ												
⑩	ディスカッション・グループにて作製												
⑪	かるたの実験 健康指導につながる有効的な遊び方 振り返り 評価の仕方										作品提出＊指定日に提出ができない場合評価は50%換算とする。		
⑫	模擬保育2すくすく遊び すくすくを題材として健康指導 小学校教育へのつなぎ												
⑬	作製												
⑭	すくすくの実験 健康指導につながる有効的な遊び方 振り返り 評価の仕方										作品提出＊指定日に提出ができない場合評価は50%換算とする。		
⑮	指導案作成・主体的な活動を育む遊び										課題提出＊指定日に提出ができない場合評価は50%換算とする。		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考						
	評価に加えず	30%	評価に加えず	評価に加えず	50%	20%							
使用教科書	事例で学ぶ保育内容 領域 健康 (萌文書林)					参考図書	幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説書 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説						
学生へのメッセージ	先生は子どもたちの見本です。自身の健康管理をしっかり。					履修上の注意	教科書は授業期間内に読破すること。						
実務経験と科目の関連	幼稚園での正課及び課外の体育指導の経験から幼児期に育むべき資質能力の理解と、遊びを通じた発達に即した指導方法が身につくよう伝える。												

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期						卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	第2種				保育士
				前期	後期	前期	後期						
21	保育内容環境	演習	1		■				○	○	○	瑞穂 優	該当しない
科目区分		領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法（情報機器の活用を含む）									担当形態	単独	
ディパ ボリとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									○	《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										領域「環境」のねらいや内容について理解を深め、子どもが好奇心や探求心をもって身近な環境に関わるための保育を構想する方法を学ぶ		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。									○			
カキム ボリとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。												
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。									○			
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										《キーワード》		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○	・5領域 ・10の姿 ・人的環境・物的環境 ・自然環境・社会的環境 ・環境にかかわる子どもの姿		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》									
・保育内容「領域」のねらい及び内容、基本的構造を理解する ・子どもの取り巻く環境を理解し、経験して身に付ける環境と指導上の留意点を理解する				・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された幼児教育の基本、保育内容「環境」のねらい及び内容が説明できる ・子どもの発達や学びの過程を理解し、具体的な保育場面を想定し、適切な保育の環境構成の知識と方法を身に付ける									
授業回数	授業計画									授業外学習及び準備等			
①	保育の基本と領域「環境」									<事前> 教科書第6章を通読する <事後> ワークシートを完成する			
②	「環境」にかかわる現代的課題と保育									<事前> ワークシート（事前）を完成する <事後> ワークシートを完成する			
③	乳児保育における「環境」									<事前> 教科書第7章を通読する <事後> ワークシートを完成する			
④	物とのかかわりを支える保育の展開（探求心を育てる）									<事前> 教科書第8章を通読する <事後> ワークシートを完成する			
⑤	自然とのかかわりを支える保育の展開（好奇心を育てる）									<事前> 教科書第9章を通読する <事後> ワークシートを完成する			
⑥	社会とのかかわりを支える保育の展開（子どもの思いと環境）									<事前> 教科書第10章を通読する <事後> ワークシートを完成する			
⑦	物（自然）とのかかわりを支える保育指導案の作成①（ICTを活用した計画立案と教材研究）									<事前> 教材研究をする <事後> 指導案作成の準備をする			
⑧	物（自然）とのかかわりを支える保育指導案の作成②（指導案作成）									<事前> 指導案作成の準備をする <事後> 指導案を完成する			
⑨	物（自然）とのかかわりを支える保育指導案の作成③（模擬保育）									<事前> 模擬保育の準備をする <事後> 模擬保育のまとめをする			
⑩	物（自然）とのかかわりを支える保育指導案の作成④（評価・省察）									<事前> 模擬保育を振り返る <事後> 指導案を改善する			
⑪	社会とのかかわりを支える保育指導案の作成①（ICTを活用した計画立案と教材研究）									<事前> 教材研究をする <事後> 指導案作成の準備をする			
⑫	社会とのかかわりを支える保育指導案の作成②（指導案作成）									<事前> 指導案作成の準備をする <事後> 指導案を完成する			
⑬	社会とのかかわりを支える保育指導案の作成③（模擬保育）									<事前> 模擬保育の準備をする <事後> 模擬保育のまとめをする			
⑭	社会とのかかわりを支える保育指導案の作成④（評価・省察）									<事前> 模擬保育を振り返る <事後> 指導案を改善する			
⑮	まとめ（保育と環境）									<事前> これまでの課題を見直す <事後> 提出物を整理する			
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考						
	評価に加える	評価に加える	30%	20%	30%	20%							
使用教科書	久保健太・高峰景子・宮里境美 編著 保育内容「環境」ミネルヴァ書房						参考図書		・幼稚園教育要領—平成29年告示 ・保育所保育指針—平成29年告示 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領—平成29年告示				
学生へのメッセージ	子どもの「やりたい」を大切にする保育環境づくりについて学んでほしいと思います。						履修上の注意		提出期限を遵守し、模擬保育では積極的に取り組みましょう				
実務経験と科目の関連													

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格取得	授業担当者	実務経験のある教員による授業科目		
				1年		2年						
				前期	後期	前期	後期					
22	保育内容言葉	演習	1		■			○	○	○	上垣内伸子	該当しない
科目区分		領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法（情報機器及び活用を含む）							担当形態	単独		
ディグ グの との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。							○	《授業の概要》			
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。							○	発達理解、保育援助、教材研究、自身の言葉への感性を育むという、4つの観点から授業を構築する。			
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。							○	子どもを愛し安心感を与える言葉かけ、遊びの発展を促す言葉かけ、気持ちや考えを反らに伝えたりの傾聴による形成を育てる言葉かけなどの保育援助を考える。			
	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。							○	後半には、保育実習を構成しての絵本の読み聞かせをし、絵本を鑑賞したり、絵本を作ったり合評する。化の作り手としての自己を想像することを望むものである。			
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											
加わら グの との 関連	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入しに学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。								《キーワード》			
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。							○	①領域「言葉」の特性 ②伝え合う喜び ③自己表現と情緒の安定			
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。							○	④乳幼児の発達段階 ⑤模擬保育と保育構想 ⑥保育実践の動向			
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》								
①幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領に示される領域「言葉」の指導法について理解し、指導上の留意点について説明できる。②乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に理解し、その知識を活用して保育実践を行うことができる。③絵本等の児童文化財についての教材研究を行い、保育計画を立てるために必要な事項を理解する。④詩作や絵本作り、劇遊びなどを通して、言葉に対する感覚を養う。				①3要領・指針に示される領域「言葉」の指導法について理解し、説明することが出来る。②乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に理解し、その知識を活用して保育実践を行うことができる。③絵本等の児童文化財についての教材研究を行い、計画を立てたり、実践したりすることができる。④詩作や絵本作り、劇遊びなどを通して、言葉に対する感覚を養い、豊かに表現することができる。								
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等				
①	〈子どもの発達〉コミュニケーション能力の発達：乳幼児期の言葉とコミュニケーションの発達①（発達の過程）							乳幼児期の言葉とコミュニケーションの発達について、自分自身も時代やこれまでの実習等で出会った子どもの姿を思い浮かべながら考えておく。				
②	〈子どもの発達〉コミュニケーション能力の発達：乳幼児期の言葉とコミュニケーションの発達②（発達の理論）							乳幼児の言葉の発達についてのまとめのレポートを作成させる。				
③	〈言葉に対する感性を養う〉子どもの詩の鑑賞／「子どもの言葉」の表現特性とその後ろにある心情の理解							幼稚園実習や日常生活面で遭遇した子どものつぶやきや親子の会話を採集し、その心情についてまとめておく。				
④	〈言葉に対する感性を養う〉photo俳句を作ろう。子どもへの言葉かけと俳句の共通性について考える。お互いの作品を鑑賞する。							身の回りの風景に思いをもつて観察しておく、自分が撮影したシーンに575をつける。				
⑤	〈子どもの発達＋保育援助〉実際の子どもから「子どもの言葉」について考える 遊びの中の言葉／ごっこ遊びの中での会話							ごっこ遊びの中での会話の特性について確認しておく。				
⑥	〈保育援助〉保育者の援助としての言葉かけ①保育事例をもとに考える							保育者の言葉かけの意図を考える。				
⑦	〈保育援助〉保育者の援助としての言葉かけ②DVDによる学習							6月の授業で取り扱った事例に対する仲間との討議内容を踏まえて、言葉かけの援助のポイントを整理する。				
⑧	〈教材研究＋保育援助〉文化財としての絵本と紙芝居、他の伝達媒体の役割と活用と指導計画の作成（情報機器の活用を含む）							年齢や季節を考えながら絵本を選んで読み聞かせの際の留意点を考えておく、次週に向けて指導計画を作成する。				
⑨	〈教材研究＋保育援助〉②文化財としての絵本と紙芝居／読み聞かせ場面など児童文化財を活かした実践場面の模擬保育							各で作成した指導計画の適切性を確認して改善に努める。				
⑩	〈保育援助〉絵本を中心とした環境構成／保育室や図書コーナー、玄関ホールなどの環境構成を行う。							季節や年齢なども踏まえて、環境構成のテーマを考えておく。				
⑪	〈保育援助〉領域「言葉」の変遷と現代的課題							現行の3要領・指針の領域言葉のねらいと内容を確認する。				
⑫	〈保育援助〉文字・数・記号の獲得と保育／幼小の架け橋							子ども時代の文字や数との出会いや、実習園での扱いを想起し整理する。				
⑬	〈子どもの発達＋保育援助〉気になる言葉の遅れや問題とその援助							障害特性に応じた援助について整理し確認する。				
⑭	〈言葉に対する感性を養う〉絵本作り。絵のない絵本、偶然の要素を活かす絵本の製作を行う。							絵本の言葉を推敲し洗練したものにして完成させる。				
⑮	〈言葉に対する感性を養う〉絵のない絵本、偶然の要素を活かす絵本を発表し合評を行う。それぞれの生み出す言葉の世界を鑑賞する。							自分と仲間の作品を通して、言葉が生み出す世界の多様性を理解する。				
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考					
	評価に加えず	評価に加えず	50%	10%	30%	10%						
使用教科書	指定せず。必要に応じて資料配布。						参考図書	『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指導解説書』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』				
学生へのメッセージ	子どもの言葉の面白さ、絵本など乳幼児のための児童文化の魅力に出会い、皆でそれを子どもに届ける工夫をしましょう。						履修上の注意	グループワークや発表の機会が多く持たれるので、積極的な学習参加に努めてください。				
実務経験と科目の関連												

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期						卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある教員による授業科目		
				1年		2年		卒業	第2種				保育士	
				前期	後期	前期	後期							
25	教育原理	講義	2	■					○	○	○	元木 康	該当しない	
科目区分		教育の基礎的理解に関する科目		必要事項		教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想						担当形態	単独	
ディ・ア 8' 少との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。											①教育を受けている者から教育を行う者へ。 ②教育者になるための第一歩は、「教育原理」の学習から始める。		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○	③教育の意義や目的、先人の教育観、教育理論や教育制度の歴史、教育指導の理論と実践、現代の教育と課題などについて学ぶ。 ④アクティブラーニングを重視し、グループ協議と発表を実施し、対話をとおして授業を展開する。		
ディ・ア 8' 少との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	《キーワード》		
	「育む・作る・動く・遊ぶを楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。													
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入しに学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										○	①教育の意義と目的 ②教育の歴史 ③教育理論 ④教育制度 ⑤教育の実践		
学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。														
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。														
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》								
①今日の教育にいたるまでの様々な教育観や理論、制度や指導方法等の歴史の変遷を理解する。 ②教育者に求められる基礎的な知識や資質、価値観等を理解する。 ③日常の教育問題に関心を持つ。 ④子どもに好かれ信頼される保育者となる。						①教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解する。子ども・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解する。 ②家族と社会による教育の歴史、近代教育制度の成立及び現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解する。 ③家庭や子どもに関わる教育の思想や学校や学習に関わる教育の思想、代表的な教育家の思想を理解する。								
授業計画		授業計画								授業外学習及び準備等				
①	授業計画説明・学習目標設定（教育者・保育者としての将来の夢と理由） 教育とは何か										教科書第1章P2～P10を熟読しておく 課題：将来の夢と理由をまとめる			
②	教育と保育の意味と可能性 ・幼稚園と保育所に関する理解を深める										教科書第2章P11～P25を熟読しておく 課題：幼稚園と保育所の違いをまとめる			
③	西洋の教育の歴史（古代・中世） ・古代ローマ時代の教育について										教科書第3章P26～P34を熟読しておく 課題：現代の教育と比較してまとめる			
④	西洋の教育の歴史（近世） ・ルソー、ペスタロッチら、人物に焦点を当てて										教科書第4章P35～P43を熟読しておく 課題：任意の人物をまとめる			
⑤	西洋の教育の歴史（近代） ・モンテッソーリらの新教育運動の起こりとその背景										教科書第5章P44～P51を熟読しておく 課題：任意の人物をまとめる			
⑥	西洋の教育の歴史（現代） ・第二次世界大戦後の教育改革を俯瞰して										教科書第6章P52～P62を熟読しておく 課題：興味を持った政策をまとめる			
⑦	日本の教育の歴史（古代・中世） ・聖徳太子、足利学校の事例から学ぶ										教科書第7章P63～P75を熟読しておく 課題：現代の教育と比較してまとめる			
⑧	日本の教育の歴史（近世） ・武士と庶民の教育観について										教科書第8章P76～P85を熟読しておく 課題：現代の教育と比較してまとめる			
⑨	日本の教育の歴史（近代） ・沢柳政太郎、小林宗作らの大正自由教育運動について										教科書第9章P86～P99 ※通読しておく 課題：任意の人物をまとめる			
⑩	日本の教育の歴史（現代①：昭和期） ・戦後の教育改革について										教科書第10章P100～P110 ※通読しておく 課題：現代の教育と比較してまとめる			
⑪	日本の教育の歴史（現代②：平成期以降） ・平成中期の教育改革について										教科書第11章P111～P123 ※通読しておく 課題：興味を持った政策をまとめる			
⑫	教育課程とは ・学習指導要領の変遷とカリキュラムマネジメントを知る										教科書第12章P124～P132 ※通読しておく 課題：学習指導要領の変遷をまとめる			
⑬	「生徒指導」「生活指導」の教育実践について学ぶ ・学級づくりの実践を知る										教科書第13章P133～P143 ※通読しておく 課題：実践で興味を持った内容をまとめる			
⑭	教育制度と学校・学級経営 ・教育法令等から見る日本の教育制度を理解する										教科書第14章P144～P156 ※通読しておく 課題：日本の教育制度をまとめる			
⑮	教員のキャリア 教師の専門性 講義のまとめ ・キャリアの充実を目指して										教科書第15章P157～P181 ※通読しておく 課題：自分のキャリアの方向性をまとめる			
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度	参加度	備考	教育者・保育者としての専門知識・実践力・発表力・事務能力・コミュニケーション能力などの観点と授業中の主体的・対話的・積極的な態度を評価する。グループ協議、小テスト、プリント、発表を評価する。					
	50%	10%	10%	評価に加えず	評価に加えず	30%								
使用教科書	資料とアクティブラーニングで学ぶ初等・幼児教育の原理 佐藤 環監修 朝文書林								参考図書	幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説				
学生へのメッセージ	教育の歴史を学ぶことで、教育の現在を知り、未来への意欲を持つことができます。様々なトピックも紹介します。教育の森を俯瞰し、ともに学びましょう！								履修上の注意	チームで適宜情報発信します。A組、B組とも授業の内容を共有することで、複数方向の学び合いができることを期待しています。				
実務経験と科目の関連														

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期						卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	第2種				保育士
				前期	後期	前期	後期						
26	保育・教職論	講義	2	■					○	○	○	狩野浩二	該当しない
科目区分		教育の基礎的理解に関する科目		必要事項		教職の意義及び教員の役割・教職内容（チーム学校運営への対応を含む。）					担当形態	単独	
ディプロマとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										○	○「教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容（研修、勤務及び身分保障等を含む。）進路選択に資する各種の機会の提供等」を含む。教職への入門的な科目と考えてよい内容である。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。												
	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○		
キャリアとの関連	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。											《キーワード》	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学習を振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○	教員、保育者、学び続ける、資質、協働	
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。										○		
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》									
○今日の教育や教職の社会的意義を理解する。 ○教師・保育者に求められる役割や資質能力を理解する。 ○教師・保育者の職務内容の全体像や教師・保育者に課せられる職務上・身分上の義務を理解する。 ○内外の専門家との連携、分担のありかたについて理解する。				○公教育における教師・保育者の役割と今日の課題を理解している。 ○教職の職業的特徴とその特性を理解している。 ○教師・保育者に求められる基礎的な資質能力と学び続ける必要性を理解している。 ○教師・保育者の職務の全体像と組織的対応を理解している。 ○職務上・身分上の職務及び身分保障を理解している。									
授業回数		授業計画						授業外学習及び準備等					
①	教師、保育者とは何か、社会のなかの教師、保育者の位置／〇班を編成し、PBL学習に備える〇班ごとに担当する研究項目を検討する〇発表の準備に取りかかる						テキスト全体の目次に目を通す。 担当する班の発表項目を検討する。						
②	前期の実習を想定し、教師、保育者の役割についてグループ研究をすすめる／〇子どもと教師〇保育者の関係、〇教師、保育者と地域、関係機関との関係						前期の講義を振り返る。 教師、保育者の役割について考察する。						
③	教師・保育者が仕事にやりがいと魅力／〇子どもとともに生きる喜び〇子どもとともに夢を追う喜びと感動の共有〇失敗を成功にかえる力						テキスト序章を読む。 教員・保育者のやりがいを考える。						
④	公教育と教職の意義／〇近代公教育の成立と教職〇公教育の理念と原理〇公教育における教師の位置づけと役割						テキスト第1章を読む。 公教育と教職について考える。						
⑤	職業としての教師・保育者／〇教師、保育者という職業〇専門職としての教師、保育者の特色〇専門職としての教師、保育者像とその揺らぎ						テキスト第2章を読む。 教職の本質を考える。						
⑥	教師・保育者として教職に立つ／〇教員免許制度の概要〇教員養成制度改革の動向〇高等教育における教員、保育者養成・教員、保育者採用選考〇教員・保育者研修						テキスト第3章を読む。 教師教育について考える。						
⑦	教師観の変遷／〇教師観の変遷と時代背景〇高度専門職としての教師、保育者						テキスト第4章を読む。 教師観の変遷を考える。						
⑧	教師、保育者の仕事と役割／〇教師、保育者と学校、園〇授業、保育〇学習指導と生徒指導〇道徳、総合学習、特別活動、外国語活動〇担任の1日、1年						テキスト第5章を読む。 教員・保育者の役割を考える。						
⑨	学校、園経営と管理職、ミドルリーダーの役割／〇実態把握とビジョンの共有〇管理職の役割〇ミドルリーダーの役割						テキスト第6章を読む。 学校、園運営について考える。						
⑩	教員、保育者の任用と身分、勤務／〇教員、保育者の資格と採用〇教員、保育者の配置と異動〇教員、保育者の勤務、分限・懲戒、評価						テキスト第7章を読む。 教員・保育者の勤務等々を考える。						
⑪	学び続ける教師／〇人生100年時代の生き方〇ある教師のライフストーリー						テキスト第8章を読む。 教員・保育者の研修を考える。						
⑫	教師、保育者の働き方改革、負担軽減策／〇教員、保育者の勤務条件と多忙感〇学校、園組織運営の効率化〇校務情報化OSC.SSWとの連携〇課外活動〇メンタルヘルス						テキスト第9章を読む。 働き方について考える。						
⑬	学校、園改善とチーム学校、園運営／〇学校改善〇協働〇学校と地域の関係史〇チーム学校						テキスト第10章を読む。 チーム学校について考える。						
⑭	教育基本法を読みとく／〇教育基本法とは〇教育基本法の精神〇教育基本法改正						テキスト第11章を読む。 教育基本法について考える。						
⑮	あなたのなりたい教師・保育者／〇自己の教師観をつくる〇これからの時代に求められる教師・保育者						テキスト終章を読む。 全講義内容を振り返る。						
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考						
	評価に加える	評価に加える	30%	60%	評価に加える	10%							
使用教科書	八尾坂修編著『新時代の教職概論 学校の役割を知る 教師の仕事を知る』ジヤイ社、2018年、1,700円（＋税）						参考図書						
学生へのメッセージ	〇オフィスアワーは授業の前夜です。 〇「学ぶこと」は、「わかること」です。この授業を通して、新しい自分にかわってほしいと願っています。						履修上の注意						
						〇グループを編成し、PBL（問題解決学習）型の授業となります。積極的、主体的に取り組んでみましょう。 〇「分からない」「できない」が出発点です。ともに学びましょう。							
実務経験と科目の関連													

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

2020年度 幼稚園・小学校・中学校・高等学校 教科書調査

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある教員による授業科目		
				1年		2年						
				前期	後期	前期	後期					
28	発達心理学	講義	2		■			○	○	○	殿塚貴史	該当する
科目区分		教育の基礎的理解に関する科目		必要事項		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			担当形態		単独	
ディプロマとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。								《授業の概要》			
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。								本講では、生涯発達の特徴を概説した上で、発達心理学の知見（認知的側面、情動社会的側面、自我の側面など）が年齢とともに生活の場が広がり新たな経験を重ねることによりどのように発達していくのかを講義する。			
カリキュラムとの関連	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。								○			
	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。								○			
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。											
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。								○			
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。								発達理論 生涯発達 発達障害				
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》						
保育や幼児教育を行っていく上で、乳幼児期を人間の一生のなかに位置づけ、人間の生涯にわたる発達を見通すことができるように、発達心理学の知見を整理、習得する。発達をとらえる視点について理解し、心理学の基礎を習得しながら、養護・教育の一体性や援助の基本を理解する。乳幼児の学び・学習過程や特性を理解する						(1) 発達心理学の概念を説明することができる。 (2) 発達心理に関する主な理論を列挙することができる。 (3) 生涯の各段階における心理発達の特徴について述べる ことができる。 (4) 発達心理学の考え方や知識を保育・教育の場で出会う子ども達との関わりや援助に活かすことができる。						
授業回数	授業計画									授業外学習及び準備等		
①	オリエンテーション 発達心理学とは何か											
②	発達を規定する要因について 遺伝と環境											
③	発達段階論とは何か E.H.エリクソンの理論を中心に											
④	愛着と共感性の発達											
⑤	身体機能と運動機能の発達											
⑥	言語の発達											
⑦	認知機能の発達 ピアジェの理論を中心に											
⑧	遊びの発達と社会性の発達											
⑨	児童期の発達											
⑩	青年期の発達											
⑪	成人期及び老年期の発達											
⑫	S.フロイトやM.マラーなどの精神力動的自我発達理論											
⑬	発達障害とは何か											
⑭	アセスメントとは何か											
⑮	発達研究の方法											
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考					
	80%	評価に加入す	10%	評価に加入す	評価に加入す	10%						
使用教科書	改訂版 たのしく学べる最新発達心理学 櫻井茂雄 編 図書文化社						参考図書	特になし				
学生への メッセージ	講義が中心になりますが演習、実習や実習場などの心理実習を実施して自己理解や自己分析を進めていく機会をお預けします。また自分の考えを持ち、伝え、相手の考えを尊重し、建設的に参加してください。						履修上の注意	毎回の授業中に板書したことを必ずノートに取る。その内容が成績評価の1つになる。				
実務経験と 科目の関連	中学校での心理相談員やメンタルクリニックでのインテークとしての心理アセスメントの経験に基づき、子どもや子どもを取り巻く環境の問題や課題について理論的かつ実践的知識を教授する											

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期						卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目	
				1年		2年		卒 業	第 2 種				保 育 士
				前期	後期	前期	後期						
29	特別支援保育	演習	1		■				○	○	○	山田陽子	該当する
科目区分		教育の基礎的理解に関する科目		必要事項		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解					担当形態	単独	
ディパ リとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									○	《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									○	特別支援が必要な子どもについては障		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。									○	害の特性や心身の発達を理解し教育の		
	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分									○	内容や支援の方法を身に付ける。特別		
	野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○	な教育的ニーズのある子どもについて		
がむら リとの 関連	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合さ										《キーワード》		
	せ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										特別の支援を必要とする子ども		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己									○	特別の教育的ニーズのある子ども		
	点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										インクルーシブ教育		
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。													
《一般目標》													
・ 特別の支援を必要とする子どもの障害の特性および心身の発達を理解した上で、教育の内容や支援の方法を理解する。													
・ 特別の教育的ニーズのある子どもについて把握し、活動又は生活上の困難とその対応を理解する。													
・ すべての子どもを包み込む教育（インクルーシブ教育）の意義と内容及び支援の方法を理解する。													
《到達目標（行動目標）》													
・ 発達障害をはじめとする様々な障害のある子どもについての基礎知識をもち、支援の方法を理解している。													
・ 特別の教育的ニーズのある子どもについて把握し、支援の必要性を理解している。													
・ 子ども一人ひとりの集団生活における教育的ニーズに応えることが、その子らしい自立も含めて子どもが生きる力を身に付けていくことにつながることを理解している。													
授業回数	授業計画											授業外学習及び準備等	
①	保育とは、特別支援保育・教育の理念と制度、子どもとはどういう存在か、療育施設と保育所・幼稚園の違い											1回目の復習と 配布資料およびP209～P213を通読する	
②	障害のある子どもへの日常の保育における保育者の援助についての理解 障害のある子ども一人一人のニーズに応じた支援の在り方と個別の指導計画の作成意義と方法											2回目の復習と配布資料を通読する	
③	障害のある子どもとそうでない子どもと一緒に園生活を営むことについての理解と支援の方法											3回目の復習とP63～P69を通読する	
④	特別の支援を必要とする子どもの姿の理解と支援の方法—視覚障害											4回目の復習とP70～P76を通読する	
⑤	特別の支援を必要とする子どもの姿の理解と支援の方法—視覚障害・聴覚障害											5回目の復習とP70～P76を通読する	
⑥	特別の支援を必要とする子どもの姿の理解と支援の方法—聴覚障害											6回目の復習とP49～P62を通読する	
⑦	特別の支援を必要とする子どもの姿の理解と支援の方法—知的障害											7回目の復習とP34～P48を通読する	
⑧	特別の支援を必要とする子どもの姿の理解と支援の方法—知的障害・肢体不自由											8回目の復習とP104～P110を通読する	
⑨	特別の支援を必要とする子どもの姿の理解と支援の方法—肢体不自由・脳性マヒ・病弱											9回目の復習とP111～P120を通読する	
⑩	特別の支援を必要とする子どもの姿の理解と支援の方法—発達障害・注意欠陥多動性障害											10回目の復習とP120～P136を通読する	
⑪	特別の支援を必要とする子どもの姿の理解と支援の方法—眼局性学習障害・自閉症スペクトラム障害											11回目の復習	
⑫	特別の支援を必要とする子どもの姿の理解と支援の方法—自閉症スペクトラム障害											12回目の復習と配布資料およびP145～P150を通読する	
⑬	インクルーシブ保育についての理解、全ての子どもを含む保育（障害、母国語、貧困等）とはインクルーシブ保育を可能にする条件、保育者に求められる専門性											13回目の復習と配布資料を通読する	
⑭	インクルーシブ保育の中での子ども同士の関わり合いと育ち合い 障害のある子どもが主体的に自立活動に取り組むことへの理解と支援の方法											14回目の復習と配布資料を通読する	
⑮	事例から読み解く保護者や家族に対する理解と支援の方法・15回の授業のまとめ											15回目の復習	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考						
	評価に加える	評価に加える	40%	評価に加える	40%	20%							
使用教科書	尾野明美他2名編著「特別支援教育・保育概論—特別な配慮を要する子どもの理解と支援」朝文書林2020年						参考図書	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書、認定こども園教育・保育要領解説					
学生への メッセージ	毎回の授業を積み重ねることで結果として理解が進み知識が身に付きます。地道に学びましょう。						履修上の注意						
実務経験と 科目の関連	幼稚園教諭として12年間、特別支援学校（幼稚園部と小学部のみ）教諭として11年間の実務経験から、支援を必要とする園児や子どもの障害の特性や心身の発達、支援の方法について教授する。幼稚園勤務の間、統合保育を実践してきた。												

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目		
				1年		2年						
				前期	後期	前期	後期					
31	幼児教育の方法及び技術	演習	1		■			○	○	*	星野敦子	該当しない
科目区分		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生涯指導、教育相談等に関する科目		必要事項		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）				担当形態	単独	
ディプロマ との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。								《授業の概要》			
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。								幼児教育現場において必要とされる教育方法理論と実践のための知識の獲得をめざし、アクティブラーニングやICT			
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。								を活用した授業を通して、自ら意欲的に取り組み、教育現場で活かせる実践力が身につくような授業を行う。			
	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。											
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											
幼稚園 との 関連	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入し学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。								《キーワード》			
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。								教育方法、ICT活用、環境構成、体験活動			
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。											
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》						
1. 幼児教育のための基礎理論と実践方法について理解する						1. 幼稚園の授業における指導計画を立てることができる						
2. 幼児の主体的な学びを育む手法ならびに環境づくりに関して理解する						2. 幼児の能力を伸ばせる環境づくりができる						
3. 情報機器を活用した授業の手法及び情報リテラシー教育について理解する						3. 情報機器を活用した授業を展開できる						
						4. 幼稚園教育要領の趣旨に沿った教育活動を実践できる						
授業回数	授業計画								授業外学習及び準備等			
①	保育方法の本質								テキスト第2章1項を通読			
②	保育・教育方法の歴史的変遷								テキスト第1章を通読			
③	幼稚園教育要領・保育所指針 改訂のポイント								保育所保育指針解説書、認定こども園教育・保育要領解説を通読			
④	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿								保育所保育指針解説書、認定こども園教育・保育要領解説を通読			
⑤	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿（グループワーク）①企画づくり								発表資料の作成と発表練習			
⑥	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿（グループワーク）②発表								発表と振り返り			
⑦	モンテッソーリメソッド								モンテッソーリについて調べる			
⑧	モンテッソーリであそぼう								テキスト第4章を通読			
⑨	幼児の主体的な活動と環境の構成								テキスト第8章を通読			
⑩	遊びの意義と保育								テキスト第5章を通読			
⑪	さまざまな保育形態とプロジェクト型保育								テキスト第6章を通読			
⑫	森のようちえんにみる保育の本質								テキスト第4章を通読			
⑬	幼児の活動と環境構成								テキスト第10章を通読			
⑭	保育におけるICTの活用								テキスト第9章を通読			
⑮	まとめと振り返り								第1回から第14回授業の復習			
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考					
	評価に加える	評価に加える	30%	30%	30%	10%						
使用教科書	新しい保育・幼児教育方法 広岡義之編著 ミネルヴァ書房						参考図書	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書、 認定こども園教育・保育要領解説				
学生への メッセージ	アクティブラーニングを取り入れた授業を行います。積極的に参加してください。						履修上の注意					
実務経験と 科目の関連												

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期						卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある教員による授業科目			
				1年		2年		卒業	第2種				保育士		
				前期	後期	前期	後期								
32	子ども理解の理論及び方法	演習	1		■				○	○	○	伊集院 理子	該当する		
科目区分		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		必要事項		幼児理解の理論及び方法						担当形態	単独		
ディプロマ の 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									○	《授業の概要》				
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									○	子どもを理解する視点やまなざしを深め、より確かな理解に基づいた援助ができるようになっていくために必要な手がかりを授業を通して講義する。				
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。									○					
カリキュラム との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○					
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。														
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										《キーワード》				
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○	子ども理解 人的環境としての保育者 個と集団				
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。										観察と記録・保護者理解				
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》											
(1) 子ども理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的な態度を理解する。				(1) 子ども理解の重要性を知り、そのために必要な保育者の基礎的な知識と援助のあり方を理解する。											
(2) 子ども理解の方法を理解し、具体的な援助のあり方を学ぶ。				(2) 様々な保育実践の事例を通して、個と集団の関係を捉える意義や方法を学び、子ども理解を深める。											
(3) 子育てにおける保護者の心情を深く理解する。				(3) 保護者の子育てに対する心情と対応の方法を理解する。											
授業計画														授業外学習及び準備等	
①		授業ガイダンス・保育は子ども理解から始まる										子どもをめぐる諸問題について理解を深めておく			
②		子ども理解につながる子どもの見方										課題のレポートを次週に提出できるように作成する			
③		子どもの内面的な理解と保育 子どもの行為の意味を考える										配布資料を事前に読んで子どもの内面について考えておく			
④		遊びにおける学びと子ども理解										子どもにとって遊びがなぜ大切なのかをまとめて提出する			
⑤		生活における学びと子ども理解										子どもにとって生活がなぜ大切なのかをまとめて提出する			
⑥		子どもを取り巻く環境について考える										「環境を通しての保育」ということについて自分なりに整理してまとめる			
⑦		発達の視点からの子ども理解										他の関連科目で学んだ発達の視点を復習しておく			
⑧		保育における個と集団の育ちと学び										「個」と「集団」の双方の重要性についてまとめて提出する			
⑨		一人ひとりのつまずきや葛藤の理解と援助										子どもの成長にとってつまずきや葛藤がもたらす働きについてまとめておく			
⑩		特別な配慮を要する子どもの理解と援助										特別な配慮を要する子どもについて調べておく			
⑪		子どもの理解を深める方法① 観察・記録・省察・評価										実習で記録したことを読み返し、観察と記録の意義を考える			
⑫		子どもの理解を深める方法② 職員間の対話 研修										対話・研修がもたらす理解の深まりについて学んだことをまとめておく			
⑬		保護者との連携・共通理解										保護者が抱える現代的問題について調べておく			
⑭		発達と学びの連続性と就学への支援										就学問題について、事前に調べて理解を深めておく			
⑮		全体のまとめと試験（まとめ：子ども理解・保護者への対応）										今までの授業を振り返っておくこと			
試験		小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考								
評価内容・方法		評価に加入	評価に加入	30%	評価に加入	50%	20%								
使用教科書				指定しません。プリントを適宜配布します。				参考図書		「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の解説書					
学生へのメッセージ				子ども理解を通して幼児教育の重要性と保育者としての役割を学んでほしい				履修上の注意		子ども理解への関心を深め、自ら学ぶことが第一の履修条件である					
実務経験と科目の関連		幼稚園教諭として29年間 私立幼稚園の園長として4年間勤務し、一人ひとりの子ども理解を丁寧に重ねながら実践経験を積んできた。実践事例を多数紹介しながら子ども理解の重要性について教授する													

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

1
年

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目
				1年		2年		卒業	第2種	保育士		
35	教育実習指導	演習	1	■				○	○		渋谷るり子	該当しない
科目区分		教育実践に関する科目									担当形態	単独
ディプロマ との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									○	教育実習の事前指導と準備だけでなく、本校独自のカリキュラムである実習体験と並行して実習への理解を深め、具体的に実習の準備をすすめていきます。実習で何を学びたいかなど実習課題を明確にもてるように準備をすすめていきます。	
カリキュラム との 関連	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。									○	《キーワード》	
	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○	実習意義と目的 幼児理解・幼稚園の機能 実習体験・実習記録 実習課題・保育技術	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。									○		
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入しに学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。									○		
学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○			
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。									○			
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》						
教育実習の意義・目的について理解する。 教育実習に必要な、知識・技能を身につける。 幼稚園教諭に求められる資質や能力を知る。						実習課題を明確に示す。正しく記録ノートに記入できる。実習体験において積極的に子どもと関わる。一日の視点（ねらい）をもって実習体験に参加する。子どもと一緒に楽しめる保育技術を考える。自己課題を省察し発表する。実習の課題を立てる。部分実習指導案を作成する。幼稚園教諭に求められる資質・能力について考え発表する。保育用語を正しく理解する。						
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	授業の進め方と教育実習について（教育実習Ⅰの希望届） 実習段階と実習目標 幼稚園の概要（個人票の下準備）											
②	幼稚園の生活（実習目標での一日の流れ） 幼稚園教諭の役割											
③	幼稚園での生活（あそびと保育内容） 子どもの前でする自己紹介について（教材づくりについて）											
④	実習記録について 書き方①											
⑤	実習体験の持ち物・留意点 実習の心構え・守秘義務・マナー・実習中の健康管理											
⑥	子どもの前でする自己紹介（実践）											
⑦	実習のねらいと観察のポイント 日誌の書き方②											
⑧	記録の添削と書き方③											
⑨	部分実習の計画と部分実習指導案											
⑩	記録の添削と日誌の書き方④											
⑪	部分実習指導案の作成と実践 保育における経験や活動の意味と、保育者の願い											
⑫	記録の添削と日誌の書き方⑤											
⑬	実習課題について 実習オリエンテーション 実習関係書類の書き方（健康管理・出勤簿・経路・お礼状）											
⑭	実習記録について											
⑮	実習前の準備 自己評価表											
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考		この15回授業の他に事前指導の時間と実習体験の振り返りの時間を設定しています			
	評価に加える	評価に加える	45%	評価に加える	34%	21%						
使用教科書	実習の日誌と指導案サポートブック（ナツメ社）幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、実習の手引き						参考図書		実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド（わかば社）			
学生への メッセージ	積極的に話し合いに参加し、教育実習に繋がる学びにしましょう。						履修上の注意		教育実習指導の単位を修得しなければ、教育実習Ⅰは実施できません。			
実務経験と科目の関連												

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目		
				1年		2年						
				前期	後期	前期	後期	卒業	第2種	保育士		
36	教育実習Ⅰ	実習	2	9月				○	○		渋谷るり子 ほか専任教員	ホームページ一覧表参照
科目区分		教育実践に関する科目										
ディプロマ との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。								○	《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。								○	幼稚園教諭として求められている知識・技術について、『観察と参加』を通して実践的に学びます。視点をもって観察し、省察しながら自らの保育者像を思い描き、今後の学びに結び付けていくことに実習の意義があります。		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。								○			
幼稚園 との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。								○	《キーワード》		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。								○			
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入しに学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。								○			
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。								○	観察、参加、部分実習 補助的役割・実践 部分実習指導案 幼稚園教諭の職務 自己評価		
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》						
○幼稚園教諭として必要な『知識・技術』について実践的に学ぶ。						実習の意義や目的を理解し、準備する。						
○保育者の指導を受け、実習内容の理解を深める。						幼稚園教諭としての職務を担当保育者の指導のもと、補助的、部分的に実践する。						
						実習について省察し、自己評価できる。						
						Ⅱ期の実習に向けた自己課題を見つける。						
実習内容											準備等	
《実習の観点》 ・幼稚園の一日の保育の流れを知る ・年齢ごとの子どもの姿を理解する ・保育者の援助や保育の展開について補助的役割を通して学ぶ ・保育者の職務や役割を知る ・保育の環境のあり方について学ぶ											実習の手引き 実習までの事前学習を参照	
《実習の形態》 観察実習および参加実習（部分実習）												
《教育実習Ⅰの評価》 ・実習園から評価60% ・実習記録の内容・態度・実習関係書類の提出状況等40%として評価する。 ・基準に満たない場合には、再実習（再履修）となります。												
《事後指導》 実習終了後は、事後指導・個人面談を受け、実習で学んだ事、反省した事などを生かして新たな課題を設定しⅡ期の実習への学びを深める。												
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考					
使用教科書	なし						参考図書		実習の日誌と指導案 サポートブック（ナツメ社） 幼稚園教育要領解説 実習の手引き（学校作成）			
学生への メッセージ	実習課題をしっかりと持ち、幼稚園教育の魅力を感じながら実習に臨みましょう。						履修上の注意		教育実習指導の単位を修得できていない場合、教育実習は実施できない			
実務経験と 科目の関連	幼稚園（幼保連携型認定こども園・幼稚園型認定こども園を含む）に勤務する幼稚園教諭（保育教諭）が、これまでの実務経験を活かして、幼稚園で実習を指導する											

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

1
年

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期						卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目	
				1年		2年		卒 業	第 2 種				保 育 士
				前期	後期	前期	後期						
38	保育原理	講義	2	■					○		○	相川怜美	該当しない
科目区分	保育の本質・目的に関する科目										担当形態	単独	
ディパ ムとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										○	この授業では、保育所保育指針における保育の基本、保育の内部と方法、保育に関する知識のもとに保育者の役割、我が国の保育制度、保育の歴史や思想について学習する。内容に応じてアクティブ・ラーニングの手法を取り入れ個人ワーク、グループワーク等を通して共有化する。保育の現状と課題点、子どもの心身の成長と発達について考察する。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○		
計画性 との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	《キーワード》 ・保育 ・養護 ・教育 ・保育所保育指針 ・生命の保持 ・情緒の安定 ・5領域 ・10の姿	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入し学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。												
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												
《一般目標》												《到達目標（行動目標）》	
・保育の基礎的な原理、原則な学びを通して保育者としての使命感、倫理観を理解する。												・現代社会における保育の意義と課題について考察し、自分なりの意見を述べる事ができる。	
・保育所、幼稚園、認定こども園における保育の意義や目的、保育の内容とその方法、環境、計画、歴史、更に現状と課題について等、保育をする上での基本的事項を学び自分のなりたたい保育者像をイメージできるようにする。												・日本および諸外国の保育思想と歴史の変遷を理解し、説明することができる。	
												・子どもにとってより良い育ちとは何かを考えながら、援助の意味や保育者の役割を説明することができる。	
												・保育の原理を理解し、具体的な実践場面において活用することができる。	
授業計画												授業外学習及び準備等	
①	オリエンテーション、保育所の社会的機能と役割										テキスト第1章通読		
②	子どもと保育に関する法令										テキスト第2章通読		
③	保育の歴史										テキスト第11章通読		
④	保育の基本① 環境を通して行う保育										テキスト第6章通読		
⑤	保育の基本② 養護と教育の一体性										テキスト第3章通読		
⑥	保育の基本③ 遊びの中での学び										テキスト第4章通読		
⑦	保育の原理① 子どもの発達と多様化する保育形態										テキスト第5章通読		
⑧	保育の原理② 子育て家庭支援の必要性 ～3法令同時改訂とその背景～												
⑨	保育の原理③ 子どもの最善の利益とは												
⑩	保育者に求められる資質と専門性										テキスト第8章通読		
⑪	保育の計画と評価										テキスト第7章通読		
⑫	地域社会で行う子育て支援										テキスト第9章通読		
⑬	特別な配慮・障害児を受け入れる保育										テキスト第10章通読		
⑭	日本の保育の現状										テキスト第12章通読		
⑮	これからの保育に向けての保育者のあり方												
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考						
	40%	30%	20%	評価に加える	評価に加える	10%							
使用教科書	『保育原理 子ども保育の基本理論の理解』 岡田耕一 編著 萌文書林 適宜レジュメ、資料配布						参考図書		・保育所保育指針解説書 ・幼稚園教育要領解説 ・保育最新資料集2022				
学生への メッセージ	保育の実践の基本となる子ども理解の意義とその方法について学んでいきます。集団の中で一人一人の心身の発達状況を細やかに読み取り、必要な経験や学びを理解し、保育を構築する力を身に付けるために、演習を通して実践的に学んでいきましょう。						履修上の注意		授業で不十分な点はそのままにせず、その場で質問してください。演習をたくさん取り入れていきます。積極的に受講してください。				
実務経験と科目の関連													

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期						卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	第2種				保育士
				前期	後期	前期	後期						
39	子ども家庭福祉	講義	2	■					○		○	船澤修一	該当する
科目区分	保育の本質・目的に関する科目										担当形態	単独	
ディプロマ との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										子ども家庭福祉の課題と社会構造との関係について解説。歴史概観。ライフデザインのための現代家庭福祉の意義を講義。保育との関連性、人権、能動的権利、受動的権利を解説。実施体制と対策事業を講義。支援技術、保育士との連携を講義。子ども子育て支援の背景と法・制度について講義。児童福祉法と関連法、制度を講義。		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○		
カリキュラム との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入しに学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。												
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○	子ども・家庭・権利擁護福祉・自立・危機介入	
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												
《一般目標》													
①現代社会の構造的課題を理解する。②子ども家庭福祉課題を家族のライフデザインから理解する。③人権に対する価値を理解する。④歴史について理解する。⑤法制度体系と法律を理解する。⑥対策について知る。⑦子ども子育て支援制度など新しい対策について理解する。⑧行政機構を知る。⑨実施機関を知る。⑩職種と専門的支援技術を理解する。⑪国際的問題を知る。⑫子どもの育ち、子育て環境のあり方を理解し、子育て支援の知識と技術を身につける。													
《到達目標（行動目標）》													
①現代社会の構造的課題を説明できる。②ライフデザインについてその意義を説明できる。③子どもと家庭を定義し、理念や価値観現代の課題が説明できる。④支援目標と対応する法律や制度を説明できる。⑤課題の社会への影響を解説できる。⑥対策を説明できる。⑦子ども子育て支援制度について説明できる。⑧支援実施体制や行政機構を説明できる。⑨職種と専門性について説明できる。⑩必要な支援技術と専門職の技術を理解し他職と協働できる。⑪国際的問題を説明できる。⑫保育者としての価値を理解しコミュニケーションや行動で示すことができる。													
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	現代社会の子ども家庭福祉とは何か（講義、テキスト、資料）										テキスト第1講step1通読		
②	子どもの定義、人権、ライフデザインと子ども家庭福祉の目標（講義、テキスト、資料）										テキスト第1講step2・3通読		
③	子ども家庭福祉の現状と課題（講義、テキスト、資料）										資料参照テキスト第2講step2通読		
④	子ども家庭福祉の歴史Ⅰ古代から近世（講義、テキスト、資料）										資料参照テキスト第2講step2通読		
⑤	子ども家庭福祉の歴史Ⅱ近代から現代（講義、テキスト、資料）										事前配布資料参照		
⑥	子ども家庭福祉の歴史から学ぶ 慈恵から権利、自己実現										事前配布資料参照		
⑦	子ども家庭福祉の機構（講義、テキスト、資料）										テキスト第4講通読		
⑧	子ども家庭福祉の制度（講義、テキスト、資料）										テキスト第4講通読		
⑨	子ども家庭福祉の関係法令、宣言、条約（講義、テキスト、資料）										テキスト第1講step3・第3講通読		
⑩	子ども家庭福祉対策の事業概要と実施機関、子育て支援施策（講義、テキスト、資料）										テキスト第5～13講通読		
⑪	子ども家庭福祉の方法と支援技術（講義、テキスト、資料、VTR）										テキスト第5～13講通読		
⑫	子ども家庭福祉と関連諸科学（講義、資料）										事前配布資料参照テキスト第15講通読		
⑬	子ども家庭福祉の国際的課題（講義、資料）										事前配布資料参照		
⑭	社会福祉改革と子ども家庭福祉（講義、資料）										事前配布資料参照テキスト第14講通読		
⑮	子ども家庭福祉の今後の課題 自立 多様性 ライフデザイン（講義、資料）										振り返りと未来に向けての課題議論		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考						
	80%	10%	評価に加えず	評価に加えず	評価に加えず	10%							
使用教科書	最新 社会福祉士養成講座 児童・家庭福祉 第2版 中央法規					参考図書		保育者・ソーシャルワーカーのための子ども家庭福祉 データブック2025 関連図書随時紹介					
学生への メッセージ	権利主体者としての子ども、現代の社会、家庭福祉 について理解しよう。					履修上の注意		積極的に考え、質問、議論する姿勢を求めます。					
実務経験と 科目の関連	児童発達支援施設（早期療育）の相談、アセスメント、療育、ネットワーキングの経験から、対象者の思い、専門支援技術、方法（チームアプローチ）、連携を応用般化できるよう実践的、理論的に教授する。												

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年				
				前期	後期	前期	後期			
40	社会福祉	抗議	2	■				○	伊藤 弓月	該当しない
科目区分		保育の本質・目的に関する科目							担当形態	単独
ディパ の との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。							○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。							○	社会福祉の意義と歴史的編成、制度、法律、社会福祉における家庭支援の視点や相談援助について学ぶ。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。								また、社会福祉の動向や課題についても取り上げる。	
	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。							○	《キーワード》	
かむら の との 関連	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。								ノーマライゼーション、ソーシャルワーク、社会的養護、社会保障	
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。									
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。							○		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。									
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》						
保育士は児童福祉法の第18条の4に規定されている福祉の専門職であることから、保育士には広く社会福祉に関する知識が求められます。そこで、この授業では、保育士に必要な社会福祉の基礎知識や制度・法体系を学ぶと共に、社会福祉サービスとしての保育の視点・考え方について学ぶことを目的とします。				1. 保育と社会福祉の関係性について説明できる。 2. 保育と関係性の深い福祉行政機関について説明できる。 3. 社会保障制度について説明できる。 4. 社会福祉関連の専門職について説明できる。						
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等		
①	オリエンテーション、保育と社会福祉							教科書P16～26を事前に読み込んでおくこと。		
②	社会福祉の考え方と役割							教科書P28～38を事前に読み込んでおくこと。		
③	欧米と日本の社会福祉のあゆみ							教科書P42～54を事前に読み込んでおくこと。		
④	生活を守る社会保障制度							教科書P58～72を事前に読み込んでおくこと。		
⑤	社会福祉の法体系と制度							教科書P76～83を事前に読み込んでおくこと。		
⑥	社会福祉の実施機関と行財政							教科書P86～97を事前に読み込んでおくこと。		
⑦	社会福祉の施設（中間試験の実施）							教科書P100～103を事前に読み込んでおくこと。		
⑧	子ども家庭支援と社会福祉							教科書P106～120を事前に読み込んでおくこと。		
⑨	共生社会と障害者福祉							教科書P124～134を事前に読み込んでおくこと。		
⑩	高齢者福祉と地域包括支援							教科書P138～147を事前に読み込んでおくこと。		
⑪	地域福祉の意味と推進方法							教科書P150～159を事前に読み込んでおくこと。		
⑫	社会福祉の専門職と倫理							教科書P162～177を事前に読み込んでおくこと。		
⑬	ソーシャルワークの意味と方法							教科書P180～194を事前に読み込んでおくこと。		
⑭	福祉サービスの利用支援と第三者評価							教科書P198～206を事前に読み込んでおくこと。		
⑮	権利擁護と苦情解決							教科書P210～223を事前に読み込んでおくこと。		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考	※小テストは中間試験に該当します。 ※毎時間リアクションペーパーを提出してもらい、質問等を次の授業で回答するようにします		
	40%	40%	評価に加えず	評価に加えず	評価に加えず	20%				
使用教科書	『保育と社会福祉』（株）みらい						参考図書	特にありません。		
学生へのメッセージ	日頃から保育や福祉に関するニュース・報道等にも関心を抱けて下さい。						履修上の注意	福祉の専門職を目指す意識を持って授業に臨んで下さい。		
実務経験と科目の関連										

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目
				1年		2年		卒業	第2種	保育士		
				前期	後期	前期	後期					
44	子ども家庭支援の心理学	講義	2		■			○		○	蓮井千恵子	該当しない
科目区分		保育の対象の理解に関する科目									担当形態	単独
ディパ ととの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。								○	《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。								○	子どもたちの心の健康に多大な影響を与える家族に対する支援を行う際に、保育者が気を付けておくべき点などについて説明する。子どもたちの健康に関わる症状についても説明する。		
かむら ととの 関連	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。											
	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。											
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。									《キーワード》		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。								○	生涯発達、初期経歴、システム家族論、家族・家庭の意義・機能、ライフコース、子育て経歴		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。								○			
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》								
家庭支援は実際に行おうとするなら非常に難しい。学習者は、子どもと子どもを育てている保護者に対して、保育士としての適切な支援とはどういうことか、さらに支援する際注意しなければならない点を理解しなくてはならない。心理学をもとにした家庭支援を行うことについて、本講義を通して最低限必要な知識を身につける。				・家庭を取り巻く社会的状況と課題、生涯発達に関する基礎的知識、家族・家庭の意義や機能について説明できる。 ・自分の考えや意見を理由や背景を含めて、言葉で的確に表現することができる。 ・グループで話し合う際に他者の意見を取り入れて、自分の意見や経歴を表現しまとめることができる。								
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	子ども家庭支援の心理学（オリエンテーション）乳児期の発達										教科書第一章	
②	乳幼児期の発達										教科書第一章	
③	児童期・青年期の発達										教科書第二・三章	
④	成人期・老年期までの発達										教科書第四・五章	
⑤	家族・家庭の意義と機能・親子関係・家族関係の機能										教科書第五・六章	
⑥	子育てを取り巻く社会状況、ライフコースと子育て										教科書第七・八章	
⑦	多様な家族の現状										教科書第九章	
⑧	配慮を要する家庭										教科書第十章	
⑨	配慮を要する家庭										教科書第十一章	
⑩	子どものストレス・睡眠食事排泄にかかわる症状										教科書十二・十三章	
⑪	子どもに見られるその他の症状										教科書十四章	
⑫	発達障害										教科書十五章	
⑬	家族機能に関するアセスメント										DVD学習	
⑭	家族システム論										DVD学習	
⑮	子ども家族支援についてのまとめ										DVD学習	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考					
	40%	30%	20%	評価に加える	評価に加える	10%						
使用教科書	杉崎雅子 スギ先生と考える 子ども家庭支援の心理学（朝文書林）					参考図書	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説等、講義中適宜紹介する。					
学生への メッセージ	保育士の仕事において、子どもの育つ家庭を支援することは、子どもが健康に成長するために必須です。初めて聞く内容かもしれませんが、楽しみながら、一緒に学んでいきましょう。					履修上の注意	学ぶ順序が変更になることがあります。授業内容の変更の際は、事前に知らせます。					
実務経験と 科目の関連												

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

1
年

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目
				1年		2年				
				前期	後期	前期	後期			
45	子どもの保健	講義	2		■			○	中村千景	該当する
科目区分	保育の対象の理解に関する科目								担当形態	単独
ディ ア リ ー との 関 連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。								《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。								体の生理や発達過程などを学	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。								○	び、子どもの成長を理解するよう に講義します。子どもに多い疾病と その対応などを学び、健康を管理す るために必要な知識を身につけるこ とができるように講義します。
	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分 野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。								○	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。									
か け が ら し ー との 関 連	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入し学びと実践を融合さ せ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。								《キーワード》	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自 己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。								○	発達・発達・健康・病気
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取 り組む力を育む。									
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》						
・子どもの発達発達の特徴を理解する。 ・子どもによく見られる病気を知り、健康観察の方法を 理解する。 ・集団保育における健康管理が適切にできるようになる。				・子どもの発達発達を正しく評価できる。 ・子どもの病気や異常に気づき、的確な対応ができる。						
授業回数	授業計画								授業外学習及び準備等	
①	子どもの心と体の健康と保健の意義① 生命の保持と情緒の安定のための保健活動の意義と目的								・テキストのpp1-5を読む。 ・最近の子どもの健康問題を調べる。	
②	子どもの心と体の健康と保健の意義② 健康の概念と健康指標								・テキストのpp6-12を読む。 ・日本の人口動態推移を調べる。	
③	子どもの心と体の健康と保健の意義③ 子どもの健康の現状と課題、地域における保健活動と子ども虐待防止								・テキストのpp13-27を読む。 ・母子保健法について調べる。	
④	子どもの発達・発達と保健① わたしたちの体と身体発達								・テキストのpp28-37を読む。 ・ワークシート1-①に取り組む。	
⑤	子どもの発達・発達と保健② 運動機能の発達								・テキストのpp37-43を読む。 ・原始反射の種類を調べる。	
⑥	子どもの発達・発達と保健③ 生理機能の発達								・テキストのpp43-50を読む。 ・生理機能の特徴を調べる。	
⑦	子どもの発達・発達と保健④ 感覚器の発達・精神機能の発達								・テキストのpp51-59を読む。 ・ワークシート1-②に取り組む。	
⑧	子どもの心と体の健康状態の把握① 発達・発達の把握と健康診断								・テキストのpp60-74を読む。 ・健康診断の意義と特徴を調べる。	
⑨	子どもの心と体の健康状態の把握② 保護者との情報共有								・テキストのpp74-80を読む。 ・ワークシート2-②に取り組む。	
⑩	子どもの心と体の健康状態の把握③ 子どもの健康状態の観察と体調の良くない子どもへの対応								・テキストのpp80-95を読む。 ・ワークシート3-①、4-①に取り組む。	
⑪	子どもの病気の予防と適切な対応① 子どものかかりやすい感染症								・テキストのpp96-121を読む。 ・ワークシート4-②に取り組む。	
⑫	子どもの病気の予防と適切な対応② 感染症の予防と対応								・テキストのpp121-139を読む。 ・ワークシート5-①②に取り組む。	
⑬	子どもの病気の予防と適切な対応③ アレルギー疾患								・テキストのpp140-157を読む。 ・ワークシート6-①②に取り組む。	
⑭	子どもの病気の予防と適切な対応④ その他の病気と先天異常								・テキストのpp158-170を読む。 ・先天異常について調べる。	
⑮	保育における保健 職員の健康管理								・テキストのpp171-177を読む。 ・これまでの学びをまとめる。	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考			
	60%	評価に加えず	評価に加えず	評価に加えず	10%	30%				
使用教科書	「これだけはおさえて!」 保育者のための子どもの保健[改訂版] 鈴木美枝子 編著 (株式会社 創成社)						参考図書	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、 その他適宜紹介します。		
学生への メッセージ	子どもの健康や病気に関する話題があれば日頃から チェックする習慣を身につけましょう。						履修上の注意	教科書を丁寧に読み、授業スライド資料とあわせて理解を深めるよう にしましょう。また、提出物はその都度提出できるようにしましょ う。		
実務経験と 科目の関連	保育園での勤務経験から、子どもの健康を守るために必要となる視点や、健康実態など、テキストだけでなく保育現 場の実体験も織り交ぜながら教授する。									

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期						卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	第2種				保育士
				前期	後期	前期	後期						
50	乳児保育Ⅰ	講義	2		■				○		○	未定	
科目区分		保育の内容・方法に関する科目										担当形態	単独
ディパ の との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										○	保育の専門家として乳児の生活と育ちを豊かにするために、乳児の保育に関する基礎的なことを講義する。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○	特に乳児の成長や発達、養育や教育などの援助や関わり、配慮などについては詳細に明らかにする。	
加わら の との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	《キーワード》	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										○	乳児保育の意義・目的・歴史の変遷と役割、多様な保育の場、発達・発達、運営体制、連携・協働	
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入しに学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										○		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。										○		
《一般目標》													
①乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割を理解する。 ②多様な場における乳児保育の現状と課題を理解する。 ③3歳未満児の発達・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 ④乳児保育における職員間や関係機関との連携・協働について理解する。													
《到達目標（行動目標）》													
①乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割を説明する事ができる。 ②多様な場における乳児保育の現状と課題を説明する事ができる。 ③3歳未満児の発達・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について記述する事ができる。 ④乳児保育における職員間や関係機関との連携・協働について述べる事ができる。													
授業計画													
① 授業計画 学生の学習目標設定 乳児保育はなぜ必要か――社会的背景から考える													
② 乳児保育はなぜ必要か――社会的背景から考える													
③ 乳児保育の歴史と現状													
④ 知っておきたい法律のいろいろ――児童福祉法など ワークシート1													
⑤ 「保育所保育指針」とは													
⑥ 「保育所保育指針」とは ワークシート2・3 保育所保育指針解説書持参													
⑦ 「保育所保育指針」における乳児保育のポイント① ワークシート4・5													
⑧ 「保育所保育指針」における乳児保育のポイント② ワークシート6・7													
⑨ 人生の基礎としての乳児期――ポルトマンの考え方に学ぶ 乳児のこころの発達――身近な人との絆を育む過程													
⑩ 乳児のことばの発達――思いを伝え合う手段を得る過程													
⑪ 乳児のからだ――からだの発達と運動機能の発達													
⑫ 乳児保育における複数担任制――保育者同士の連携のあり方													
⑬ 保育所で過ごす1日の流れ――年齢別ディリープログラム（日課表）作成													
⑭ 保護者との連携を考えよう――乳児をとりまく協力関係をめざして 発達の遅れとむき合う――保護者を支える													
⑮ 実習…抱っこ・おむつ替え DVD視聴…「ことばを育てる 語りかけ育児」													
試験 小テスト レポート 発表 作品・課題 授業態度 参加度 備考													
50% 20% 15% 評価に加えず 評価に加えず 15%													
使用教科書 未定 参考図書 保育所保育指針解説書 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説													
学生へのメッセージ 子どもが大好きという豊かな人間性と、子どもの行動を科学的に分析できる観察力と推論力を身につけてほしい。 履修上の注意 教科書の熟読・レポート提出期限の厳守													
実務経験と科目の関連													

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

1
年

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目	
				1年		2年		卒業	幼 2 種	保 育 士			
				前期	後期	前期	後期						
56	子どもの発達と造形表現Ⅱ	演習	1		■			○		*	森高光広	該当する	
科目区分	保育の内容・方法に関する科目										担当形態	単独	
ディ ア リ ー の 関 連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										乳幼児は自ら生きていくための力を様々な行動を通して獲得していく。5領域の中で「造形」の学びは大切である。子どもの感性を育み、主体性を大切に、自らの感性を駆使して楽しく制作する大切さを再確認し、具体的な手立てを探ることを目的とする。		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。												
加 わ い ぬ の 関 連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○		
	「読む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる環境で活かす「保育技術」を修得する。										○		
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										○		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○		
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。										《キーワード》			
										・既成概念からの脱却 ・感じ、考え、試み、工夫する ・発達の段階による活動の違い ・主体的な活動の援助			
《一般目標》												《到達目標（行動目標）》	
小学校の「図画工作」、中学以降の「美術」などの過去の経験を踏まえ、乳幼児の発達や行動の中で「人間としての営み」として初めての行為である造形活動を支え、より豊かなものとするための援助ができるように具体的な制作を通してその基礎基本を自ら楽しく作る経験を通して学ぶ。現場に出て自ら手立てを探り探求するための基礎を学ぶ。												大人の考えや方法を教えることが保育や教育ではない。子どもが主体的に感じ、考えて行動することを見守る大人が身近にいることは大切である。子どもを主体的な人間に育てていくために、子どもの造形活動も主体性を踏まえ援助ができるように、制作や活動の具体的な手立ての基礎を学び、教育現場でも応用できるための力を各年齢の状況も踏まえて身につける。	
授業計画												授業外学習及び準備等	
①	体験的学び 描く-3 ☆作品画像各自保存、随時確認します 〈絵の具遊び①〉指絵										○ 常に汚れても汚されてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ		
②	体験的学び 描く-4 〈絵の具技法遊び②〉絵の具スライド技法・										○ 常に汚れても汚されてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ		
③	体験的学び 描く-5 〈描くことの応用。〉デカルコマニー技法の活用										○ 常に汚れても汚されてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ		
④	体験的学び つくる-4 〈素材の違い①〉色画用紙										○ 常に汚れても汚されてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ		
⑤	体験的学び つくる-5 〈素材の違い②〉素材の違い										○ 常に汚れても汚されてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ		
⑥	体験的学び 展開1 〈つくることからの展開①〉12章に基づいて紙コップ①・										○ 常に汚れても汚されてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ		
⑦	体験的学び 展開2 〈つくることからの展開②〉びんびんウサギとその仲間 紙コップ②										○ 常に汚れても汚されてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ		
⑧	体験的学び イメージを広げる-1 〈子ども自らがイメージをひろげ工夫できる援助〉										○ 常に汚れても汚されてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ		
⑨	体験的学び イメージを広げる-2 〈子ども自らがイメージをひろげ工夫できる援助〉										○ 常に汚れても汚されてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ		
⑩	体験的学び 子どもの視点で制作活動と展開を考える-1 〈子ども自らが取り組み工夫できる援助〉季節の違い										○ 常に汚れても汚されてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ		
⑪	体験的学び 子どもの視点で制作活動と展開を考える-2 〈子ども自らが取り組める援助〉紙コップの活用										○ 常に汚れても汚されてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ		
⑫	体験的学び 子どもの視点で制作活動と展開を考える-3 〈子ども自らが取り組める援助〉紙皿の活用										○ 常に汚れても汚されてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ		
⑬	体験的学び 子どもの視点で制作活動と援助の手立てを考える-1 〈子ども自らが工夫できる援助〉年少・年中児 季節感を出す										○ 常に汚れても汚されてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ		
⑭	体験的学び 子どもの視点で制作活動と援助の手立てを考える-2 〈子ども自らが工夫できる援助〉年少・年中児2年支にまつわる制作										○ 常に汚れても汚されてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ		
⑮	体験的学び 子どもの視点で制作活動と援助の手立てを考える-3 〈子ども自らが工夫できる援助〉同じ題材の年長児での手立て 協働の活動と学び										○ 授業のまとめ		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考						
	評価に加える	評価に加える	35%	15%	35%	15%	欠席の場合、当日の課題レポートと欠席回分の制作の提出で加点します。締め切りについては要相談						
使用教科書	『造形表現』竹井史編著、森高光広・他(著)、一藝社、2200円 ISBN-13: 978-4-86359-155-4										参考図書		
幼稚園教育要領(平成29年3月告示、文部科学省) フレーベル館、 保育所保育指針(平成29年3月告示、厚生労働省) フレーベル館、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示、文部科学省/厚生労働省)													
学生への メッセージ	楽しく制作することを通して、子どもの目線で考えて具体的な造形活動の援助ができるように学びます。										履修上の注意		
課題は時間内提出を基本とします。制作した作品などの画像は各自スマホで保存します。ICT活用は随時します。													
実務経験と 科目の関連	幼稚園や保育園での園児に対する造形活動の指導の経験を活かし、子どもの育ちと行動の理解及び発達に応じた造形活動について具体的に伝える												

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目	
				1年		2年		卒 業	幼 2 種	保 育 士			
				前期	後期	前期	後期						
58	音楽実技演習	演習	1	■				○			横関由紀・永島晴美・ 川上由美・前田佳代	該当する	
科目区分		保育の内容・方法に関する科目									担当形態	クラス分け	
ディパ の との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									《授業の概要》 幼児は生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにしていきます。歌を聴き、音楽と共に過ごす時間を、音楽に親しむ心を育むことは重要です。この授業では、課題に必要な基本的な楽典を学びながら、簡単な弾き語りや保育現場での生活の歌、ピアノの実技を習得します。発表を通して実習での実践力を身につけ、必修曲の習得を目指します。			
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。												
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。												
ディパ の との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									《キーワード》 ピアノ 弾き語り 実習曲			
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。												
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。												
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。													
《一般目標》 ○日常の保育における歌の伴奏（弾き語り）を想定した、基本的な演奏技術を身につける。 ○読譜に必要な楽典知識を習得する。				《到達目標（行動目標）》 ①必修曲の習得（下記具体的な練習内容を含む） ②楽譜を理解して弾くことができる。 ③歌いながら弾くことができる。 ④子どもと一緒に歌う事をイメージして演奏する。 ⑤中間・期末の課題曲を人前で演奏する。 ⑥場面に応じた設定で導入を考え、子どもと一緒に歌うことを想定し発表する。									
授業回数	授業計画									授業外学習及び準備等			
①	授業課題・習得目標・授業計画の説明 担当者・練習計画をたてる									バイエル14番まで	ステップⅠ	弾き語りは必ず歌って練習すること	
②	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導									おしきの和音まで	ステップⅡ		
③	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導									きらきらぼしまで	ステップⅢ		
④	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導									音楽実技演習必修終了	ステップⅣ		
⑤	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導 発表曲の確認									【具体的な練習内容】			
⑥	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導 中間発表曲のリハーサル									*基本的な楽典知識を理解する （音符・休符・拍子・調整記号 臨時記号・ハ音記号の読譜）			
⑦	中間発表会 及び 講評（個人指導） 発表後の事後指導									*コード演奏を実施する			中間発表の講評用紙提出
⑧	中間発表の反省と今後の課題 個々の練習計画に沿って実技練習する									*弾き語り（伴奏しながら歌う こと）に慣れる			
⑨	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導									*歌唱力を身につける			
⑩	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導									*歌に入るための合図の実践			
⑪	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導									*曲想や歌詞について理解する			
⑫	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導									*ベダリングの習得			
⑬	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導 発表曲の確認									*実習曲（生活の歌）の習熟			
⑭	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導 期末発表曲のリハーサル									*実習に適した演奏方法を身に つける			
⑮	期末発表会 及び 講評（個人指導） 個人指導 必修曲修得の確認									*子どもが音楽に親しめるよう な環境づくりを考え発表にて 実践する			期末発表の講評用紙提出 受講カードの提出
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	備考		授業終了時点で全ての項目が合格していること。2回の発表曲の合格、必修曲の習得が評価の条件となる。作品・課題の中に必修曲の習得（合格）及び伴奏の形態、発表態度も含む。				
	評価に加えず	評価に加えず	評価に加えず	30%	60%	10%							
使用教科書	2訂版 心を育む子どもの歌（教育芸術社） Colla Parte（越谷保育専門学校）・入学前講習会テキスト									参考図書	子どものうた200・続子どものうた200（チャイルド本社）		
学生への メッセージ	毎日鍵盤に向かい弾くことが上達への一番の近道です。演奏技術の基礎を楽しく学んでいきましょう。									履修上の注意	オリエンテーションの書類をしっかりと確認すること。		
授業担当者の経歴と	横関由紀 幼稚園教諭の経験を活かし、保育現場におけるピアノの演奏の重要さと子どもの音楽活動の意義を学生に伝える。												
	永島晴美 音楽教室で園児を対象にしたピアノを指導した経験を活かし、子どもの音楽活動の意義をピアノの授業を通して学生に伝える。												
	川上由美 音楽教室で園児を対象にしたピアノを指導した経験を活かし、子どもの音楽活動の意義をピアノの授業を通して学生に伝える。												
	前田佳代 幼稚園の正課外活動でピアノを園児に定期的に指導した経験を活かし、子どもの音楽活動の意義を学生に伝える。												

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年				
				前期	後期	前期	後期			
59	子どもの弾き語り演習Ⅰ	演習	1		■			選択	横関由紀・永島靖美・谷谷のり子・川上由美・前田佳代	該当する
科目区分	保育の内容・方法に関する科目								担当形態	クラス分け
ディ・ア ＆リ・との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。								《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。								幼児は生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにしていきます。歌を歌い、音楽と共に過ごす環境を作り、音楽に親しむ心を育むことは重要です。この授業では、前期の音楽実技演習に引き続き、更にピアノの実技習得を目指します。また保育者自らの音楽性を磨き、子どもが音楽に親しみ楽しめる環境を想定し指導法の実践を学びます。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。								○	
加わらふ ＆リ・との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。								○	
	「育む・作る・動く・音楽を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。								○	
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。								○	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。								○	
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。								ピアノ 楽典 弾き語り ロールプレイ		
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》						
○日常の保育における歌の伴奏（弾き語り）を想定した基本的演奏技術の習得。				①必修曲の習得（下記具体的な練習内容を含む）						
○子どもが音楽に親しみ、楽しめる環境づくりを身につける。				②歌と伴奏のバランスを考えて演奏する。③楽譜に表記されている演奏表現を理解する。④歌詞の情景をイメージして演奏する。⑤場面に応じた設定で導入を考え、子どもと一緒に歌うことを想定し発表する。						
授業回数	授業計画								授業外学習及び準備等	
①	授業課題・習得目標・授業計画の説明 担当者・練習計画をたてる								音楽実技演習必修終了 ステップⅣ さよならのうたまで ステップⅤ	
②	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導								まめまきまで ステップⅥ うれしいひなまつりまでステップⅦ	
③	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導								子どもの弾き語り演習Ⅰ終了 ステップⅧ	
④	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導								以降、習熟度のレベルによりグレード表記 mp～とする	
⑤	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導 中間発表曲のリハーサル								【具体的な練習内容】	
⑥	中間発表会 及び 講評（個人指導） 発表後の事後指導								*ベダリングの習得	
⑦	中間発表会の反省と今後の課題 個々の練習計画に沿って実技練習する								*曲想に合った演奏方法の習得	
⑧	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導								*導入の方法を考える	
⑨	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導								*実践を想定し、導入から弾き 歌いまでのロールプレイの発表 をする	
⑩	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導								*幼児が音楽に親しみえるような 環境づくりを考え発表にて 実践する	
⑪	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導									
⑫	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導								期末発表の講評用紙提出	
⑬	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導 発表曲の確認									
⑭	期末発表会（第1グループ）及び 講評								受講カードの提出	
⑮	期末発表会（第2グループ）及び 講評									
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	備考	授業終了時点で全ての曲が合格していること。2回の発表曲の合格、必修曲の習得が評価の条件となる。作品・課題の中に必修曲の習得（合格）及び伴奏の形態、発表態度も含む。		
	評価に加えず	評価に加えず	10%	25%	55%	10%				
使用教科書	2訂版 心を育む子どもの歌（教育芸術社） Colla Parte（越谷保育専門学校）・入学前講習会テキスト						参考図書	子どものうた200・続こどものうた200（チャイルド本社）		
学生へのメッセージ	さらなる演奏技術を向上させ、音楽性を磨いていきましょう。授業内発表を通して、部分実習の実践力も身につけていきましょう。						履修上の注意	音楽実技演習が再履修となった学生も受講可能です。この科目を受講していても、2年次開講の子どもたちの弾き語り演習Ⅱは受講出来ますが、この科目も受講していることが望ましい。		
実務経験と科目の関連	横関由紀	幼稚園教諭の経験を活かし、保育現場におけるピアノの演奏の重要さと子どもの音楽活動の意義を学生に伝える。								
	永島靖美	音楽教室で園児を対象にしたピアノを指導した経験を活かし、子どもの音楽活動の意義をピアノの授業を通して学生に伝える。								
	谷谷のり子	音楽教室で園児を対象にしたピアノを指導した経験を活かし、子どもの音楽活動の意義をピアノの授業を通して学生に伝える。								
	川上由美	音楽教室で園児を対象にしたピアノを指導した経験を活かし、子どもの音楽活動の意義をピアノの授業を通して学生に伝える。								
	前田佳代	幼稚園の正課外活動でピアノを園児に定期的に指導した経験を活かし、子どもの音楽活動の意義を学生に伝える。								

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目
				1年		2年		卒業	第2種	保育士		
				前期	後期	前期	後期					
62	保育教材 (ペープサート・パネルシアター)	演習	1		■			選択		*	新井恵美子	該当する
科目区分	保育の内容・方法に関する科目										担当形態	単独
ディ・ア の との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										○	養護と教育に関わる保育内容が、それぞれに関連性を持ち総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。また、現場実習を踏まえて子どもとの関わりに生かせるツールを作成し準備する。
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○	
かかわ の との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	《キーワード》 ・保育者としての自覚 ・読み聞かせの楽しさを体験する
	「読む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										○	
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入し学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										○	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○	
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。										○	
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》								
発達段階に応じた保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。また、対象年齢を意図した保育教材制作の立案・作成を行い、ペープサート・パネルシアターの理解を深める。				①乳幼児期に適した題材を考え作成する ②制作物を発表し、皆で考察する ③乳児・幼児に対する発表の方法を考える ④発表に関するレポートを作成し提出する ⑤兩制作物とも期限内に仕上げる								
授業計画	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	ペープサートの歴史・活用法を学ぶ 乳幼児期に適した教材研究											
②	ペープサートの作成①										乳幼児に適した絵本等を用意する	
③	ペープサートの作成②										題材の内容を理解し、乳幼児にわかりやすい割り付けをする	
④	ペープサートの作成③											
⑤	ペープサートの作成④										乳幼児が興味を持てる導入方法を考える	
⑥	演じ方研究・乳幼児に適したペープサートの発表① レポート										ペープサートを演じた後の気づきや、改善点等のレポートを作成	
⑦	演じ方研究・乳幼児に適したペープサートの発表② レポート										ペープサートを演じた後の気づきや、改善点等のレポートを作成	
⑧	ミニパネルシアターの歴史・活用方法を学ぶ 乳幼児期に適した教材研究										乳幼児が興味を持ち想像力を養える題材を見つける	
⑨	ミニパネルシアターの作成①										乳幼児に適した絵本等を用意する	
⑩	ミニパネルシアターの作成②											
⑪	ミニパネルシアターの作成③											
⑫	ミニパネルシアターの作成④											
⑬	ミニパネルシアターの作成⑤										乳幼児が興味を持てる導入方法を考える	
⑭	演じ方研究・乳幼児に適したミニパネルシアターの発表②										ミニパネルシアターを演じた後の気づきや、改善点等のレポートを作成	
⑮	演じ方研究・乳幼児に適したミニパネルシアターの発表③ レポート										ミニパネルシアターを演じた後の気づきや、改善点等のレポートを作成	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度	参加度	備考				
	評価に加える	評価に加える	15%	20%	50%	15%						
使用教科書	テキストは使用しません パネルシアター用Pペーパー（20枚） くもりら 等教材を指定する						参考図書	パネルシアターやペープサートの書籍 保育雑誌等				
学生へのメッセージ	実習前に自分にステキな宝物(教材)を作り、子どもたちに笑顔で演じられるよう頑張らしましょうね						履修上の注意	作品・レポート提出期限の厳守 欠席・遅刻・早退等も評価に関わります				
実務経験と科目の関連	認可保育園での保育士・園長としての経験や絵本専門士として絵本の研究を活かし、各年代の子どもに合ったパネルシアター・ペープサートの作成と発表の指導。											

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件		授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目
				1年		2年		卒 業	第2種 保育士		
				前期	後期	前期	後期				
65	保育実習ⅠA	実習	2	2月				○	○	相川怜美 ほか専任教員	ホームページ掲載参照
科目区分	保育実習										
ディプロ マコースとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。								○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。								○	保育所(園)での実習を行う中	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。								○	で、乳幼児への理解を深めると ともに、保育所(園)の機能およ び保育士の職務について実践的 に学ぶ。	
カリキュ ラムコースとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分 野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。								○	《キーワード》	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合さ せ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。								○		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自 己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。								○	・観察、参加、部分実習 ・子ども理解	
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取 り組む力を育む。									・保育士の職務 ・守秘義務	
《一般目標》											
・保育所(園)における保育の流れを理解し、主体的に保育に参加 する。 ・保育所(園)の機能や役割について知り、保育士の職務の理解を 深める。 ・礼儀、身だしなみ、挨拶、言葉遣い等における社会的な常識に ついて改めて自覚する。						《到達目標（行動目標）》 ・乳幼児の育ちを理解し、それに応じた保育士の援助や役割を 学ぶ。 ・講義を通して学んだ理論や技術を実践し、保育士として必要 な専門的知識や技術を習得する。 ・保育計画、観察、記録および自己評価等について具体的に理 解する。					
実習内容											
《実習施設／実習機関》 公立保育所(園)（一部私立保育園） / 1年生 2月											
《実習内容》 ・実習保育所(園)について理解する。 ・日々の観察や乳幼児とのかかわりを通して、子どもへの理解を深める。 ・一日の保育の流れを把握し、保育士の役割について理解する。 ・保育課程、指導計画の基礎的な知識を深める。 ・保育の内容や援助の方法を学ぶ ・保育準備や環境構成などの実際を経験し、保育士としての自覚を深める。 ・保育士の職務内容を理解し、職員間の役割分担やチームワークについて理解する。 ・保育士の指導の下、生活や遊びの一部分を担当し保育技術を習得する。 ・保育士と保護者のかかわりの観察を通して、家庭・地域社会との連携を理解する。 ・保育士としての倫理を具体的に学ぶ。 ・安全および疾病予防への配慮について学ぶ。											
※ 事前の準備 ・手遊び習得 ・ピアノ練習 ・絵本、紙芝居の読み聞かせ練習 ・自作の保育教材の実演練習											
《実習計画》 ①授業で【保育実習指導ⅠA】の受講 ②実習課題、心構えの設定 ③実習保育所(園)での事前オリエンテーション ④実習保育所(園)への提出物確認 ⑤実習記録、実習自己評価の提出 ⑥実習事後指導（個別面談）											
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考				
	—	—	—	—	—	—	実習保育所(園)における実習評価及び実習態度、実習終了後の記録、 自己評価等の提出状況などを基に総合的に評価する。 基準に満たない場合には、再実習（再履修）となる				
使用教科書	指定しない						参考図書				
							実習の手引き2024年度版（学校作成） 保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説				
学生への メッセージ	子どもたちとのかかわりや職務について、将来自分が保育者とな った姿をイメージしながら、実習に取り組ましましょう。						履修上の注意				
							保育実習指導ⅠAの単位を修得できていない場合、保育実習 ⅠAは実施できない。				
実務経験と 科目の関連	保育所(園)（幼保連携型認定こども園・保育所型認定こども園含む）に勤務している保育士(保育教諭)が、これまでの 実務経験を活かして、認可保育所(園)における実習指導を行う。										

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目		
				1年		2年		卒業	第2種	保育士				
66	保育実習ⅠB	実習	2	3月				○		○	瑞穂 優 ほか専任教員	ホームページ掲載参照		
科目区分		保育実習												
ディプロマ ポリシーとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。								○	《授業の概要》				
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。								○	保育所以外の児童福祉施設等で、 子どもや利用者とかかわることに より、授業で学んだ保育・福祉の 知識、理論、技術を体系的に習得 する。				
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。								○					
カリキュラム ポリシーとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。								○	《キーワード》				
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。								○					
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。								○	・福祉の心 ・職業倫理				
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。								○					
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。														
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》										
・施設の生活に参加し、子どもや利用者を理解する。				・児童福祉施設等の役割や機能および施設等で働く保育士の業務内容や職業倫理、子どもの権利擁護について説明することができる。										
・施設の役割や機能、保育士の職務を理解する。				・子どもや利用者とかかわりや観察を通して、かわかり方の基本や生活支援を習得し、事例を通して専門者のかわかりを説明することができる。										
				・保育・養護の計画、観察、記録および自己評価等について具体的に理解し、実践による技術、表現力を習得し、事例を通して専門者の役割を説明することができる。										
実習内容													準備等	
《実習施設／実習期間》 1年次3月														
保育所以外のさまざまな種類の福祉施設														
乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設・障害児入所施設 児童発達支援センター（児童発達支援及び医療型児童発達支援を行うものに限る）・児童心理治療施設・障害者支援施設 児童自立支援施設・児童相談所一時保護施設・独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園・指定障害福祉サービス事業所（生活介護、自立訓練、就労移行支援または就労継続支援を行うものに限る）														
《実習内容》													※ 事前の準備	
・実習施設について理解する。													・実習施設レポート	
・対象児（者）とかかわりながら理解を深める。													（種別、実習施設について）	
・施設養護の一日の流れを理解し、参加する。													・各施設に合わせた日誌の書き方の確認等	
・職員間の役割分担やチームワークについて理解する。													・健康診断受診	
・生活や支援などの一部分を担当し、養護技術を習得する。													・細菌検査受診	
・安全及び疾病予防への配慮について理解する。													・麻疹風疹抗体検査または麻疹風疹予防接種受診	
・保育士としての職業倫理を理解する。														
・児童福祉施設等の保育士に求められる資質を理解し、自己の適正を考える。														
《実習計画》														
①授業で【保育実習指導ⅠB】の受講														
②実習課題、心構えの設定														
③実習施設での事前オリエンテーション														
④「実習施設について」レポート提出														
⑤実習施設への提出物確認														
⑥実習記録、実習自己評価の提出														
⑦実習事後指導（個別相談）														
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考		実習施設における実習評価及び実習態度、実習終了後の記録、自己評価等の提出状況などを基に総合的に評価する。基準に満たない場合には再実習（再履修）となる。					
使用教科書	指定しない							参考図書		「施設実習」北大路書房 実習の手引き 2024年度版 「福祉施設実習ハンドブック」（株）みらい 保育所保育指針解説書 認定こども園教育・保育要領解説				
学生への メッセージ	体調管理に留意して実習を充実させましょう。							履修上の注意		保育実習指導ⅠBの単位を修得できていない場合、保育実習ⅠBは実施できない。				
実務経験と 科目の関連	保育所以外の福祉施設に勤務する保育士が、これまでの実務経験を活かして、保育所以外の福祉施設における実習指導を行う。													

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年		卒業	第2種	保育士		
				前期	後期	前期	後期					
68	保育実習指導ⅠA	演習	1		■			○		○	相川怜美	該当しない
科目区分 保育実習											担当形態	単独
ディパ の との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										保育実習ⅠAに向けて、実習のねらいと目的、意義を理解し実習に必要な知識を身に付ける。また、保育所(園)の機能や役割、3歳未満児の発達と生活を確認し、実習生として必要な技術や記録の観点を学ぶ。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○	
かむら の との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										○	《キーワード》
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○	・生命の保持 ・情緒の安定 ・養護 ・子育て支援 ・保育を必要とする子ども
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。											
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》								
・保育実習の目的と意義、実習内容を理解し、自らの実習課題を明確にする。				・保育所(園)の社会的役割や機能、保育士業務について理解し、子どもと適切にかかわることができる。								
・保育士に求められる資質や能力を知る。				・観察やかかわりを通して子ども理解を深め、適切に記録を作成することができる。								
				・自らの保育を評価・省察し、改善するとともに、自己課題を理解し、説明することができる。								
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	授業オリエンテーション（保育実習の意義・目的・実習までの流れ）											
②	保育所の一（保育所の役割と保育者の職務）										個人票・経路図等配布 証明写真の準備	
③	実習の内容と課題の明確化①										実習日誌を確認する	
④	実習の内容と課題の明確化②											
⑤	実習に際しての留意事項① ～子どもの人権と最善の利益の考慮～										個人票の清書を提出	
⑥	実習に際しての留意事項② ～プライバシーの保護と守秘義務～											
⑦	実習記録の書き方① ～0歳児クラスの一～											
⑧	実習記録の書き方② ～1歳児クラスの一～											
⑨	実習記録の書き方③ ～2歳児クラスの一～											
⑩	オリエンテーション、細菌検査の必要性											
⑪	実習記録の書き方④ ～日誌の必要性和日誌の書き方～											
⑫	実習記録の書き方⑤ ～計画と実践、観察と記録および評価～										スケッチブックシアターと部分実習指導案の提出	
⑬	模擬保育① ～指導計画の意義作成～											
⑭	模擬保育② ～場面記録の作成と検討～										確認テスト	
⑮	実習に臨むにあたっての最終確認と実習後の流れ											
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考					
	評価に加えず	10%	40%	評価に加えず	40%	10%						
使用教科書	幼稚園・保育所。認定こども園パーフェクトガイド(わかば社)、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、実習の手引き					参考図書						
学生へのメッセージ	実習を通して、保育の実践を学ぶとともに、保育士としての自己課題を明らかにし、その後の学習につなげていきましょう。					履修上の注意 レポートや実習に関する書類等は提出期限を守りましょう。保育実習指導ⅠAの単位が修得できていない場合は、保育実習ⅠAは実施できない。						
実務経験と科目の関連												

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期						卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	第2種				保育士
				前期	後期	前期	後期						
69	保育実習指導ⅠB	演習	1		■				○		○	瑞穂 優	該当しない
科目区分 保育実習											担当形態	単独	
ディプロマとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										本授業では、施設実習の事前指導として、実習の目的・心構え、実習施設に関する法制度、施設の役割、施設の職員と専門性、利用児（者）の生活の実態、実習中の諸注意などを学ぶ。また、実習後においては自己評価を行い、保育士の役割や職業倫理を理解し次に活かせるようにする。		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○		
	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入しに学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										○	《キーワード》	
カリキュラムとの関連	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○	プライバシーの保護	
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。											守秘義務	
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》									
・施設の社会的役割を知る。 ・利用児（者）の生活や心情を理解する。 ・実習の心得や態度を確認し、実習への意欲を高める。				・講義やDVD視聴を通してそれぞれの施設の役割を理解し、保育士の援助の仕方や、各施設における職務について知る。 ・自ら衣食住、挨拶等に関して望ましい生活習慣を身につける。 ・実習先の施設について、事前学習のレポートを作成する。 ・実習に必要な書類を準備する。									
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	授業オリエンテーション（福祉施設実習の目的・実習のスケジュール等）										実習希望先アンケート		
②	施設実習の目的・実習施設の目的・実習施設の理解（DVD視聴）												
③	施設入所の子ども・利用者の理解と保育士の役割												
④	実習生の立場と心構え（守秘義務・プライバシーの保護等）												
⑤	自分を知る（自己認知）												
⑥	実習の流れと事前準備										実習関係書類を作成		
⑦	福祉施設実習の内容（観察実習・参加実習・指導実習）										自己紹介のための保育教材作成		
⑧	障害児・障害者施設の実習状況（DVD視聴）												
⑨	施設別の実習内容と記録の取り方 ① 児童養護施設												
⑩	施設別の実習内容と記録の取り方 ② 障害児・障害者系施設												
⑪	施設別の実習内容と記録の取り方 ③ その他の施設												
⑫	利用児（者）とのかかわりについて事例研究										グループ討議・発表		
⑬	児童福祉施設の実習状況（DVD視聴）												
⑭	実習に向けての様々な準備（生活習慣の見直し・挨拶・言葉遣い・礼状の書き方等）										確認テスト		
⑮	実習への心得、実習上の最終確認（持ち物・服装・実習記録等書類について）												
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考						
	評価に反映	10%	40%	20%	15%	15%							
使用教科書	未定					参考図書		実習の手引き 2025年度版（学校作成） その他授業時紹介					
学生へのメッセージ	様々な種類の施設について知り、自分が実習する施設以外についても学びを深めていきましょう。					履修上の注意		レポートや実習に関する書類等は提出期限を守りましょう。保育実習指導ⅠBの単位が修得できていない場合は、保育実習ⅠBは実施できない。					
実務経験と科目の関連													

幼稚園教諭保育士養成学科 2年
教科目概要

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 科目配当表（2024年度入学生 2年生）

2025.4.1現在

教養科目卒業要件：9単位以上履修

幼稚園教諭2種免許取得要件：8単位（日本国憲法2・体育2・英語コミュニケーション2・情報機器の操作2）

保育士資格取得要件：8単位（体育講義1・体育実技1・体育以外から6以上）

区分	授業科目	授業形態	単位数	卒業	幼2種	保育士	開講時期・時間				備考
							1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	
教養科目	倫理学	講義	2			⑥単位以上履修				30	
	文学	講義	2							30	
	英語コミュニケーション	演習	2	○	○		30				
	日本国憲法	講義	2	○	○		30				
	社会学	講義	2							30	
	生き物	演習	1	○			30				
	情報機器の操作	演習	2	○	○		30				
	体育講義	講義	1	○	○	○	15				
	体育実技	実技	1	○	○	○				30	
	小計		15					135		120	
卒業必要単位及び時間			9					135		30	(165時間)

専門教育科目卒業要件：73単位以上履修（必修72単位以上及び選択1単位以上）

幼稚園教諭2種免許取得要件：31単位

保育士資格取得要件：62単位（必修53単位 *から9単位以上（保育実習Ⅱ・保育実習指導Ⅱ含む））

（専門教育科目）

区分	授業科目	授業形態	単位数	卒業	幼2種	保育士	開講時期・時間				備考
							1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	
専門教育科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目	子どもの健康とあそび	演習	1	○	○	○	30			
		子どもと人間関係	演習	1	○	○	○		30		
		子どもと環境	演習	1	○	○	○	30			
		子どもの文化と言葉	演習	1	○	○		30			
		子どもの言語文化表現	演習	1	○	○	○		30		
		子どもの音楽基礎演習	演習	1	○	○	○	30			
		子どもの発達と音楽表現	演習	1	○	○	*		30		
		子どもの発達と造形表現Ⅰ	演習	1	○	○	○	30			
		子どもの総合表現	演習	1	○	○	*			30	
		保育内容健康（情報機器及び教材の活用を含む。）	演習	1	○	○	○		30		
	保育の内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育内容人間関係	演習	1	○	○	○			30	
		保育内容環境	演習	1	○	○	○		30		
		保育内容言葉	演習	1	○	○	○		30		
		保育内容表現（音楽）	演習	1	○	○	○			30	
		保育内容表現（造形）	演習	1	○	○	*			30	
		教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	講義	2	○	○	○	30		
	教育の基礎的理解に関する科目	保育・教職論	講義	2	○	○	○	30			
		幼児教育経営学	講義	2	○	○				30	
		発達心理学	講義	2	○	○	○		30		
		特別支援保育	演習	1	○	○	○		30		
		保育・教育課程論	講義	2	○	○	○			30	
		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	幼児教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	演習	1	○	○	*		30	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	子ども理解の理論及び方法	演習	1	○	○	○		30		
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	演習	2	○	○				30	

	授業科目	授業形態	単位数	卒業	幼2種	保育士	開講時期・時間				備考
							1年	1年	2年	2年	
							前期	後期	前期	後期	
教育実践に関する科目	保育・教職実践演習	演習	2	○	○	○				60	
	教育実習指導	演習	1	○	○		30				
	教育実習Ⅰ	実習	2	○	○		60				1年生9月（幼稚園）
	教育実習Ⅱ	実習	2	○	○				60		2年生9月（幼稚園）
・保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	○		○	30				
	子ども家庭福祉	講義	2	○		○	30				
	社会福祉	講義	2	○		○	30				
	子ども家庭支援論	講義	2	○		○			30		
	社会的養護Ⅰ	講義	2	○		○			30		
	自立支援とライフデザイン	講義	2			*				30	
・保育の対象の理解に関する科目	子ども家庭支援の心理学	講義	2	○		○		30			
	子どもの保健	講義	2	○		○		30			
	子どもの食と栄養A	演習	1	○		○			30		
	子どもの食と栄養B	演習	1	○		○				30	
	教育心理学	講義	2			*				30	
・保育の内容・方法に関する科目	保育内容総論	演習	1	○		○				30	
	乳児保育Ⅰ	講義	2	○		○		30			
	乳児保育Ⅱ	演習	1	○		○			30		
	社会的養護Ⅱ	演習	1	○		○				30	
	子育て支援	演習	1	○		○				30	
	子どもの健康と安全	演習	1	○		○			30		
	特別支援保育Ⅱ	演習	1	○		○			30		
	子どもの発達と造形表現Ⅱ	演習	1	○		*		30			
	子どもの発達と造形表現Ⅲ	演習	1			*				30	
	音楽実技演習	演習	1	○			30				
	子どもの弾き語り演習Ⅰ	演習	1			*		30			
	子どもの弾き語り演習Ⅱ	演習	1			*			30		
	子どもの運動あそび	演習	1			*			30		
	保育教材（ベアサート・パズルシアター）	演習	1			*		30			
	保育教材（パペット・エプロンシアター）	演習	1			*			30		
	こどもとおもちゃ	演習	1			*			30		
保育実習	保育実習ⅠA	実習	2	○		○			80		1年生2月（保育）*
	保育実習ⅠB	実習	2	○		○			80		1年生3月（施設）*
	保育実習Ⅱ	実習	2	○		*			80		2年生8月（保育）
	保育実習指導ⅠA	演習	1	○		○		30			
	保育実習指導ⅠB	演習	1	○		○		30			
	保育実習指導Ⅱ	演習	1	○		*			30		
専門科目 開講単位数・開講時間小計			83				960	1110			
教養科目及び専門科目 開講単位数・開講時間合計			98				1,095	1,230			
卒業必要単位及び時間数（選択1単位を30時間2年次前期選択として換算）			82				1,035	930			1,995
専門科目72単位＋選択1単位＋教養9単位：合計82単位											

*保育実習ⅠA、保育実習ⅠBの単位認定は2年次になります。

実習時期は、原則決められた時期に実施予定。ただし、受け入れ先の都合で変更する場合があります。

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 開講科目一覧（2024年入学生）

番号	教科目名	担当講師名	開講年次
1	倫理学	未定	2
2	文学	山崎英二	2
3	英語コミュニケーション	開講済み	1
4	日本国憲法	開講済み	1
5	社会学	未定	2
6	生き物	開講済み	1
7	情報機器の操作	開講済み	1
8	体育講義	開講済み	1
9	体育実技	会田秀樹・東海林孝	2
10	子どもの健康とあそび	開講済み	1
11	子どもと人間関係	開講済み	1
12	子どもと環境	開講済み	1
13	子どもの文化と言葉	開講済み	1
14	子どもの言語文化表現	開講済み	1
15	子どもの音楽基礎演習	開講済み	1
16	子どもの発達と音楽表現	開講済み	1
17	子どもの発達と造形表現Ⅰ	開講済み	1
18	子どもの総合表現	横関由紀	2
19	保育内容健康	開講済み	1
20	保育内容人間関係	瑞穂 優	2
21	保育内容環境	開講済み	1
22	保育内容言葉	開講済み	1
23	保育内容表現（音楽）	渋谷るり子	2
24	保育内容表現（造形）	森高光広	2
25	教育原理	開講済み	1
26	保育・教職論	開講済み	1
27	幼児教育経営学	星野敏子	2
28	発達心理学	開講済み	1
29	特別支援保育	開講済み	1
30	保育・教育課程論	狩野浩二	2
31	幼児教育の方法及び技術	開講済み	1
32	子ども理解の理論及び方法	開講済み	1
33	教育相談の理論及び方法	殿塚貴史	2
34	保育・教職実践演習	元木 廉	2
35	教育実習指導	開講済み	1
36	教育実習Ⅰ	開講済み	1
37	教育実習Ⅱ	渋谷るり子 他専任	2
38	保育原理	開講済み	1
39	子ども家庭福祉	開講済み	1
40	社会福祉	開講済み	1
41	子ども家庭支援論	村田裕子	2
42	社会的養護Ⅰ	船澤修一	2
43	自立支援とライフデザイン	船澤修一	2
44	子ども家庭支援の心理学	開講済み	1
45	子どもの保健	開講済み	1

番号	教科目名	担当講師名	開講年次
46	子どもの食と栄養A	佐々木優美	2
47	子どもの食と栄養B	佐々木優美	2
48	教育心理学	殿塚貴史	2
49	保育内容総論	元木 廉	2
50	乳児保育Ⅰ	開講済み	1
51	乳児保育Ⅱ	相川怜美	2
52	社会的養護Ⅱ	戸川安俊	2
53	子育て支援	蓮井千恵子	2
54	子どもの健康と安全	中村千景	2
55	特別支援保育Ⅱ	西原彰宏	2
56	子どもの発達と造形表現Ⅱ	開講済み	1
57	子どもの発達と造形表現Ⅲ	森高光広	2
58	音楽実技演習	開講済み	1
59	子どもの弾き語り演習Ⅰ	開講済み	1
60	子どもの弾き語り演習Ⅱ	横関由紀・永島靖美他	2
61	子どもの運動あそび	東海林孝	2
62	保育教材（ペープサート・パネルシアター）	開講済み	1
63	保育教材（リベット・エプロンシアター）	武田真理恵	2
64	こどもとおもちゃ	武田真理恵	2
65	保育実習ⅠA	開講済み	1
66	保育実習ⅠB	開講済み	1
67	保育実習Ⅱ	相川怜美 他専任	2
68	保育実習指導ⅠA	開講済み	1
69	保育実習指導ⅠB	開講済み	1
70	保育実習指導Ⅱ	相川怜美	2

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期						卒業・免許資格要件	実務経験のある 教員による 授業科目		
				1年		2年		卒業	幼 2 種			保 育 士	
				前期	後期	前期	後期						
1	倫理学	講義	2					■				未定	
科目区分		教養科目（選択）										担当形態	単独
ディパ & リーとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。											毎日の生活や現代社会での倫理的な問題について、様々な考え方を説明する。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。											毎回異なるテーマに関する講義を行い、それによって受講者自身の思考力を養うことを目指す。	
おわり & リーとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	《キーワード》	
	「読む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。											・価値 ・善さ ・生きることの 意味 ・利己心 ・利他心 ・個人 ・社会	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○		
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。													
《一般目標》													
・倫理とは何か？という問いを掲げながら倫理思想史を概観する ・日常生活における倫理的な問題に関する様々な意見や考え方を知り自分自身の意見を考察する。							・毎日の生活の中にある倫理的な問題を指摘できる。 ・授業で学んだ知識を元に、自分の立場で物事を考え、根拠を説明できる。 ・論理的な思考力を育て、社会生活で応用できる。						
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	倫理学を学ぶ意味について										予習について： 事前に次回授業についての資料が配られている時は、よく読んでおくこと。 また、授業で扱われる内容について自分の意見や感想を考えておくこと。		
②	善く生きるとは何かーソクラテスの投げかけた問いについて考える												
③	価値について①ー美的判断はどのように成立するか（プラトンのイデア論を参考に）												
④	価値について②ー人間の価値判断について												
⑤	人間の探究①人間は利己的か利他的か										復習について： 授業に関する資料やノートをもう一度読み、どのような議論が紹介されたかを確認しておくこと。		
⑥	人間の探究②社会の中の個人という視点について												
⑦	人間の探究③人間と人間はどこまで理解し得るか												
⑧	人間の探究④「道徳感覚」という説を提唱したシャフツベリの思想												
⑨	人間の探究⑤アダム・スミスの説く「公平な観察者」と「共感」について												
⑩	人間の「感情」と「理性」と倫理について												
⑪	行為の動機と結果について①												
⑫	行為の動機と結果について②												
⑬	今までの授業で興味深いと感じた倫理的視点についての意見交換												
⑭	倫理と道徳の違いについて考える												
⑮	全体のまとめ												
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考		担当者が決まり次第シラバスを差し替え、周知します				
	評価に加えず	評価に加えず	55%	評価に加えず	評価に加えず	45%							
使用教科書						参考図書							
学生への メッセージ	倫理学に触れることは新しい発見があると思います。 今後の社会生活に役に立つことを期待します。					履修上の注意							
実務経験と 科目の関連													

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期						卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	幼2種				保育士
				前期	後期	前期	後期						
2	文学	講義	2				■				山崎英二	該当しない	
科目区分		教養科目（選択）									担当形態	単独	
ディ・09 ※リとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》 登場人物に投影された作者の「思い」と、作家の実生活を考える価値を説明する。子どもをとりまく暮らしに焦点を当て、人が営む生活の価値が描かれている作品を紹介する。	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										○		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○		
	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○		
	「読む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
かわらぬ ※リとの関連	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。											《キーワード》 ①子どもの暮らし ②作者の思い ③読者の日常生活 ④想像力と思いやり	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検すること、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。										○		
《一般目標》 ①作家の子どもに対する「思い」を理解し、作家が物語を紡ぐに至った過程を知ること、子どもに物語を提供することの意義を理解する。②作品を通して、感動する心、相手を気遣う思いやりの心の重要性を再認識し、保育の現場で絵本や物語を有効に活用できる。③多様な経験をした作家の日常を知り、保育者としての資質を豊かにする。				《到達目標（行動目標）》 ①文学作品に対する興味を深め、作品の内容だけでなく作家の思いや作家が生きた背景を理解し、その価値を説明できる。②保育者として自らの教育観を確認し、絵本や物語を子どもに提供する際、作者の思いを反映させ子どもの暮らしに生かす。③豊かな仮定世界を提供してくれる児童文学作品の存在意義を理解する。									
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	『さびしいおさかな』 別役 実作 子どもが感じる「さびしさ」について										子どもの心情を考え、なぜ物語を好み、聞きたがるのかを考察する。		
②	『トム・ソーヤの冒険』 マーク・トゥエイン 作 ミシシッピ川が与えるもの										児童文学の舞台としての自然環境について考える。		
③	『クマのプーさん』 アラン・A・ミルン 作 主人公の純粋で真っ直ぐな気持ち										子どもの純粋で素直な精神とは何かを再認識する。		
④	『カモメに飛ぶことを教えた猫』 ルイス・セプルベタ 誰かを育てるとはどのような事か										作家の思いが物語になる瞬間は、いつ訪れるのかを考える		
⑤	『二十四の瞳』 坪井 栄 作 人々を温かく迎える小豆島 作品の舞台と作者の思い										作品の舞台を問題にし、ある場所に対する人の思いを考える。		
⑥	『ピーターラビットのおはなし』 ビアトリクス・ポター 作 身近な動植物と人とが織り成すドラマ 厳しい自然を生き抜く動植物										作家が身近な動植物を主題とする意義を考える。		
⑦	『狼の王子さま』 サン・テグジュペリ 作 砂漠に取り残された作家の経験										作家の実体験が作品にどのように活かされているのかを考える		
⑧	『12人の兄弟』 グリム童話 なぜ名作が生まれ、人々に受け入れられたのか										グリム兄弟の時代背景、功績について考える。		
⑨	『山賊のむすめローニャ』 アストリッド・リンドグリーン 作 他者と触れ合う気持ち										人と出会い関係を築いていく過程について考える。		
⑩	『おじいさんのランプ』 新美 南吉 子どもと地域とのつながりについて										物語の背景を考えることで、子どもを取り巻く地域社会を考える		
⑪	『幸福の王子』 オスカー・ワイルド 作 他者のために行動する行動について										何かを受容する事と、何かを与えることの本質を考える		
⑫	『祭りの晩』 宮澤 賢治 作 作品に描かれた温かい思い										作品に描かれた、作家の温かい思いやりについて考える。		
⑬	『モモ』 ミハエル・エンデ 子どもと時間感覚と、他者のために使う時間										子どもが時間をいかに理解するのかを考える。		
⑭	『床下の小人たち』 メアリー・ノートン 作 日頃持つことのない視点										常日頃、当たり前だと認識している事について考える。		
⑮	なぜ冒険に出かけるのか 世界を与えることの意味 ここではないどこかへ 冒険物語と紀行文学について 豊かな仮定										豊かな仮定世界とは何かを考える。		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考						
	評価に加える	評価に加える	評価に加える	40%	評価に加える	60%							
使用教科書	指定しません。					参考図書	授業内で適宜紹介します。						
学生へのメッセージ	作家の心情を考えるを通して、子ども観、人生観を豊かにしていきましょう。					履修上の注意	親しみやすい作品を通して、自分たちの暮らしを振り返る機会としてください。						
実務経験と科目の関連													

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

2020年度 幼稚園教諭第二種免許科目 教育科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年		卒業	2種	保育士		
				前期	後期	前期	後期					
5	社会学	講義	2				■				未定	
科目区分		教養科目（選択）									担当形態	単独
ディプロマ との関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									○	親とは子どもが社会化した個人である。どのように社会化してきたのかによって、子育ても異なる。子どもが生まれれば自然と親になるのではなく、親も家族や各種の集団を通じて地域社会から現在も大いなる影響を受けて生活を送る。保育者が親に日々伝える内容として、何を素材に出来るのか。社会学の研究成果等をヒントに見出す。	
おわら との関連	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。									○		
	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入し学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。											
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○	地域社会、集団（血縁、地縁、隣縁、知縁、仲縁）、個人、ライフチャンス、ライフチョイス、家族、ライフサイクル、ライフコース、社会化、異文化行動、登壇拒否、いじめ、虐待	
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。											
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》								
①これまでの研究成果を知ることで、“社会”についての想定範囲を増やす。				①園内で起こるさまざまなことが、社会と結びついていることが解る。								
②各家庭の生活の“クセ”を見抜けるようになる。				②子どもや親の生活課題のストーリー性（背景）が見えるようになる。								
③実際に親や子どもに充実したコミュニケーションを図れるようになる。				③現実に起きていることの問題点や今後の課題が整理、説明できるようになる。								
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	育児をなぜ「育てる側」と「育てられる側」との一方通行と考えたがるのか										「親になる」ということは、どういうことなのかを考える	
②	子どもはどのように扱われてきたのか～親も愛する対象としなかった時代があった～										子どもが愛されなければならない理由を考える	
③	成績上位の息子と運動や音楽に才能を示す娘 ～「育てる側」が何を話せるか～										子どもが安心できる大人（親）像を考える	
④	危険と安全そして子殺しの論理 ～「社会化」抑止と愛着の競走～										子どもは親の所有物ではないことを考える	
⑤	社会化のチャンスとチョイス～異常行動、登壇拒否、不登壇、いじめはつくられる～										親と子がそれぞれにもつ人間関係の質を考える	
⑥	なぜは社会の迷惑なのか？～コロナ、インフル、溶連菌等感染症に対する社会的反応～										他者親子が迷惑となぜ考えるのかを考える	
⑦	病む気を医者は解る ～原因不明の嘔吐や排便・おなら恐怖症そしてストレス解放～										例えば「頭が痛い」子は何を訴えたいのかを考える	
⑧	親の客観性には頼れない①器用・不器用										できない子がいる理由を考える	
⑨	親の客観性には頼れない②子どもの見聞										親が知らないこととは何かを考える	
⑩	親の客観性には頼れない③親の状況判断										親のできる情報収集には限度があることを考える	
⑪	親が子どもに話すこと ～子ども（親）は親（子ども）の状況を判断できずにいないか～										親の社会化（親）が子どもに影響しているかを考える	
⑫	普通の家族とは ～社会学の研究成果が語ること～										典型をふまえて、普通の家族があるのかを考える	
⑬	親の生活リズムやライフコース ～子どもに影響していることとは～										子どもが親に振り回されていることが何かを考える	
⑭	虐待の定義とその実情 ～親も気づかない、親も必死にものごとを～										何が虐待なのかを解ってもらうことを考える	
⑮	地域社会（社会資源）の中で、有意義な子育てができるということとは？										親とのコミュニケーションの重要性を再確認する	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考		担当者が決まり次第シラバスを差し替え、周知します			
	評価に加入	評価に加入	50%	評価に加入	評価に加入	50%						
使用教科書							参考図書					
学生へのメッセージ							履修上の注意					
実務経験と科目の関連												

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目		
				1年		2年		卒 業	第 2 種	保 育 士				
				前期	後期	前期	後期							
9	体育実技	実技	1				■	○	○	○	会田秀樹・東海林孝	該当しない		
科目区分		教育職員免許法施行規則第66条の6に関する科目 / 教養科目（体育）									担当形態	クラス分け		
ディ ファ ン シ ャ と の 関 連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									《授業の概要》 教育者（保育者）にとって健康を維持するために必要な体力の保持増進や、各競技が社会性・協調性を育むことをねらいとして行う。				
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。													
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。													
が け つ と の 関 連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○				
	「育む・作る・動く・遊ぶを楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。													
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入し学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。									《キーワード》				
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。													
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												○	
《一般目標》 体力の保持増進、及び社会性や協調性を身につける				《到達目標（行動目標）》 ○自分の体力を理解し、それに応じて運動に取り組むことができる ○各競技において作戦を考えたり、話し合ったり、試合前後の挨拶ができる										
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等			
①	ポッチャ（ルールの確認・基本動作）										越谷保育専門学校にて実施 パラリンピックの正式種目です。			
②	ポッチャ（ルールの確認・基本動作）										越谷保育専門学校にて実施 パラリンピックの正式種目です。			
③	卓球（ルールの確認・基本動作・簡易ゲーム）										越谷保育専門学校にて実施			
④	ビーチボールバレー（ルールの確認・基本動作・ゲーム）										吉川市の本学園付属施設で実施 2時間連続で実施			
⑤	ビーチボールバレー（基本動作・ゲーム）													
⑥	卓球（ルールの確認・基本動作・簡易ゲーム）										越谷保育専門学校にて実施			
⑦	ビーチボールバレー（基本動作・ゲーム）										吉川市の本学園付属施設で実施 2時間連続で実施			
⑧	ビーチボールバレー（基本動作・ゲーム）													
⑨	ビーチボールバレー（基本動作・ゲーム）										吉川市の本学園付属施設で実施 2時間連続で実施			
⑩	ビーチボールバレー（基本動作・ゲーム）													
⑪	卓球（ルールの確認・基本動作・ダブルスゲーム）										越谷保育専門学校にて実施			
⑫	バドミントン（ルールの確認・基本動作・簡易ゲーム）										吉川市の本学園付属施設で実施 2時間連続で実施			
⑬	バドミントン（ルールの確認・基本動作・ダブルスゲーム）										A組とB組隔週で行います。			
⑭	バドミントン（ルールの確認・基本動作・団体戦）										吉川市の本学園付属施設で実施 2時間連続で実施			
⑮	バドミントン（ルールの確認・基本動作・団体戦）										A組とB組隔週で行います。			
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	備考							
	評価に加えず	評価に加えず	評価に加えず	評価に加えず	75%	25%								
使用教科書	なし						参考図書						なし	
学生への メッセージ	心地よい疲労感を味わってください						履修上の注意			体育館シューズを必ず履くこと				
実務 の 関 連 と 科 目	会田秀樹													
	東海林孝													

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	卒業	幼2 種	保 士		
20	保育内容人間関係	演習	1			■		○	○	○	瑞穂 優	該当しない
科目区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法（情報機器及び活用を含む）										担当形態	単独
ディパ & リーとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。											子どもたちの「人と関わる力」を育てるための具体的な指導法を事例やロール・プレイングから学びながら、領域「人間関係」のねらいや内容に関する理解を深める。
かわら & リーとの 関連	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○	
	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	
	「読む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										○	
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										○	《キーワード》
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》								
・領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。 ・乳幼児期の「人間関係」の発達を理解し、自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な指導について理解する。 ・乳幼児期の発達の様相をふまえた「人と関わる力」を育てる指導案を作成できる。				1.乳幼児期の「人間関係」における保育者の役割について理解を深める。 2.乳幼児の「人と関わる力」を育てるための指導上の留意点について理解する。 3.乳幼児の発達特性を踏まえた教材や環境構成の重要性を理解し、指導案を作成し、模擬保育やその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。								
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	保育の基本と領域「人間関係」										＜事前＞ 第2章第1節を通読する	
											＜事後＞ ワークシートを完成する	
②	幼児期に育みたい資質・能力と「人間関係」										＜事前＞ 第2章第2節を通読する	
											＜事後＞ ワークシートを完成する	
③	保育の場における「人間関係」										＜事前＞ 教科書第2章第2節を通読する	
											＜事後＞ ワークシートを完成する	
④	個と集団の関係（ロール・プレイングの基本）										＜事前＞ 教科書第3章第1節を通読する	
											＜事後＞ ワークシートを完成する	
⑤	3歳未満児の人間関係の育ち（ロール・プレイング：物の取り合い）・・・仲間とのつながり										＜事前＞ 教科書第3章第2節を通読する	
											＜事後＞ ワークシートを完成する	
⑥	3歳児の人間関係の育ち（ロール・プレイング：お店屋さんごっこ）・・・自己と他者										＜事前＞ 教科書第3章第3節を通読する	
											＜事後＞ ワークシートを完成する	
⑦	4歳児の人間関係の育ち（ロール・プレイング：ままごと）・・・個と集団の関係										＜事前＞ 教科書第3章第4節を通読する	
											＜事後＞ ワークシートを完成する	
⑧	5歳児の人間関係の育ち（ロール・プレイング：リレーごっこ）・・・小学校との接続										＜事前＞ 教科書第3章第5節を通読する	
											＜事後＞ ワークシートを完成する	
⑨	ルールのある遊びの保育指導案の作成①（ICTを活用した計画立案と教材研究）										＜事前＞ 教科書第3章第6節を通読する	
											＜事後＞ 指導案作成の準備をする	
⑩	ルールのある遊びの保育指導案の作成②（指導案作成）										＜事前＞ 指導案作成の準備をする	
											＜事後＞ 指導案を作成する	
⑪	ルールのある遊びの保育指導案の作成③（模擬保育1）										＜事前＞ 模擬保育の準備をする	
											＜事後＞ 模擬保育のまとめをする	
⑫	ルールのある遊びの保育指導案の作成④（模擬保育2）										＜事前＞ 模擬保育の準備をする	
											＜事後＞ 模擬保育のまとめをする	
⑬	ルールのある遊びの保育指導案の作成④（評価・省察）										＜事前＞ 模擬保育を振り返る	
											＜事後＞ 指導案を改善する	
⑭	多様な子どもの出会いと育ちあい										＜事前＞ 教科書第4章第3節を通読する	
											＜事後＞ ワークシートを完成する	
⑮	まとめ（保育と人間関係）										＜事前＞ これまでの課題を見直す	
											＜事後＞ 返却物を整理する	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考					
	評価に加えず	評価に加えず	20%	30%	20%	30%						
使用教科書	吉川晴美・関口はつ江・義永睦子 編著 保育内容「人間関係」「共に育つ・創る」をめざして ミネルヴァ書房										参考図書	・幼稚園教育要領—平成29年告示 ・保育所保育指針—平成29年告示 ・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領—平成29年告示
学生へのメッセージ	ロール・プレイングや模擬保育を通して、「人間関係」を学びます。積極的に参加してください。										履修上の注意	
実務経験と科目の関連												

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目
				1年		2年		卒業	幼 2 種	保 育 士		
				前期	後期	前期	後期					
23	保育内容表現（音楽）	演習	1			■		○	○	○	渋谷るり子	該当しない
科目区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法（情報機器及び活用を含む）										担当形態	単独
ディグ の 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。											保育内容表現の領域を音楽の側面から、内 容の理解と指導と援助の方法を学びます。1
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○	年次に学んだ基礎と発達や学びの過程を総 合し、保育を構想していく力を身につける
おわ の 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的 に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	ために、あそびの実践・模擬保育・事例を 通して主体的に学習します。
	「読む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										○	
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返り を通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。											《キーワード》
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検する ことで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○	領域表現・表現の特性と発達 ICTの活用
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を 育む。										○	模擬保育と指導案
《一般目標》								《到達目標（行動目標）》				
○領域《表現》の「ねらい」と「内容」を理解する ○音楽に関する発達や学びの過程を理解する ○表現活動を中心とした保育の方法を身につける ○保育者として必要な表現力を身につける ○ICTの活用を理解する								①年齢ごとの表現あそびを通し指導上の留意点を理解する ②指導計画 をふまえた年齢ごとの表現活動を知る ③指導案を作成する ④模擬保 育を実践する ⑤模擬保育を自己評価・省察する ⑥情報機器の活用に ついて知る				
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	領域《表現》のねらいと内容 乳児の音楽的発達 乳児の表現あそび											
②	領域《表現》のねらいと内容 1歳以上3歳未満児の音楽的発達 3歳未満児の表現あそび 情報機器の活用について											
③	領域《表現》のねらいと内容 1歳以上3歳未満児の音楽的発達 【絵本 ベんぎんたいそう】 指導案の作成と模擬保育											
④	領域《表現》のねらいと内容 3歳以上児の音楽的発達 3歳以上児の表現あそび①											
⑤	3歳以上児の表現あそび② 【電車くんの一生 他 集団のあそび】											
⑥	3歳以上児の表現あそび③ 【絵本 ねこのビートだいすきなしろいくつ】 指導案の作成と模擬保育 小学校との連携											
⑦	身近な素材を使った表現あそび（新聞紙シアター） 【新聞紙シアター ねずみくんのぼうけん】 指導上の留意点											
⑧	身近な素材を使った表現あそび（形を楽しむ） 実践と指導案 【新聞紙であそぼう】											
⑨	表現あそびを考える① 指導案 指導場面と保育の構想											
⑩	表現あそびを考える② 指導案の作成と模擬保育 振り返りと保育の改善											
⑪	表現あそびを考える③ 模擬保育と振り返り 保育の改善にむけて											
⑫	歌唱活動の指導法 年齢ごとの発達 いろいろな歌 【手話ソング わらべうた等】											
⑬	即興で表現する① 即興で物語をつくる 子どもと保育者で物語をつくろう											
⑭	即興で表現する② クラス全員で物語をつくろう											
⑮	オノマトペを使った表現あそび 園における評価の考え方 小学校教科との関連											
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考					
	評価に加えず	評価に加えず	70%	評価に加えず	15%	15%						
使用教科書	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書、 認定こども園教育・保育要領解説、 保育者養成のための音楽表現（大学図書出版）						参考図書	ユニバーサルデザインの音楽表現（朝文書林） 子どもの音感の世界（朝文書林） 事例で学ぶ保育内容 領域表現（朝文書林）				
学生への メッセージ	自らが表現者である意識を持ち、心を開放して表現を楽 しみましょう						履修上の注意	床に座ったりできる動きやすい服装で参加してください。 上履き持参・スカートは適さない				
実務経験と 科目の関連												

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目	
				1年		2年		卒業	幼 2 種	保 育 士			
				前期	後期	前期	後期						
24	保育内容表現（造形）	演習	1			■		○	○	*	森高光広	該当する	
科目区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法（情報機器及び活用を含む）										担当形態	単独	
ディ・ア & 9-との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。											乳幼児は自ら生きていくための力を様々な経験や行動を通して獲得していく。5領域の中でも「造形」の学びは大切である。子どもの感性を育み主体性を大切にして、自らの感性を駆使して楽しく制作する大切さを再確認し、具体的な手立てを身につけることを目的とする。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○		
	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										○		
加わいふ & 9-との 関連	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入し学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。											《キーワード》	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検すること、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○	○子どもの表現の多様性を知る ○子どもの表現や活動には個人差がある ○育てたい学びが実現できる制作や活動を現場や保育現場も踏まえて考える。	
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》									
乳幼児の行動は「人間としての営み」としての初め取り縮むことである。生きることから獲得していく行動そのものである。そうした視点から子どもたちとのかかわる学びの中に「ものとのかわり」とともに「人とのかわり」がある。そうしたかわりの中で子ども達は「人間」と育つ。その行為は「造形活動」やその活動の中で多く確認できる。制作を通してこの授業では学ぶ。情報機器の保育での活用も理解する。				大人の考えや方法を教えることが保育や教育ではなくて、子どもが主体的に感じ、考えて行動することを見守る大人が身近にいることは大切である。子どもが主体的な人間に育つために、子どもの造形活動でも主体性を踏まえて援助ができるように、制作や活動の具体的な手立ての基礎を学び、教育現場でも応用できるための力を身につける。									
授業計画	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	子どもの育ちの理解と体系的学び ☆作品画像各自保存、随時確認します 造形・図画工作について テキストから考える										○ 感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。● 常に汚れても汚れてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ		
②	乳児期から幼児期の造形の育ちと行動の理解-1 （みること・見立てること）										○ 感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。● 常に汚れても汚れてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ		
③	乳児期から幼児期の造形の育ちと行動の理解-2 （さわること）紙粘土①										○ 感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。● 常に汚れても汚れてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ		
④	乳児期から幼児期の造形の育ちと行動の理解-3 （さわること）紙粘土②										○ 感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。● 常に汚れても汚れてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ		
⑤	乳児期から幼児期の育ちと行動の理解-3 （材質の違い）										○ 感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。● 常に汚れても汚れてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ		
⑥	乳児期から幼児期の育ちと行動の理解-4 （絵の具遊びから①）										○ 感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。● 常に汚れても汚れてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ		
⑦	乳児期から幼児期の育ちと行動の理解-5 （絵の具遊びから②）組み合わせ										○ 感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。● 常に汚れても汚れてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ		
⑧	乳児期から幼児期の育ちと造形活動-1 （描画と発達の関係 指絵）										○ 感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。● 常に汚れても汚れてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ		
⑨	乳児期から幼児期の育ちと造形活動-2 （描画と発達の関係 見立て遊び、情報機器の活用）										○ 感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。● 常に汚れても汚れてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ		
⑩	乳児期から幼児期の育ちと造形活動-3 （ポップアップ①、情報機器の活用）										○ 感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。● 常に汚れても汚れてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ		
⑪	乳児期から幼児期の育ちと造形活動-4 （ポップアップ②、情報機器の活用）										○ 感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。● 常に汚れても汚れてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ		
⑫	子どもの意欲を引き出す工夫-1 （発達を踏まえ五感を駆使したミニ絵本作①）										○ 感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。● 常に汚れても汚れてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ		
⑬	子どもの意欲を引き出す工夫-1 （発達を踏まえ五感を駆使したミニ絵本作②）										○ 感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。● 常に汚れても汚れてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ		
⑭	子どもの意欲を引き出す工夫-1 （発達を踏まえ五感を駆使したミニ絵本作③）										○ 感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。● 常に汚れても汚れてもよい服装のこと。○ 授業のまとめ		
⑮	まとめ 子どもの成長、発達や興味・関心を基に、造形を計画し実施できる資質をより高めるための手立て 発表 展開指導案例										保育現場や授業で感じた質問事項を1つ以上考えておく。		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考		欠席の場合、当日の課題レポートと欠席回分の制作の提出で加点します。締め切りについては要相談				
	評価に加えず	評価に加えず	35%	15%	35%	15%							
使用教科書	表現教育にはそんなこともできるのか一教師たちのフレキシブルなアプローチに学ぶ 鈴木幹雄、森高光広、他編著、森高光広・他(著) あいの出版 価格2420 ISBN-13: 978-4865550139						参考図書	『造形表現』竹井史郎編、森高光広・他(著)、一橋社、2200円 ISBN-13: 978-4-86359-155-4					
学生への メッセージ	楽しく制作することを通して、子どもの目線で考えて具体的な造形活動の援助ができるように学びます。											履修上の注意	課題は時間内提出を基本とします。制作した作品などの画像は各自スマホで保存します。ICT活用は随時します。
実務経験と 科目の関連	幼稚園・保育園での園児に対する造形活動や小学校低学年の図画工作の指導経験を活かし、系統性も踏まえて、子どもの育ちと行動の理解及び発達に応じた造形活動とその展開について具体的に伝える												

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期						卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	幼2種				保育士
				前期	後期	前期	後期						
27	幼児教育経営学	講義	2				■		○	○	星野敦子	該当しない	
科目区分		教育の基礎的理解に関する科目		必要事項		教育に関する社会的、制度的又は経済的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む）					担当形態	単独	
ディグ の 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									○	《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									○	1.法規や答申などと関連付けながら、保育制度の成り立ち及び現状についての知識を学ぶ。2.保育現場における具体的な事例に基づき、制度の仕組みや課題について深く考察する。		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。												
ディグ の 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○			
	「読む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										《キーワード》		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○	幼児教育制度、保育制度、子ども子育て支援新制度、地域・家庭との連携・関係		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。									○			
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》									
1. 我が国および諸外国の幼児教育制度・保育制度の概要を知る。				1.教育行政制度並びに保育制度の仕組みを理解し、説明できる。									
2. 保育現場におけるの安全・危機管理について理解する。				2.保育制度に関わる法規の歴史的経緯と現状について理解し、説明できる。									
3. 開かれた教育課程に基づく地域や家庭との連携の重要性を知る。				3.近年の保育政策の動向と課題、並びに家庭・学校・社会との連携について理解し、説明できる。									
授業計画		授業計画									授業外学習及び準備等		
①	幼稚園・保育所・子ども園の制度									テキスト第2章1・2・3項を通読			
②	教育基本法・関連法規と幼児教育・保育制度									テキスト第1章を通読			
③	諸外国の幼児教育・保育制度の動向									テキスト第4章を通読			
④	子ども子育て支援制度の概要									テキスト第11章1項を通読			
⑤	幼児教育・保育無償化の意義									テキスト第11章2項を通読			
⑥	子ども子育て支援制度と地域との連携幼児教育・保育無償化の意義									テキスト第11章1項、第4回授業の復習			
⑦	【グループワーク】地域・家庭との連携を考える①企画づくり									第6回授業の復習・企画案を考える			
⑧	【グループワーク】地域・家庭との連携を考える②発表準備									発表資料の作成と発表練習			
⑨	【グループワーク】地域・家庭との連携を考える③発表									発表と振り返り			
⑩	子どもの安全と危機管理									テキスト第6章4項を通読			
⑪	保育者の職務（義務・権利・責任）									テキスト第5章4・6項を通読			
⑫	保育者の研修・関係のあり方									テキスト第5章5・7項、第12章2項を通読			
⑬	社会に開かれた園・保育所									テキスト第10章2・3項を通読			
⑭	保幼小接続の現状と課題									テキスト第11章3項を通読			
⑮	まとめ・子どもに関わる今日の課題（子どもの貧困を考える）									テキスト第6章6項を通読			
評価内容・方法		試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考					
		50%	評価に 加えず	評価に 加えず	20%	20%	10%						
使用教科書		『「共創の時代」の教育制度論 幼児教育・保育から生涯学習まで』（学文社） 星野敦子（編著） 橋田ゆかり・近藤有紀子（著）						参考図書		幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書、 認定こども園教育・保育要領解説、 最新保育資料（ミネルヴァ書房）			
学生への メッセージ		アクティブラーニングを取り入れた授業を行います。積極的に参加してください。						履修上の注意					
実務経験と 科目の関連													

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目
				1年		2年		卒業	幼 2 種	保 育 士		
				前期	後期	前期	後期					
30	保育・教育課程論	講義	2			■		○	○	○	狩野浩二	該当しない
科目区分		教育の基礎的理解に関する科目		必要事項		教育課程の意義および編成の方法（カリキュラム・マ ネジメントを含む）					担当形態	単独
ディプロ マとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》 教育課程概念の成立と教育学における教育 課程研究の全体像を把握する。講義では、 受講生による協働学習を取り入れ、ICTの活 用、プレゼンテーション技法の習熟など、 教員として最小限必要となる資質能力の育 成を図る。	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。											
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。											
	加わら ぬとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的 に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○
		「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										
実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入し学びと実践を融合させ、振り返り を通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。												
学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検する ことで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										《キーワード》 教育課程・カリキュラム・子ども・学 習・問題解決		
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を 育む。												
《一般目標》 ○教育の社会的意義を理解する。 ○教育課程の編成原理を理解する。 ○教育課程の歴史を概観し子どもの発達との関係を理解する。 ○教育課程の編成基盤となる今日の課題について理解する。 ○協働学習に意欲的に取り組む。				《到達目標（行動目標）》 ○教育の社会的意義を理解している。 ○教育課程の編成原理を理解し、自らの学修に活かしている。 ○教育課程の歴史を概観し、子どもの発達について考えることができる。 ○教育課程の編成基盤となる今日の課題について理解している。 ○仲間とともに課題を発見し、追究することができる。								
授業回数		授業計画									授業外学習及び準備等	
①		ガイダンスと協働学習の展開/協働学習修了づくり/協働学習計画の立案/担当する課題と疑問点の析出									テキスト全体の目次に目を通す。 担当する単元の発表項目を検討する。	
②		序章 カリキュラムをなぜ学ぶのか/学びの経験の総体/捉える視点/なぜ学ぶのか—学校の公共性と 教師の役割									テキスト序章を読む。 教育課程の役割について考察する。	
③		第1章 カリキュラムを学ぶために—教育の思想/古代ギリシアと中世ヨーロッパ/宗教改革/国民国 家/20世紀における教育課程/教育課程の批評と編み直し									テキスト第1章を読む。 教育思想の展開を考える。	
④		第2章 教育課程の構成要素/学校・園の教育目標/教育内容/教育内容の組織原理/履修原理/教材									テキスト第2章を読む。 教育課程の構成要素を検討する。	
⑤		第3章 日本における教育課程の歴史的展開/戦前・戦時期/経験カリキュラム/教科カリキュラム/量 から質へ/コンテンツからコンピテンシーへの転換									テキスト第3章を読む。 日本の教育課程史を概観する。	
⑥		第4章 カリキュラムの現代的動向/カリキュラム自由化/国際化・情報化・少子高齢化と低成長への対 応									テキスト第4章を読む。 カリキュラムの現代的課題を考える。	
⑦		第5章 教師によるカリキュラムづくり—授業の省察とデザイン/担い手としての教師/省察とデザイ ン									テキスト第5章を読む。 教師の役割を考える。	
⑧		第6章 教師の学び、教師の省察と成長/知識と省察/新任教師/中堅教師/ベテラン教師/専門家とし ての教師									テキスト第6章を読む。 教師の成長について考える。	
⑨		第7章 教育評価の課題と可能性/教育評価の種類/評価に関する諸問題/教育評価の思想と歴史/指導 要録/新しい評価法									テキスト第7章を読む。 教育評価の課題を考える。	
⑩		第8章 教師と子どもたちによってつくられる単元学習/カリキュラム編成の類型/経験カリキュラム									テキスト第8章を読む。 問題解決学習の系譜を概観する。	
⑪		第9章 子どもたちの多様性と学校での学びの経験/子どもの多様性/家庭の階層的要素/文化的背景/ セクシュアリティ/カリキュラムの公共性									テキスト第9章を読む。 子どもの多様性について考える。	
⑫		第10章 隠れたカリキュラム/学校・園に潜在する人間形成/隠れたカリキュラムの研究/学校・園批判 /隠れたカリキュラム									テキスト第10章を読む。 隠れたカリキュラムについて考える。	
⑬		終章 カリキュラムの探究と今後の課題/探究の概観/これからの課題									テキスト終章を読む。 これからの教育課程のあり方考える。	
⑭		補章 各学校の特色あるカリキュラム編成とカリキュラム評価—大正新教育運動									講義ノートを整理する。 子ども主体の学びを考察する。	
⑮		まとめ これからの時代の教育課程									全学修内容を省察する。 省察内容を文庫化する。	
評価内容・方法		試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考				
		評価に加えず	評価に加えず	30%	60%	評価に加えず	10%					
使用教科書		今井香里、佐藤英二、岩田一正、高井良健『子どもと教師 のためのカリキュラム論』成文堂、2019年、2、400円 （＋消費税）。						参考図書		幼稚園教育要領解説 文部科学省 保育所保育指針解説 厚生労働省 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説		
学生への メッセージ		仲間とともに学び、学ぶ経験に積極的に参画しましょう。						履修上の注意		特になし。		
実務経験と 科目の関連												

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期						卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	2種				保育士
				前期	後期	前期	後期						
33	教育相談の理論及び方法	演習	2			■			○	○	殿塚貴史	該当する	
科目区分		基礎・総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		必要事項		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法					担当形態	単独	
ディ・アールとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										幼児期における教育相談の特徴を把握し、相談援助の基本姿勢や技法について学ぶ。		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○		
	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○		
	「育む・作る・動く・育を愛する」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
がけつらとの関連	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入し学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										《キーワード》		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検すること、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》									
○教育相談の意義と理論を理解する				→教育相談の意義と課題がわかる									
○カウンセリングに関する基礎的事項を含め、教育相談を進める際に必要な基礎知識を理解する				→教育相談にかかわる心理学の基礎的な理論・概念がわかる									
○教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する				→子どもが抱える問題に気づき、把握する方法やカウンセリングの基礎的な姿勢や技法がわかる									
				→教育相談の進め方、それぞれの課題に対する理解、外部機関との連携の意義や必要性がわかる									
授業回数		授業計画								授業外学習及び準備等			
①		オリエンテーション、教育相談とは何か											
②		精神医学と臨床心理学と学校心理学											
③		心理社会的ストレスとは何か								復習として自分のこれまでの人生の中で感じたストレスとその対処方法について振り返る。			
④		不適応と精神疾患								復習として自分や家族や友人などの示す行動や態度を振り返り、不適応行動や精神疾患の要因になりうるものがないか考えてみる。			
⑤		発達障害								復習として自分や家族及び友人、知人の行動や態度を振り返り、発達障害の特性と発症者の行動や態度が在る環境の問題であることに気づけるようにする。			
⑥		臨床心理学の基礎理論1 精神力動理論											
⑦		臨床心理学の基礎理論2 認知行動理論											
⑧		臨床心理学の基礎理論3 人間性心理学											
⑨		臨床心理学の基礎理論4 コミュニティアプローチ・家族療法・ブリーフセラピー								復習としてブリーフセラピー実践を家族や友人にしてみる			
⑩		ロジャーズの3つの態度要件とカウンセリングマインド								復習として家族や友人に対してカウンセリングマインドの実践をしてみる			
⑪		アセスメントとは何か											
⑫		アセスメントの方法1・行動観察法											
⑬		アセスメントの方法2・面接法											
⑭		アセスメントの方法3・心理検査法 質問紙・作業検査・投影法											
⑮		愛着の世代間連鎖と虐待・外傷体験・喪失体験との関連											
評価内容・方法		試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度	備考					
		80%	評価に加えず	10%	評価に加えず	評価に加えず	10%						
使用教科書		教育相談（Next教科書シリーズ）第2版：津川律子 山口義枝 北村世都 編 弘文堂						参考図書	特になし				
学生へのメッセージ		講義が中心となりますが演習、指導法や質問紙などの心理テストを実施して自己理解や自己分析を進めていく機会をお預けします。また自分の考えを持ち、伝え、相手の考えを尊重し、建設的に参加してください。						履修上の注意	毎回の授業中に板書したことを必ずノートに取る。その内容が成績評価の1つになる。				
実務経験と科目の関連		中学校での心理相談員やメンタルクリニックでのインテーカーとしての心理アセスメントの経験に基づき、子どもや子どもを取り巻く環境の問題や課題について理論的かつ実践的知識を教授する											

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	第2種	保育士			
前	後	前	後										
34	保育・教職実践演習	演習	2				■	○	○	○	元木 康	該当しない	
科目区分		教育実践に関する科目									担当形態	単独	
キャリアとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									○	＜授業の概要＞ ①これまでの授業や各種活動を通して学んだ学習成果が定着しているかを確認し、各自の課題の発見と実践力の向上を図る。授業内容としては具体的な教材や行事、保育・教育方法等を取り上げる。 ②効果的な学習成果を得る方法として、グループセッションと発表、模擬指導、フィールドワーク等の授業形態を取り入れる。 ③学習成果を確認するため、履修カルテを活用する。		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									○			
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。									○			
知識・技能との関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○	＜キーワード＞ ①保育者に求められる資質能力の確認（履修カルテ・学習成果） ②学び続ける保育者 ③グループ活動（チーム学校） ④サービス・ラーニング		
	「育む・作る・動く・喜ぶを楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。									○			
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入して学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。									○			
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○			
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。									○			
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》									
①保育者になるためにこれまで養ってきた使命感や情熱、人間性、価値観等、及び各科目で学んできた知識・技能等を踏まえ、「学びの軌跡の集大成」の授業とする。 ②将来、保育者になる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、保育・教職生活をより円滑にスタートできるようにする。				①カルテの記載内容を踏まえて、自己の学習達成状況を把握しつつ、保育者としての強みや課題を理解する。講義・グループセッション活動等から、生涯学び続ける保育者の姿勢を身に付ける。 ②個人の学習活動を踏まえたグループセッションや模擬指導、フィールドワーク等に積極的に参加する。 ③アクティブラーニング、講義における双方向性を大切にし、主体的に能動的に対話をとおした授業を展開する。									
授業計画		授業計画									授業外学習及び準備等		
①		授業概要及び授業計画説明・履修カルテを用いた自己評価									講義・履修カルテ記入		
②		越谷保育専門学校の先輩からキャリアを学び、自らの進路に活かす（GT 本校卒業生）									講義・グループセッション・演習		
③		幼児教育と宗教について～フタナベ学園の建学精神から学ぶ～（GT キリスト新聞社長）									講義・グループセッション・演習		
④		教師像について（GT元公立小学校長）									講義・グループセッション・演習		
⑤		子どもの絵の描き方・育て方・版画（GT 元公立小学校長）									講義・グループセッション・演習		
⑥		幼児小連携教育 ～A校研究発表と遊びのトットちゃんから学ぶ～									講義・グループセッション・実習		
⑦		子ども理解と保育実践 ～カウンセリングをグループワークで学ぶ～									講義・グループセッション・演習		
⑧		子どもたちのキャリア教育 ～キッズニアから学ぶ～（GT キッズニア社員）									講義・グループセッション・演習		
⑨		キャリアの充実・日本版オーネットの活用									講義・グループセッション・演習		
⑩		教員越境の可能性（GT NPO法人代表）									講義・グループセッション・演習		
⑪		国際理解教育（GT 元日本人学校校長）									講義・グループセッション・演習		
⑫		健康講座 ～お笑いダイエットと健康～（GT ダイエットインストラクター）									講義・グループセッション・演習		
⑬		話し方教室～コミュニケーション・電話の応対～（GT マナーインストラクター）									講義・グループセッション・実習		
⑭		卒業に向けた行事を考える① 連発骨組づくり（GT 元公立小学校長）									講義・グループセッション・演習		
⑮		電話相談の現状と課題・児童相談所の役割（GT 臨床心理士）									講義・グループセッション・演習		
⑯		0歳から100歳まで子ども達と共に～いろいろの実践紹介～（GT 認定こども園代表）									講義・グループセッション・演習		
⑰		保育者・教育者の労働環境と働き方改革について									講義・グループセッション・演習		
⑱		卒業に向けた行事を考える② 版画 下絵づくり（GT 元公立小学校長）									講義・グループセッション・演習		
⑲		子どもの貧困について（GT NPO法人代表）									講義・グループセッション・演習		
⑳		卒業に向けた行事を考える③版画作り（GT 元公立小学校長）									講義・グループセッション・演習		
㉑		保育環境のICT推進について（GT NPO法人代表）									講義・グループセッション・演習		
㉒		保育者が知っておくべき年金と家計管理の知識～イデコ・ニーサ・年金を知る～									講義・グループセッション・実習		
㉓		卒業に向けた行事を考える④ 版画貼り・仕上げ（GT 元公立小学校長）									講義・グループセッション・演習		
㉔		卒業に向けた行事を考える⑤ 連発仕上げ（GT 元公立小学校長）									講義・グループセッション・実習		
㉕		卒業に向けた行事を考える⑥ 内容の練り上げ サービスラーニングについて									講義・グループセッション・演習		
㉖		卒業に向けた行事を考える⑦ 小道具作成・ダンス練習 子どもの健康と安全について									講義・グループセッション・実習		
㉗		卒業に向けた行事を考える⑧ リハーサル（第2公園） 防災教育について（東日本大震災他）									講義・模擬指導・実習		
㉘		卒業に向けた行事を考える⑨ 連発行事（連発協力校）									講義・フィールドワーク・実習		
㉙		連発行事の振り返り（動画視聴） 指導要録について									講義・グループセッション・演習		
㉚		2年間の学びの振り返り・マンダラチャートを活用したキャリアの積み上げ									講義・履修カルテ記入		
評価内容・方法		試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度	備考					
		評価に加えず	評価に加えず	60%	評価に加えず	10%	30%	①保育者としての専門的知識・実践力・発表力・事務能力・コミュニケーション能力等と講義中の主体的・対話的・積極的な態度を評価する。 ②給保小連携等で協力校に訪問する際は、身だしなみ等を十分に配慮すること。 ③レポートは、フォームによる授業アンケート回答および履修カルテ作成を含む。					
使用教科書		保育・教職実践演習 実践力のある保育者を目指して 明文書庫						参考文献 幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説 幼児教育施設認定こども園教育・保育要領解説 ※チームで適宜情報発信します。A組B組の学び合いも期待しています。					
学生へのメッセージ		今までの授業の集大成となります。授業をとおして各自の保育者像を確立する。ゲストティーチャーの指導で日程は変更になる可能性があります。						履修上の注意 15週で週2の30コマの授業。原則、2年次前期までに開講する「教職に関する科目」及び「保育実習ⅠA」の科目を履修しなければ、受講できません。					
実務経験と科目の関連													

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目
				1年		2年		卒業	幼 2 種	保 育 士		
				前期	後期	前期	後期					
37	教育実習Ⅱ	実習	2			9月		○	○		次行るり子 ほか専任教員	ホームページ閲覧参照
科目区分		教育実践に関する科目										
ディパ の 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									○	幼稚園教諭として求められている知識・技 術について、『観察と参加』を通して実践 的に学びます。視点をもって観察し、省察 しながら自らの保育者像を思い描き、今後 の学びに結び付けていくことに実習の意義 があります。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。									○		
おわり の 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○		
	「読む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。									○		
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。									○	《キーワード》	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○	観察、参加、部分実習 補助的役割・実践 部分実習指導案 幼稚園教諭の職務 自己評価	
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。											
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》								
○幼稚園教諭として必要な『知識・技術』について実践的に学ぶ。				実習の意義や目的を理解し、準備する。								
○保育者の指導を受け、実習内容の理解を深める。				幼稚園教諭としての職務を担当保育者の指導のもと、補助的、部分的に実践する。								
				実習について省察し、自己評価できる。								
				Ⅱ期の実習に向けた自己課題を見つける。								
実習内容												準備等
《実習の観点》												《実習までの事前学習》
・保育の流れを理解する												・オリエンテーションで知った園の方針を繰り返し読み、理解を深めておく
・学校の授業等で学んだ理論と知識を実際の保育との結びつきを考え実践する												・自己管理として食生活の見直し、睡眠時間の確保を行い、体調を整えるようにする
・子どもに親しみ、接し方になじむ												・心の不安を取り除くため、学校の担当講師や友人と情報交換をする
・一人ひとりの子どもの行動を観察しその子に合わせた援助を理解する												・ピアノ楽譜や保育教材等は事前に練習や準備をしておく (ピアノの楽譜は必ず事前にいただき練習をしておくこと)
・指導計画案を立案し、部分実習及び責任実習を体験し、保育を総合的に理解する												・保育教材の準備をする 手あそび、紙芝居、絵本などは自分の物として準備する
・幼稚園教諭に求められる資質、能力、技術に照らし合わせ、自己課題を明確にする												・部分実習や責任実習で実施したい活動内容をオリエンテーション時に伝えられるように準備する。
・預かり保育への参加等により、地域における幼稚園の役割についても理解する												
《実習の形態》												
部分実習および責任実習												
《教育実習Ⅱの評価》												
・実習園からの評価 60%												
・実習記録の内容・態度・実習関係書類の提出状況等 40%として評価する。												
・評価基準に満たない場合には、再実習（再履修）となる												
《事後指導》												
実習終了後は、事後指導・個人面談を受け、実習で学んだ事、反省した事などを後期の学びにつなげる。												
評価内容・方法		試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考				
		—	—	—	—	—	—					
使用教科書		なし						参考図書		実習の日誌と指導案 サポートブック（ナツメ社） 幼稚園教育要領解説 実習の手引き（学校作成）		
学生への メッセージ		自分はどんな保育者になりたいのか、何が足りないのかを自分自身に問いかけ、決意を新たに今後の学習に繋げていきましょう						履修上の注意		教育実習Ⅰの単位を修得していない場合、教育実習Ⅱを実施する事はできない。		
実務経験と 科目の関連		幼稚園（幼保連携型認定こども園）に勤務する幼稚園教諭（保育教諭）が、これまでの実務経験を活かして、幼稚園で実習を指導する										

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年		卒業	2種	保育士		
				前期	後期	前期	後期					
41	子ども家庭支援論	講義	2			■		○		○	村田裕子	該当する
科目区分		保育の本質・目的に関する科目									担当形態	単独
ディプロマ との関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										現在の子育て家庭が置かれている状況を理解し、保育の専門性を背景とした子育て家庭に対する支援について学ぶ。また、様々な子育て家庭のニーズに応じた支援や関係機関との連携についても学ぶ。	
カリキュラム との関連	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。									○		
	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○		
	「読む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入しに学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										《キーワード》	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検すること、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○	子ども・子ども家庭支援・傾聴・受容・共感	
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》								
①子育て家庭に対する支援の目的、意義を理解する。 ②保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と役割について理解する。 ③子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ④ニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状と課題について理解する。				①現代の多様な家族のあり方、子育て家庭の現状を理解する。 ②支援の実践に当たっての基本的な知識、技術を身につける。 ③子育て家庭に対する支援体制の現状や関係機関の役割を知り、保育士としての連携のあり方を理解する。								
授業計画		授業計画							授業外学習及び準備等			
① 初回オリエンテーション									教科書全体に目を通しておく			
② 子ども家庭支援の必要性と機能									教科書序章を読む			
③ 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進									教科書第1章を読む			
④ 子育て家庭の福祉を図るための社会資源									教科書第2章を読む			
⑤ 保育士による地域の資源の活用と自治体・関係機関との連携・協力									教科書第3章を読む			
⑥ 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義									教科書第4章を読む			
⑦ 子どもの育ちの喜びの共有									教科書第5章を読む			
⑧ 保育士に求められる基本的態度									教科書第6章を読む			
⑨ 子ども家庭支援の内容と対象									教科書第7章を読む			
⑩ 障害のある子どもや家庭への支援									教科書第8章を読む			
⑪ 要保護児童及びその家庭に対する支援									教科書第9章を読む			
⑫ 保育所等を利用する子どもの家庭への支援									教科書第10章を読む			
⑬ 地域の子育て家庭への支援									教科書第11章を読む			
⑭ 子ども家庭支援に関する課題と展望									教科書第12章を読む			
⑮ まとめ									これまでの学びを振り返る			
評価内容・方法		試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考				
		50%	評価に加えず	30%	評価に加えず	評価に加えず	20%					
使用教科書		子ども家庭支援論 第2版 北樹出版 原信夫・松倉佳子・佐藤ひろ 編著						参考図書	授業内において適宜紹介する			
学生へのメッセージ		現在の子育て家庭は様々な困難に直面することもあります。保育士としての専門性を活かしたどのような支援が必要とされているのか、一緒に考えていきましょう。						履修上の注意	ゲストティチャーによる講義を1～2回ほど予定しています。			
実務経験と科目の関連		保育園での勤務や家庭訪問型子育て支援事業に携わった実務経験を踏まえ、支援を必要とする家庭に対しての関わり方や子ども家庭支援のあり方を理論と実践に基づいて教授する。										

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目	
				1年		2年					
				前期	後期	前期	後期				
42	社会的養護Ⅰ	講義	2			■		○	○	船澤修一	該当する
科目区分		保育の本質・目的に関する科目								担当形態	単独
ディプロ マとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									①現代社会の構造と養護問題講義②要支援児童と家庭問題③養護問題をライフデザインと関連させて解説する④社会的養護支援のありかたを解説⑤施設種別と概要⑥在宅支援講義⑦相談機関講義⑧支援プロセスと専門職講義⑨アセスメントと個別自立支援計画⑩家庭の養護支援講義⑪チームアプローチとネットワーク⑫関係諸科学説明	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。								○		
	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。								○		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										
加算課 の 関連	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。									《キーワード》	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。								○	社会的養護 家庭の養護 里親 施設 ネットワーク 自己実現 脱施設 チームアプローチ	
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。										
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》							
①現代社会の構造の課題を理解する。②自立におけるライフデザインの重要性について理解する。③社会的養護問題と支援の方法を理解する。④施設支援と地域生活支援の相違を理解する。⑤施設の種別を知る。⑥地域支援の概要を理解する。⑦家庭の養護支援の形態を理解する。⑧アセスメントと個別自立支援計画作成と活用を理解する。⑨専門職とその技術を理解する。⑩チームアプローチとネットワークを理解する。⑪権利擁護と仕組みを理解する。⑫関係諸科学を理解する。				①現代社会の構造の課題を説明できる。②社会的養護支援と支援のあり方を説明できる。③自立支援をライフデザインに関連付けて説明できる。④施設の種別を説明できる。⑤支援を形態別に説明できる。⑥アセスメントや個別自立支援計画の実施と活用ができる。⑦専門職とその役割を説明できる。⑧チームアプローチとネットワークについて説明できる。⑨権利擁護を理解し、仕組みを説明できる。⑩関係諸科学を説明できる。⑪里親制度などの今後の課題を説明できる。							
授業計画		授業計画								授業外学習及び準備等	
①	社会病理としての社会的養護問題Ⅰ子どもと家族のライフデザインと社会（講義、テキスト、スライド、資料）								第1講通読子ども関係記事用意		
②	社会病理としての社会的養護問題Ⅱ子どもと家庭（講義、テキスト、資料）								第1講通読家庭関係記事用意		
③	社会的養護支援の目的・理念：制度・関連法から（講義、テキスト、資料）								第3講通読		
④	社会的養護支援の方法1：養護問題の発生と相談機関（講義、テキスト、資料）								第4章第3節通読		
⑤	社会的養護支援の方法2：相談支援の流れと実施体系と職種（講義、テキスト、資料）								第6・7講通読		
⑥	社会的養護支援の方法3：アセスメントと支援プログラム（講義、テキスト、資料）								第8講通読		
⑦	社会的養護支援の方法4：ライフデザインから 施設養護と家庭の養護（講義、テキスト、資料）								第4講通読		
⑧	支援の方法5：家庭の養護支援の実践（講義、テキスト、VTR、資料）								第10講通読		
⑨	社会的養護支援の方法6：施設種別と支援の実践（講義、テキスト、VTR、資料）								第9・10・13講通読		
⑩	社会的養護支援の方法7：施設種別と支援の実践②（講義、テキスト、VTR、資料）								第9・10・13講通読 レポート課題提示		
⑪	社会的養護支援の方法8：自立支援の実践（講義、テキスト、資料、VTR）								第10章通読		
⑫	社会的養護支援の方法9：ライフデザイン チームアプローチとネットワーク（講義、資料）								第11講通読		
⑬	社会的養護支援の方法10：権利擁護、虐待防止（講義、テキスト、資料）								第3講通読		
⑭	社会的養護支援と関係諸科学（講義、資料）								第11・12通読		
⑮	社会的養護支援の今後の課題								第15講通読		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考				
	70%	評価に加えず	20%	評価に加えず	評価に加えず	10%					
使用教科書	新・基本保育シリーズ6 社会的養護Ⅰ 第2版 中央法規					参考図書		保育者・ソーシャルワーカーのための子ども家庭福祉データブック 2025			
学生への メッセージ	社会的養護支援の実践と支援のあり方について理解し、感染拡大 禍の課題も理解し、期待される支援者になろう。					履修上の注意		考えること、議論することを求めます。			
実務経験と 科目の関連	児童発達支援施設（早期療育）の相談、アセスメント、療育、ネットワークの経験から、対象者の思い、専門支援 技術・方法（チームアプローチ）、連携を応用化できるような実践的、理論的に教授する。										

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目	
				1 年		2 年		卒業	第2種	保育士			
				前期	後期	前期	後期						
43	自立支援とライフデザイン	講義	2					■	選択		*	船澤修一	該当する
科目区分		保育の本質・目的に関する科目										担当形態	単独
ディパ & リーとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										多様性、自己認知、自己実現、自立を ライフデザインの前提として理解す る。学際的支援とライフデザインにつ いて理解する。当事者のライフデザ インについて理解し支援スキルを身に つける。		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。												
かわら & リーとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										《キーワード》 ライフデザイン 多様性 自立支援 自己実現 発達 アセスメント 家族 メンバーの自立と家族の自立 協働と 連携		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。												
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。												
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												
《一般目標》							《到達目標（行動目標）》						
①ライフデザインの意味・意義を理解する。②多様性社会について理解する。③自己認知について理解する。④自立支援をライフデザインとして理解する。⑤協働、連携、必要な支援技術と自立支援について理解する。⑥当事者の思いと体験からライフデザインについて理解する。							①自立支援を、ライフデザインから理解できる。②多様性社会、自己実現、自己認知とライフデザインの関連性を説明できる。③科学的アセスメントに基づく自立支援計画をライフデザインと関連付けて作成できる。④チームアプローチ、ネットワーキングを自立支援の方法として理解できる。⑤当事者の肯定的体験、困難体験をライフデザインの課題として理解できる。						
授業計画												授業外学習及び準備等	
①	誕生から死まで 発達・生活・人生 ライフストーリー概観										レジュメ・資料参照		
②	子ども・親・家庭のライフデザイン										レジュメ・資料参照		
③	社会環境とライフデザイン										報道記事・資料参照		
④	保育ニーズとライフデザイン										資料参照		
⑤	社会的養護問題整理										社会的養護テキスト参照		
⑥	社会的養護問題とライフデザイン										資料参照		
⑦	子どもの発達とライフデザイン										レジュメ・資料参照		
⑧	子どもの発達評価とライフデザイン（実践体験）										資料通読		
⑨	子ども・家族のライフデザインと自立支援計画										資料通読		
⑩	チームアプローチと自立支援										子ども家庭福祉テキスト参照		
⑪	ネットワーキングと自立支援										子ども家庭福祉テキスト参照		
⑫	支援が必要な子どもと家族のニーズ1（当事者とのコミュニケーションを通じて）										資料通読		
⑬	支援が必要な子どもと家族のニーズ2（専門職とのコミュニケーションを通じて）										資料通読		
⑭	保育士の自己実現とライフデザイン										資料通読		
⑮	多様性と自分らしく自己実現のためのライフデザインまとめ										レポート通読		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考						
	60%	評価に加えず	30%	評価に加えず	評価に加えず	10%							
使用教科書	子ども家庭福祉、社会的養護で使用したテキスト						参考図書	ライフデザイン学 ライフデザイン学第2版 誠信書房					
学生への メッセージ	多様性が尊重される社会において大切なのは「自らしく」「あなたらしく」、ライフデザインが描ける私、保育者目指してください。						履修上の注意	アクティブラーニングの授業です。					
実務経験と 科目の関連	多様性や自己実現、自立、学際的支援の視点に立ち、自立的ライフデザイン支援を障害児、家族に対しての実践経験から得られた支援スキルを紹介し身につけられるよう事例を提示し、講義を通して教授する。												

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目	
				1年		2年		卒業	幼 2 種	保 育 士			
				前期	後期	前期	後期						
46	子どもの食と栄養A	演習	1				■		○		○	佐々木優美	該当する
科目区分		保育の対象の理解に関する科目										担当形態	単独
ディプロ マとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										小児期の発達・成長に必要な栄養素 や、適切な食事形態・内容について講 じる。また、調理実習を行い、離乳食 や幼児食の基本について具体的に説明 をする。		
初めから の関連	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○		
	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的 に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。												
	「育む・作る・動く・遊ぶを楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										○		
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返り を通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										○		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検する ことで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										《キーワード》		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を 育む。										食育 食生活 健康 発達 給食 調理実習		
											○		
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》									
保育者として、子どもの成長や発達に必要な食生活に関する知識を身に 付ける。子どもの発達段階に合わせた適切な食事内容を理解する。 栄養教材の作成や調理実習を通して、食育を実践するために必要な技 術を習得する。				1.子どもの発達段階に合わせた食事形態、栄養計画を理解できる 2.食中毒やアレルギー、誤嚥などの課題に対し、衛生面・安全面へ 配慮する必要性を理解し実践できる 3.子どもを取り巻く環境を理解し、保育者として適切な課題解決 策を他者へ説明できる 4.食育の基本を理解し、わかりやすい栄養指導教材や媒体を作成で きる。									
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	オリエンテーション、子どもの健康と食生活の意義										テキストp9-15を通読しておく		
②	栄養に関する基本的知識（5大栄養素）										主要栄養素の種類とその機能について 復習する		
③	バランスの良い食事とは										小テスト実施（栄養素について） 各栄養素の代謝経路について整理する		
④	【食育実践活動】稲の植え付け										保育所給食の給与栄養目標量について まとめる		
⑤	3色食品群の媒体作成（グループワーク）										稲の給日記を描く		
⑥	3色食品群の媒体作成（グループワーク）、稲の観察1										3色食品群の媒体を完成させる		
⑦	妊娠・授乳期・乳児期の栄養（講義）										p.66を通読し、調乳操作を予習する		
⑧	【調理実習】調乳操作、離乳食の試食										レポートをまとめる		
⑨	乳児期の栄養（離乳食模型・調理器具の観察、動画鑑賞）、稲の観察2										レポートをまとめる		
⑩	幼児期の栄養と食生活（講義）										pp.77-81を通読する。		
⑪	幼児期の食生活における問題と対応を考える（AL）										pp.82-83を通読する。		
⑫	【調理実習】幼児期の栄養 カレーライス、野菜クッキー										エプロン・三角巾持参 レポート作成、次回提出		
⑬	食育活動の指導案作成、稲の観察3										授業内に終わらなかった場合、期日までに 指導案を完成させる。		
⑭	学童期の栄養と食生活（講義）										pp.84-90を通読する。		
⑮	【食育実践活動】流しそうめん、デザートづくり										汚れても良い格好で参加すること。		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考						
	50%	10%	10%	10%	10%	10%							
使用教科書	新・子どもの食と栄養（教育情報出版） 編著 今津屋直子、久藤麻子					参考図書		赤ちゃんのための補完食入門 著 相川 晴 その他随時紹介します					
学生への メッセージ	食は子どもの発達・成長と密接に関わる重要なものです。また、時にはアレルギーや誤嚥など の事故に繋がる場合もあります。時代とともに食に対する考えや形式が多様化していくな かで、保育者として必要な知識や技術・知識を学びましょう。					履修上の注意		調理実習の際は衛生面に留意し、華やかなメイクやマニキュアは避けてください。服装は肌 の露出部分が少ない物、動きやすい格好を心がけましょう。					
実務経験と 科目の関連	食育教室や乳幼児健診などにおける指導経験を活かして、保護者視点での悩みやニーズを汲み取り、乳幼児に必要な栄養素や適切 な食事について、演習を通して教授する。												

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期						卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目	
				1年		2年		卒業	第2種				保育士
				前期	後期	前期	後期						
47	子どもの食と栄養B	演習	1					■	○		○	佐々木優美	該当する
科目区分		保育の対象の理解に関する科目										担当形態	単独
ディ'07 と'19との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》 食育の基本を踏まえたうえで、実践的な指導案を講じていく。発表や調理実習の計画作成を通じて考える力やコミュニケーション力を養います。		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。												
加'15 と'19との 関連	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○	《キーワード》 食育 食生活 健康 発達 給食 調理実習	
	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										○		
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入し学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										○		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○		
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。										○			
《一般目標》 保育者として、子どもの成長や発達に必要な食生活に関する知識を身に付ける。一般的な保育施設ばかりではなく、さまざまな児童福祉施設の給食について説明できる。栄養教材の作成や調理実習を通じて、食育を実践するために必要な技術を習得する。										《到達目標（行動目標）》 1.食育教材の作成、食育指導の実践力を習得する 2.食中毒やアレルギー、誤嚥などの課題に対し、衛生面・安全面へ配慮する必要性を理解し実践できる 3.児童福祉施設について理解し、個別対応が必要な子どもに対する応用力を身に付ける 4.さまざまな食事の役割について理解を深め、食育を通じた教育効果について推察できる			
授業計画													授業外学習及び準備等
① 日本の郷土料理マップ・行事食カレンダーの製作①													ビッグマックス、色鉛筆持参 埼玉県郷土料理を調べておく
② 日本の郷土料理マップ・行事食カレンダーの製作②													ビッグマックス、色鉛筆持参 作業が終わらなければ授業外で進める
③ 食育の基本と内容、食育計画の立て方、おやつレシピの作成													pp.109-119を連続しておく
④ 【食育実践活動】稲の収穫、脱穀													汚れても良い服装
⑤ 【調理実習】保育所の間食（グループ別献立）													エフロン・三角巾持参 レポート作成、次回提出
⑥ 食中毒の予防と衛生管理（講義）													pp.146-155を連続しておく
⑦ 【食育実践活動】廃材を利用した食育活動 草木染め、野菜スタンプ													クレヨン、色鉛筆など 汚れても良い服装
⑧ 食育だよりの作成													パソコン室使用 作業が終わらなければ授業外で進める
⑨ 児童福祉施設や家庭における食事と栄養（講義）													pp.132-143を連続しておく
⑩ 食育媒体の活用と実践、食育紙芝居の製作													ビッグマックス、色鉛筆持参
⑪ 食育紙芝居の製作													ビッグマックス、色鉛筆持参 作業が終わらなければ授業外で進める
⑫ 食育紙芝居の発表会													発表会の振り返り、相互評価表を完成させる
⑬ クッキング体験計画書の作成													pp.122-125を連続しておく
⑭ 特別な配慮を要する子どもの食と栄養（講義）													pp.158-175を連続しておく
⑮ 【調理実習】クッキング体験 調理実習													エフロン・三角巾持参 レポート作成
評価内容・方法		試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考					
		40%	評価に加えず	10%	10%	20%	20%						
使用教科書 新・子どもの食と栄養（教育情報出版） 編著 今津屋直子、久藤麻子							参考図書			赤ちゃんのための補完食入門 著 相川 晴 その他随時紹介します			
学生への メッセージ 食育に関する基本的な知識から実践力を身に付けることが目的です。食は命の大切な要素であり、美味しく食べるだけでなく、同時に衛生面や安全面への配慮が必要です。保育者に求められる資質や能力を伸ばしましょう。							履修上の注意			調理実習の際は衛生面に留意し、華やかなメイクやマニキュアは避けてください。服装は肌の露出部分が少ないもの、動きやすい格好をお願いします。			
実務経験と 科目の関連		食育教室や乳幼児健診などにおける指導経験を活かして、保護者視点での悩みやニーズを汲み取り、現場で活かせる実践力を伸ばしていきます。											

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目	
				1年		2年		卒業	幼 2 種	保 育 士			
				前期	後期	前期	後期						
48	教育心理学	講義	2					■	選択		*	殿塚貴史	該当する
科目区分		保育の対象の理解に関する科目									担当形態	単独	
ディパ の 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										乳幼児期を中心とした保育、教育に関係する心理学からの知見を概説する。さらに、子どもたちが生き生きと楽しく『知る』または『学ぶ』ための教育的なはたらきかけについて学習者と共に考察していく		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○		
おわり の 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○		
	「読む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入しに学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。												
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○		《キーワード》 学習 記憶 認知 パーソナリティ 知能 感情・欲求・動機付け
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》									
子どもが生活や遊びのなかで主体的に学ぶことを支えるために、心身の発達過程を理解し、学習のメカニズム等に関する基本的な知識を身につける。 また、クラス運営や個に応じた教育的対応を考察する力を身につける。				・子どもの発達過程や個性に即した教育的対応を考えられる。 ・学習行動のしくみについて説明できる。 ・保育、教育場面における評価について具体的に述べられる。									
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	オリエンテーション 教育心理学とは何か												
②	学習心理学とは何か① 条件づけ理論 古典的条件付け オペラント条件付け トールマンの認知説												
③	学習心理学とは何か② 観察学習と自己効力感												
④	学習心理学とは何か③ 回避と逃避 学習性無力感												
⑤	記憶の心理学① 記憶とは何か 感覚記憶 短期記憶 長期記憶												
⑥	記憶の心理学② 忘却 記憶の変容												
⑦	パーソナリティ心理学とは何か① 特性論と類型論												
⑧	パーソナリティ心理学とは何か② S.フロイトの理論 C.R.ロジャーズ野理論												
⑨	パーソナリティ心理学とは何か③ 性格検査												
⑩	知能とは何か 知能検査 発達検査												
⑪	感情・欲求とは何か												
⑫	動機づけとは何か												
⑬	感覚・知覚・認知とは何か												
⑭	社会心理学と教育との関連① 対人認知 ビグマリオン効果 ハロー効果												
⑮	社会心理学と教育との関連② 帰属理論 認知的整合性理論 心理的リアクタンス理論												
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考						
	80%	評価に加えず	10%	評価に加えず	評価に加えず	10%							
使用教科書	改訂版 たのしく学べる最新教育心理学 教職に関わるすべての人に 櫻井茂雄 編 図書文化社					参考図書	特になし						
学生への メッセージ	講義が中心になりますが演習、実習法や質問紙などの心理テストを実施して自己理解や自己分析を進めていく機会をお提供します。また自分の考えを持ち、伝え、相手の考えを尊重し、建設的に参加してください。					履修上の注意	毎回の授業中に書き出したことを必ずノートに取る。その内容が成績評価の1つになる。						
実務経験と 科目の関連	中学校での心理相談員やメンタルクリニックでのインターンとしての心理アセスメントの経験に基づき、子どもや子どもを取り巻く環境の問題や課題について理論的かつ実践的知識を教授する												

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期						卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	第2種				保育士
				前期	後期	前期	後期						
49	保育内容総論	演習	1					■	○		○	元木 廉	該当しない
科目区分	保育の内容・方法に関する科目										担当形態	単独	
ディパ の との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										○	保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」と「保育の内容」の関連を説明する。既習理論及び実習体験、現場での事例等を通して保育内容について総合的に理解できるよう説明する。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○		
かむら の との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。												
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。											1 保育所保育指針の重要性 2 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 3 各領域との相互関係	
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》							
保育内容は「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」そして「養護」の領域があり、専門的にはそれぞれの領域を別々に学んでいる。しかし、保育実践（教育）の場面ではそれらが当然のごとく、遊びや生活の中で一体的に進められるのである。ですから、保育内容総論は実際の保育現場で、各領域が統合して行われる実態を理解し、保育実践にいかに関与するかを事例に基づきながら学んでいく。						1.保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園に関する基本事項を理解する。 2.子どもの発達と保育内容との関連について理解する。 3.各領域と教育・保育内容について理解し、実際の保育現場での在り方を理解する。 4.教育・保育の実態を総合的に理解し、今後の学びへの目標設定を見直すことができる。							
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	保育内容総論の理解のために										序章を通読しておく		
②	なぜ保育内容総論を学ぶのか 保育の全体構造										第1章を通読しておく		
③	保育内容の変遷とその社会的背景										第2章を通読しておく		
④	こどもの発達や生活に即した保育内容										第3章を通読しておく		
⑤	養護と教育の一体性とは										第4章を通読しておく		
⑥	子どもの生活と保育内容										第5章を通読しておく		
⑦	子どもの遊びと保育内容										第6章を通読しておく		
⑧	環境を通して行う保育										第7章を通読しておく		
⑨	保育における「領域」① 保育の「ねらい」と「内容」										第8章を通読しておく		
⑩	保育における「領域」② 記録・計画・評価と領域の関係										第9章を通読しておく		
⑪	多様な保育の場における保育内容① 地域型保育										第10章を通読しておく		
⑫	多様な保育の場における保育内容② 延長保育・預かり保育										第11章を通読しておく		
⑬	様々な配慮を要する子どもの保育										第12章を通読しておく		
⑭	小学校教育との接続										第13章を通読しておく		
⑮	現代社会の特質と保育内容										第14章を通読しておく		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考		授業計画について改めて後期授業時に周知する予定です。				
	評価に加える	評価に加える	60%	評価に加える	10%	30%							
使用教科書	演習保育内容総論 保育の総合性を読み解く 朝文書林						参考図書		幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育・保育解説				
学生へのメッセージ	保育内容総論は、これまでの保育に関する学びの集約です。仲間との協働的学びを通して、保育者としての資質を向上させていきましょう。						履修上の注意		授業に関連するレポートを毎回Formsで提出してもらう予定です。欠席するとレポート作成が困難になりますので、ご承知おきください。毎回出席していきましょう。				
実務経験と科目の関連													

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年		卒業	第2種	保育士		
51	乳児保育Ⅱ	演習	1			■		○		○	相川怜美	該当する
科目区分		保育の内容・方法に関する科目									担当形態	単独
ディプロマ との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									○	乳児保育の基礎知識を基に、さらに理解を深め、保育実践力の基礎を習得する。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。									○	発育や発達を踏まえた支援、関わり、配慮を理解し、生活・遊びを具体化するための知識・技能、計画の作成を明らかにする。	
カリキュラム との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。									○		
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。									○	《キーワード》	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○	保育士/発育・発達のプロセス/特性を踏まえた援助や関わり/養護と教育の一体性/生活や遊び/保育の方法及び環境/配慮の実践/保育計画	
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。											
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》								
①乳児保育の基本を理解する。				①乳児保育の基本を理解して、具体的に説明することができる。								
②乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実践を知る。				②乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実践を知り、応用することができる。								
③乳児保育における配慮の実践について知る。				③乳児保育における配慮の実践について実施することができる。								
④乳児保育における計画の実践を知る。				④乳児保育における計画の実践を知り、応用することができる。								
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	授業計画 学習目標設定 本講義の意義と心構え 保育実習Ⅰを振り返る										教科書通読	
②	胎児期・新生児期についての発育や情緒能力について										教科書P130～133通読・資料配布	
③	生活習慣の獲得と援助方法（抱っことおんぶ）・・・泣き・あやす・抱っこ、おんぶを中心にして										教科書P134～135通読・資料配布	
④	生活習慣の獲得と援助方法（乳児の衣服の基礎知識と午睡）・・・衣服の着せ方・脱がせ方実習										教科書P136～139通読・資料配布	
⑤	生活習慣の獲得と援助方法（おむつ替えと「おむつはずれ」）・・・おむつ替え実習										教科書P140～143通読・資料配布	
⑥	生活習慣の獲得と援助方法（授乳の仕方とその準備、食事）・・・授乳の実習										教科書P144～147通読・資料配布	
⑦	離乳食の基礎知識・・・離乳に向けた食事の進め方										教科書P148～153通読・資料配布	
⑧	沐浴の仕方・清拭のしかた・・・沐浴の実習										教科書P154～157通読・資料配布	
⑨	保育環境の衛生管理・・・子どもの生活の場を清潔に保つために（手の洗い方）										教科書P158～159通読・資料配布	
⑩	かみつき・ひっかきへの対応・・・トラブル背景と保護者との連携について										教科書P160～161通読・資料配布	
⑪	乳児発育における安全管理①・・・乳児特有の病気とくすりの扱いを学ぶ										教科書P162～165通読・資料配布	
⑫	乳児保育における安全管理②・・・乳児を事件・事故から守る方法を知る										教科書P166～173通読・資料配布	
⑬	連絡帳の意義と書き方・・・子どもの育ちを保護者と分かち合う										教科書P174～181通読・資料配布	
⑭	長期指導計画と短期指導計画・・・月案の作成										資料配布	
⑮	個別指導計画と集団指導計画・・・週案の作成										資料配布	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考					
	30%	20%	20%	評価に加え	15%	15%						
使用教科書	はじめて学ぶ乳児保育（同文書院） 保育所保育指針解説						参考図書	適宜、授業中に紹介する。				
学生への メッセージ	一人一人の子どもたちに愛情をもち、子どもたちの“今”を発達と共に捉えながら観察する力を身につけてほしい。						履修上の注意	演習が多いため予習をしっかりと行い、きちんと出席すること。レポート等期限を守り、意欲的に参加してください。				
実務経験と 科目の関連	子育て支援センターに携わっている経験より、多様化する乳児保育の現場に求められる保育士の職能について理解を深め、保護者や関係機関との連携について、理論的・実践的知識を教授する。											

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目	
				1年		2年		卒業	第2種	保育士			
52	社会的養護Ⅱ	演習	1					■	○		○	戸川安俊	該当する
科目区分		保育の内容・方法に関する科目										担当形態	単独
ディプロマ との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。											社会的養護における子どもの理解と支援の具体的な方法を事例を通して講義します。生活の中で子どもへのアセスメントと自立支援計画をどのように立てていくか、そして養育における専門的知識や子どもの発達や援助技術の実践に関する理解を深め、養育者としての心構えや自己理解に関する講義も行います。	
知識・技能 との 関連	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○	《キーワード》	
	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入しに学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。												
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○	権利擁護、児童虐待、児童福祉施設、家庭的養育、生活の中での治療的養育、児童自立支援計画、アセスメント、アタッチメント、発達障がい。	
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》									
①社会的養護における子どもの理解と権利擁護、養育者としての姿について理解する。②子どもの発達段階を理解し、生活の中での治療的養育について学ぶ。③社会的養護における計画・記録・自己評価の実践について理解する。④ソーシャルワークの方法及び技術について理解する。⑤社会的養護における児童虐待の防止と家庭支援について理解する。				①社会的養護の現状と子どもの入所に至る背景について説明ができる。②生活の中での子どもの現状把握をし、成長歴を含めた自立支援計画の立案ができるようになる。③子どもの権利擁護と養育者としての役割や子どもを育てるということについて説明できるとともに、実践に応用することができる。									
授業回数		授業計画										授業外学習及び準備等	
①		・社会的養護とは ・様々な児童福祉施設を知る										教科書の該当箇所の通読	
②		・子どもを知る ・事例を知る										教科書の該当箇所の通読	
③		・児童福祉施設を知る ・事例を知る										教科書の該当箇所の通読	
④		・社会的養護における養育者としての専門性 ・事例を知る										教科書の該当箇所の通読	
⑤		・子どもの理解と方法 ～子どもの基本的な発達段階を知る～ ・事例検討										教科書の該当箇所の通読	
⑥		・子どもの理解と方法 ～児童虐待について考える～ ・事例検討										教科書の該当箇所の通読	
⑦		・子どもの理解と方法 ～アタッチメントへの理解～ ・事例検討										教科書の該当箇所の通読	
⑧		・子どもの理解と方法 ～生活の中での治療的養育～ ・事例検討										教科書の該当箇所の通読	
⑨		・子どもの理解と方法 ～ライフストーリーワーク～ ・事例検討										教科書の該当箇所の通読	
⑩		・子どもの理解と方法 ～発達障がいへの理解～ ・事例検討										教科書の該当箇所の通読	
⑪		・子どもの理解と方法 ～家族への理解と支援の内容～ ・事例検討										教科書の該当箇所の通読	
⑫		・子どもの理解と方法 ～アセスメントと自立支援計画の作成～										教科書の該当箇所の通読	
⑬		・社会的養護における機関連携 ・施設内虐待、マルトリートメントについて ・職員間でのチーム養育について										教科書の該当箇所の通読	
⑭		・これからの社会的養護 ・里親制度について知る ・社会的養育ビジョンについて知る										教科書の該当箇所の通読	
⑮		・講義のまとめと振り返り										これまでの講義資料の通読	
評価内容・方法		試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考					
		70%	評価に加える	評価に加える	評価に加える	評価に加える	30%						
使用教科書		よりそい支える「社会的養護Ⅱ」 教育情報出版						参考図書	授業内で適宜紹介				
学生への メッセージ		「養育」という分野に触れ、子どもを育てるということはどういうことを学んでいただきたいと思います。						履修上の注意	社会的養護の世界を知り、積極的に学び、考える姿勢を持っていた きたいと思います。				
実務経験と 科目の関連		児童福祉施設での実務経験を踏まえ、子どもに関する社会的養護の基礎的な内容と実際について教授する。											

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目	
				1年		2年		卒業	幼 2 種	保 育 士			
				前期	後期	前期	後期						
53	子育て支援	演習	1					■	○		○	蓮井千恵子	該当する
科目区分		保育の内容・方法に関する科目									担当形態	単独	
ディパ の 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									○	《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									○	保育の専門性を背景として保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示の支援について、実践を通して具体的に理解する。		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。									○			
おわら の 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○			
	「読む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										《キーワード》		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○	カウンセリングの基礎理論、カウンセリングの基礎的技術、傾聴、受容、共感		
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。													
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》							
カウンセリングについて基礎的な概念、理論を学ぶ。学んだ理論を基礎とする傾聴、受容、共感とは具体的にどのようなことかということについて実践する。さらに地域資源の活用、他者との協同についても実践を通して学ぶ。実践を通して、考えることを学ぶ。						保育の専門性を背景とした保護者に対する心理支援について学び、説明できることを目標としている。傾聴、受容、共感といったカウンセリング技法を学び、実践できるようになる。実践を通して学んだことを、自分の言葉で、他者に伝えられるようになることを目標とする。							
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	保育カウンセリングとは？										教科書 Ⅰ章 1～3		
②	カウンセリングについて学ぶ										DVD学習		
③	信頼関係とは？どのように信頼関係を作るか										教科書 Ⅳ章 30		
④	傾聴とは何か、どのように待つか										教科書 Ⅰ章 4～6		
⑤	受容										教科書 Ⅰ章 7～12		
⑥	共感										教科書 Ⅰ章 7～12		
⑦	カウンセリング理論と実践										教科書 Ⅱ章		
⑧	カウンセリング理論と実践										教科書 Ⅱ章		
⑨	保護者とのかかわり										教科書 Ⅳ章 33～35		
⑩	保護者とのかかわり										教科書 Ⅳ章 36～39		
⑪	保護者とのかかわり										教科書 Ⅳ章 40～43		
⑫	カウンセリングの基礎的技術										DVD学習		
⑬	保育者の自己成長										教科書 Ⅴ章 44～47		
⑭	保育者の自己成長										教科書 Ⅴ章 48～51		
⑮	保育者の自己成長										教科書 Ⅴ章 52～55		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考						
	評価に加えず	20%	30%	10%	評価に加えず	40%							
使用教科書	やさしく学べる保育カウンセリング 大竹直子 金子書房					参考図書	適宜紹介します。						
学生への メッセージ	ほぼ毎回の授業で、相談実践の実習を行います。さらに相談実践の結果について、全員で共有します。積極的な参加を希望します。					履修上の注意	学生の皆さんの理解度によりシラバスの内容は前後します。						
実務経験と 科目の関連	教育、医療、産業療育で保護者支援での実践と経験を踏まえ、子育て支援に関する実態と実践について教授する。												

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目
				1年		2年		卒業	幼 2 種	保 育 士		
				前期	後期	前期	後期					
54	子どもの健康と安全	演習	1			■		○		○	中村千景	該当する
科目区分		保育の内容・方法に関する科目									担当形態	単独
ディパ & リーとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									1年次の「子どもの保健」で学んだ知識を基に、子どもの健康を保持増進するために必要な技術や、疾病への対応、事故防止対策等について講義します。さらに、実践することができるように演習を行います。		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。									○		
加わらぬ & リーとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入し学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。									《キーワード》		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○		
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。									事故防止・安全対策・健康観察・応急処置			
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》								
・子どもの保健に関する個別対応と、集団全体の健康及び安全管理について理解する。				・子どもの健康管理を行うための技術を理解し、実施できる。								
・子どもの体調不良等に対して、適切な応急処置等ができるように技術を身につける。				・健康及び安全管理のあり方を理解し、実施できる。								
・健康及び安全管理を実施するために関連機関との連携を理解する。				・保健活動の計画及び評価ができる。								
授業計画												授業外学習及び準備等
①	保健的観点を踏まえた保育環境と援助 子どもの健康と保育の環境・子どもの養護の仕方			* おんぶひもの使い方演習			・テキストのpp1-10を読む。 ・p3のガイドラインを確認する。					
②	保育における健康と安全管理① 衛生管理			* 吐物処理演習			・テキストのpp11-26を読む。 ・学校環境衛生基準を調べる。					
③	保育における健康と安全管理② 事故防止と安全管理			* ワークシート①作成演習			・テキストのpp27-40を読む。 ・ワークシート②に取り組む。					
④	保育における健康と安全管理③ 危機管理・災害への備え						・テキストのpp41-51を読む。 ・地域のハザードマップを調べる。					
⑤	子どもの体調不良などへの対応① 体調不良や傷害が発生した場合の対応			* 氷枕・氷嚢作成演習			・テキストのpp52-82を読む。 ・p70のガイドラインを調べる。					
⑥	子どもの体調不良などへの対応② 応急手当			* 三角巾の使い方演習			・テキストのpp83-108を読む。 ・レジ袋を利用した三角巾を作成する。					
⑦	子どもの体調不良などへの対応③ 一次救命処置			* 心肺蘇生法演習			・テキストのpp109-118を読む。 ・成人の心肺蘇生法を調べる。					
⑧	子どものかかりやすい感染症対策 感染症の集団発生予防・感染症発生時と罹患後の対応			* 手洗い実践演習			・テキストのpp119-148を読む。 ・予防接種について復習する。					
⑨	保育における保健的対応① 子どもの健康観察と健康診断			* バイタルサイン測定演習			・テキストのpp149-165を読む。 ・健康診断について復習する。					
⑩	保育における保健的対応② 身体計測の方法			* 身体計測演習			・テキストのpp165-180を読む。 ・ワークシート④に取り組む。					
⑪	保育における保健的対応③ 3歳未満児の特徴と生活に対する援助			* おむつがえ演習			・テキストのpp180-198を読む。 ・3歳未満児の特徴について復習する。					
⑫	保育における保健的対応④ 3歳未満児の子どもの生活習慣						・テキストのpp198-213を読む。 ・SIDSについて復習をする。					
⑬	保育における保健的対応⑤ 個別な配慮が必要な子どもへの対応						・テキストのpp214-232を読む。 ・食物アレルギーについて復習する。					
⑭	保育における保健的対応⑥ 障害のある子どもへの対応						・テキストのpp232-245を読む。 ・医療的ケアについて調べる。					
⑮	健康及び安全管理の実施体制 家庭・専門機関・地域の関係機関との連携						・テキストのpp246-259を読む。 ・保健活動について調べる。					
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考					
	60%	評価に加えず	評価に加えず	評価に加えず	10%	30%						
使用教科書	「これだけはおさえて!」 保育者のための子どもの健康と安全[改訂二版] 鈴木美枝子 編著 (株式会社 創成社)					参考図書		幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、 その他適宜紹介します。				
学生への メッセージ	子どもの健康や病気・事故に関する話題があれば日頃から チェックする習慣を身につけましょう。					履修上の注意		教科書を丁寧に読み、授業スライド資料とあわせて理解を深めるようにしましょう。 また、提出物はその都度提出できるようにしましょう。				
実務経験と 科目の関連	保育園での勤務経験から、子どもの健康を守るために必要となる視点や、健康実態など、テキストだけでなく保育現場の実体験も織り交ぜながら講義を進めます。											

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期						卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目
				1年		2年		卒 業	幼 2 種	保 育 士				
				前期	後期	前期	後期							
55	特別支援保育Ⅱ	演習	1			■		○		○	西原 彰宏	該当する		
科目区分		保育の内容・方法に関する科目										担当形態	単独	
ディパ の 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。											特別支援が必要な子どもについては障害の特性や心身の発達を理解し教育の内容や支援の方法を身につける。特別な教育的ニーズのある子どもについては子どもの姿を把握し活動や生活上の困難を理解して対応方法を工夫する。		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○			
がけ の 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○			
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。													
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。											《キーワード》		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○	特別の支援を必要とする子ども 特別の教育的ニーズのある子ども インクルーシブ教育		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。										○			
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》										
・特別の支援を必要とする子どもの障害の特性及び心身の発達を理解した上で、教育の内容や支援の方法を理解する。 ・特別の教育的ニーズのある子どもについて把握し、活動または生活上の困難とその対応を理解する。 ・すべての子どもを包み込む教育（インクルーシブ教育）の意義と内容及び支援の方法を理解する。				・発達障害を始めとする様々な障害のある子どもについての基礎知識を持ち、支援の方法を理解している。 ・特別の教育的ニーズのある子どもについて把握し、支援の必要性を理解している。 ・子ども一人ひとりの集団生活における教育的ニーズに応えることが、子どもが生き生きと身につけていくことにつながっていることを理解している。										
授業計画		授業外学習及び準備等												
①	特別な支援を必要とする子どもの教育と障害児保育を支える理念1 障害の概念と障害児保育の歴史の変遷とノーマライゼーション			障害の概念と障害児保育の歴史を理解している。			1回目の復習とP2～P9及び配布資料を通読する							
②	特別な支援を必要とする子どもの教育と障害児保育を支える理念2 インクルーシブ教育理念と特別支援教育の制度			インクルーシブ教育理念と特別支援教育の制度を理解している。			2回目の復習とテキストP10～P17を通読する							
③	特別な支援を必要とする子どもの教育と障害児保育を支える理念3 障害のある子どもの地域社会への参加と包摂（インクルージョン、インフォームドコンセント）			障害のある子どもの地域社会への参加と包摂（インクルージョン、インフォームドコンセント）を理解している。			3回目の復習とテキストP17～P25を通読する							
④	特別な支援を必要とする子どもの教育と障害児保育を支える理念4 障害のある子どもの教育・保育の基本			障害のある子どもの教育・保育の基本を理解している。			4回目の復習とテキストP26～P33及び配布資料を通読する							
⑤	幼稚園・保育所における特別な支援を必要とする子どもの教育・保育の実践1 全体的な計画及び指導計画、個別の支援計画の作成			幼稚園・保育所における特別な支援を必要とする子どもの教育・保育の実践1 全体的な計画及び指導計画、個別の支援計画の作成を理解している。			5回目の復習とテキストP154～P167を通読する							
⑥	幼稚園・保育所における特別な配慮を要する子どもの教育・保育の実践2 個別の支援計画の意義と活用			幼稚園・保育所における特別な配慮を要する子どもの教育・保育の実践2 個別の支援計画の意義と活用を理解している。			6回目の復習とテキストP167～P182を通読する							
⑦	幼稚園・保育所における特別な配慮を要する子どもの教育・保育の実践3 記録の記入と計画の評価			幼稚園・保育所における特別な配慮を要する子どもの教育・保育の実践3 記録の記入と計画の評価を理解している。			7回目の復習とテキストP178～P182を通読する							
⑧	幼稚園・保育所における特別な配慮を要する子どもの教育・保育の実践4 職員間の連携・協働			幼稚園・保育所における特別な配慮を要する子どもの教育・保育の実践4 職員間の連携・協働を理解している。			8回目の復習とテキストP195～P199を通読する							
⑨	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援体制1 「通級による指導」と「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」			特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援体制1 「通級による指導」と「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」を理解している。			9回目の復習とテキストP204～P211及び配布資料を通読する							
⑩	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援体制2 「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」作成する意義と方法			特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援体制2 「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」作成する意義と方法を理解している。			10回目の復習とテキストP211～P218を通読する							
⑪	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援体制3 特別支援教育コーディネーター、関係機関、家庭との連携			特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援体制3 特別支援教育コーディネーター、関係機関、家庭との連携を理解している。			11回目の復習とテキストP219～P228を通読する							
⑫	特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題1 保健・医療・福祉・教育における現状と課題			特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題1 保健・医療・福祉・教育における現状と課題を理解している。			12回目の復習とテキストP254～P262、P235～P243を通読する							
⑬	特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題2 支援の場の広がりとならぎ			特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題2 支援の場の広がりとならぎを理解している。			13回目の復習とテキストP263～P266を通読する							
⑭	特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題3 障害者の自立と就労支援			特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題3 障害者の自立と就労支援を理解している。			14回目の復習とテキストP266～P274を通読する							
⑮	まとめ：特別支援教育・保育の理念と支援体制を保育に活かす						15回目の復習							
評価内容・方法		試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考						
		70%	10%	評価に加えず	評価に加えず	評価に加えず	20%							
使用教科書		尾野明美他2名編著「特別支援教育・保育概論—特別な配慮を要する子どもの理解と支援」朝文書林2020年					参考図書		幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書、認定こども園教育・保育要領解説					
学生への メッセージ		特別支援教育の理念と支援体制を保育の中で活かすには？という視点を忘れず、一步一步学びましょう。					履修上の注意							
実務経験と 科目の関連		特別支援学校小学部と親子の療育通所施設で、乳幼児と児童の保育・教育を15年間行った。その後、ある地域の5つの保育所で発達相談と園内研修を10年担当した。現在は幼稚園・保育園で障害児を含めた保育相談をしている。その経験をもとに、支援を必要とする園児や子どもの心身の発達、特性、支援の方法、その背景にある理念（大切な考え方）について教授する												

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士			
				前期	後期	前期	後期						
57	子どもの発達と造形表現Ⅲ	演習	1					■	選択		*	森高光広	該当する
科目区分		保育の内容・方法に関する科目										担当形態	単独
ディプロマ との関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》 乳幼児は自ら生きていくための力を様々な行動を通して獲得していく。5領域の中で「造形」の学びは大切である。子どもの感性を育み、主体性を大切に、自らの感性を駆使して楽しく制作することの大切さを再確認し、3,4,5歳児向けの造形活動を踏まえて具体的な援助の手立てを身につけることを目的とする。	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										○		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○		
カリキュラム との関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	《キーワード》 ○子どもの表現の多様性を知る ○子どもの表現や活動には個人差がある ○育てたい力や学びが実現できる制作や活動を展開 や保育環境も踏まえて考える。	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										○		
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										○		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○		
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。										○			
《一般目標》 未就学児である幼児の造形活動行動は「人間としての営み」として、重要であるとともに、小学校の図画工作科での学びも踏まえて、その基礎となる力を育むことが求められる。つくることの楽しさとともに手指の発達に即した造形制作、鑑賞、共同の制作など、小学校の図画工作科での学びにつながる内容も含めて学ぶ。情報機器の活用・教育現場での活用を理解する。				《到達目標（行動目標）》 表現領域の中において、子どもの造形制作やその活動、それを通して人との関わりは大切である。子どもの主体的な造形活動を展開・援助ができるように、実際の制作や活動を踏まえて具体的に学び、保育・教育現場でも応用できるための力を各年齢に応じた指導や手立てを考へ、身につける。									
授業計画													
① 材料からの視点～紙以外 ☆作品画像各自保存、随時確認します													
② 画材からの視点～組み合わせる1													
③ 展開からの視点～場の設定① 季節感													
④ 展開からの視点～ 展開からの視点～場の設定② しくみを踏まえて													
⑤ 紙立体制作①～生き物をつくる①													
⑥ 紙立体制作②～生き物をつくる②													
⑦ バベットの制作①～アイデアを考える ※材料各自自由・													
⑧ バベットの制作②～仕組みの試行・布材の活用													
⑨ バベットの制作③制作②～制作完成・遊びと活用の構想・													
⑩ シアターの展開～見合いの場 動画撮影・バベット・絵本活用・													
⑪ グループワークを楽しむ～仲間作りを促す手立て													
⑫ 迷路の制作①～アイデアを練る													
⑬ 迷路の制作②～路作り・しかけ													
⑭ 迷路の制作③～転がすところの完成													
⑮ 迷路の制作④～装飾・見合いの場 まとめ													
評価内容・方法		試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考					
		評価に加えず	評価に加えず	35%	15%	35%	15%	欠席の場合、当日の課題レポートと欠席部分の制作の提出で加点します。締め切りについては要相談					
使用教科書 表現教育にはそんなこともできるのか―教師たちのプレキシルなアプローチに学ぶ 鈴木幹雄、森高光広、他編著、森高光広・他(著)あいり出版 価格2420 ISBN-13: 978-4865550139								参考図書		『造形表現』竹井史編著、森高光広・他(著)、一社社、2200円 ISBN-13: 978-4-86359-155-4			
学生へのメッセージ 楽しく制作することを通して、子どもの目線で考えて具体的な造形活動の援助ができるように学びます。								履修上の注意		課題は時間内提出を基本とします。制作した作品などの画像は各自スマホで保存します。ICT活用は随時します。履修人数によって制作内容は変わります。			
実務経験と科目の関連		幼稚園・保育園での園児に対する造形活動や小学校全年の図画工作の指導経験を活かし、子どもの育ちと行動の理解及び発達に応じた造形活動とその展開について具体的に伝える											

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目		
				1年		2年		卒業	2種 2種	保育 士				
				前期	後期	前期	後期							
60	子どもの弾き語り演習Ⅱ	演習	1				■		選択		*	横関由紀・永島清美・ 渋谷るり子・ 川上由美・前田佳代	該当する	
ディテール ・リテとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》			
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										この授業では、弾き語りを中心としたピアノの技術の習得をめざしながら、音楽にかかわる活動の工夫や、音楽に親しみあそぶ態度を養う。ロールプレイやディスカッションを通して実践力を養っていく。また、幼児たちがさまざまな場面でも活動している事に共通できるような、授業内で色んな曲に触れながら自分の感性を磨いていく。実習への準備に合わせた選曲が出来るので、積極的に取り組んでほしい。			
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○			
ディテール ・リテとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○			
	「育む・作る・動く・音を奏しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										○			
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入し学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										○			
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○			
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。										○				
《一般目標》										《到達目標（行動目標）》				
○季節に応じた歌の伴奏（弾き語り）を習得する。										①保育者らしい総合的な技術で発表する				
○幼児が音楽に親しみ、歌を歌ったりする心地良さを十分に味わえるような音楽表現を身につける。										②曲想を理解し、豊かな演奏表現を実践できる				
○幼児の、音楽への興味を引き出すための方法について考察し、様々な導入があることを理解する。										③自分のレベルや目標に合った曲を選曲し習得する				
										④ディスカッションで自分の意見を述べ、レポートにまとめることができる				
										⑤弾き語りを活用して構想を組み立て、模擬保育を展開することができる				
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等			
①	授業課題・習得目標・授業計画の説明 担当者発表 練習計画 発表の課題 中間発表日決定										【グレードの目安】			
②	個々の練習計画に沿って実技練習 個人指導										mp ステップⅢが終了し 参考曲に進んでいる			
③	個々の練習計画に沿って実技練習 個人指導 発表曲の確認										mf 参考曲が概ね10曲習得 していること 簡易伴奏可			
④	個々の練習計画に沿って実技練習 個人指導 発表曲の確認										f 一人で譜読みが出来る レベル 簡易伴奏不可			
⑤	個々の練習計画に沿って実技練習 個人指導 発表曲の確認										ff 一人で完成させることが 出来るレベル			
⑥	中間発表 及び グループディスカッション 発表後の事後指導 個人指導										【具体的な練習や取り組み】			
⑦	中間発表 及び グループディスカッション 発表後の事後指導 個人指導										*曲想に合った演奏技術を習得する			
⑧	中間発表 及び グループディスカッション 発表後の事後指導 個人指導										*導入の方法を工夫し発表で実践する。			
⑨	個々の練習計画に沿って実技練習 個人指導										*担当者と相談し、実習や就職試験を 想定した曲の習得。			
⑩	個々の練習計画に沿って実技練習 個人指導										*実践を想定し、導入から弾き語りま でのロールプレイの発表をする。			
⑪	個々の練習計画に沿って実技練習 個人指導										*それぞれの発表についてのディスカ ッションに参加し意見を述べると共に、 レポートの記述をする。			
⑫	個々の練習計画に沿って実技練習 個人指導 発表曲の確認										*責任実習を踏まえて選曲し、保育者 らしい総合的な技術で発表する。			
⑬	個々の練習計画に沿って実技練習 個人指導 発表曲の確認													
⑭	個々の練習計画に沿って実技練習 個人指導 発表曲の確認													
⑮	期末発表 及び 講評（個人指導） 発表後の事後指導										中間発表の講評用紙提出 			

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目
				1年		2年		卒業	幼 2 種	保 育 士		
				前期	後期	前期	後期					
61	子どもの運動あそび	演習	1			■		選択		*	東海林孝	該当する
科目区分		保育の内容・方法に関する科目									担当形態	単独
ディパ の 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										「幼児期運動指針」にある「幼児期に身に 着けたい36の動き」をあそびを通してどの 様に身に着けるのかを理解する。更にその 動きを簡単な器械運動に発展させる。ま た、簡単なミニゲームをたくさん覚え、幼 い年齢の子どもに実践できるようにす る。	
かわら の 関連	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○	《キーワード》 幼児期運動指針、発育・発達、幼児体 育、器械体操、ミニゲーム、
	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的 に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。											
	「読む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										○	
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返り を通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。											
学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検する ことで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。												
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を 育む。												
《一般目標》 ・36の基本動作を理解する。 ・遊びから始める子どもの運動を理解する。 ・保育をするうえで、子どもに安全で楽しい運動あそびを 紹介できる力を身につける。 ・ミニゲームのやり方を年齢別に実践できる指導力を身に 着ける。 ・器械運動の補助、指導法を身につける。						《到達目標（行動目標）》 ・子どもに運動を教える際に必要な話す（説明）、見せる（見本）、 触る（補助）を実践することができる。 ・運動あそびの基本である模倣について、どの様な動きとの関連が あるかを説明することができる。 ・各年齢にあったミニゲームの指導ができる。 ・器械運動の正しい動きと補助指導方法ができる。						
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	整列・列の増減 ～ アイスブレイキング（数で集まる、条件で集まる） ミニゲーム：大波、キャッチ										毎時間リズム室で行います。体操着、上履 きて受講してください。	
②	器械運動 マットあそび（模倣からでんぐり回り⇒前転） ゲーム：森とりず											
③	器械運動 マットあそび（前転：模倣を使い分習法と補助） ゲーム：いらっしゃい											
④	器械運動 マットあそび（後転：模倣を使い分習法と補助） ゲーム：震源地											
⑤	器械運動 マットあそび実践 前転・後転の正しい補助の確認 ミニゲーム：横跳びじゃんけん①											
⑥	器械運動 平均台あそび（ドンチケタ、平均台の安全な歩き方、じゃんけん陣取りゲーム） ミニゲーム：横跳びじゃんけん②											
⑦	器械運動 平均台あそび（またいで歩く、振り返る。給合わせゲーム）グループ発表打ち合わせ											
⑧	平均台 グループ発表											
⑨	器械運動 跳び箱（助走～踏み切りのやり方、開脚で跳び乗りの補助の方法） ゲーム：棒で遊ぼう①											
⑩	器械運動 跳び箱（跳び乗り、跳び越しの補助の方法） ゲーム：棒で遊ぼう②、命令ジャンプ											
⑪	器械運動 跳び箱（跳び乗り、跳び越しの補助の方法） ゲーム：棒で遊ぼう③、綱引き											
⑫	器械運動 跳び箱あそび実践 跳び乗り・跳び越しの指導方法と補助 ゲーム：グループ対抗じゃんけんゲーム											
⑬	新聞紙で遊ぼう、フープで遊ぼう											
⑭	ゲーム実践（グループ発表）、みんなで遊ぼう（好きなゲームで遊ぼう）											
⑮	教室で遊ぼう 器械運動の振り返り、ミニゲームの振り返り、しりとりパズル、反対語探し										教室で行います。	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考					
	評価に加える	評価に加える	評価に加える	40%	評価に加える	60%						
使用教科書	なし						参考図書	幼児期運動指針				
学生への メッセージ	器械運動は自分が上手にやるのではなく、教え方を覚えます。 ゲームやミニゲームで思い切り体を動かしましょう。						履修上の注意	それほど激しい運動ではありませんが無理をせずに行ってください。				
実務経験と 科目の関連	幼稚園、スポーツクラブの幼児体育指導者としての経験から、幼児向けの器械運動の指導の仕方や安全で楽しい運動遊びを実践の 仕方が身につくような授業を行う。											

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士			
				前期	後期	前期	後期						
63	保育教材研究（パペット・エプロンシアター）	演習	1			■		選択		*	武田真理恵	該当する	
科目区分		保育の内容・方法に関する科目									担当形態	単独	
ディ・ア の 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									《授業の概要》			
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									授業を通して子どもとの関わりを豊かに実習における技能を高める。制作にあたっては、子どもの発達段階を考慮し、年齢や保育場面の設定をした上で制作に取り組む。制作後は、模擬授業を行い学生発表とする。			
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。												
が の 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○	《キーワード》 ・子どもの発達年齢 ・保育環境 ・作り方と演じ方		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。									○			
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。												
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○			
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。									○			
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》									
・手遊びや歌に合わせて制作した作品の活用方法、技能を身に付けることができる。 ・指導案作成に反映できるようにする。 ・実習先での様々な保育場面で活用、子どもの年齢等を理解し制作、演じる楽しさを共感する。				・身近な素材を使って、様々な保育教材が作れるようになる。 ・制作、演じる、活用方法について考察理解を深める。 ・保育の実践にあたり、その方法及び技術に関する基礎知識を身につける。 ・子どもの発達年齢に考慮し、演じることを身につける。									
授業計画												授業外学習及び準備等	
①	・保育の方法及び技術に関する基礎的な考え方とその重要性を理解する ・紙など身近な素材を使って指人形を作る									・はさみ のり 折り紙			
②	パペットの制作・パペットの制作① 基礎編教材の裁断、縫い方の説明（主に返し縫については練習）									・裁縫セット、刺繍糸、刺繍針、フエルト等の準備			
③	パペットの制作① ＊フェルトで制作1（裁断、布地とダーツまで）									・接着芯、裏布の準備 ・型紙、フェルトの裁断			
④	パペットの制作① ＊フェルトで制作2（頭部（目や鼻、頬など含））									・接着芯、裏布の準備 ・型紙、フェルトの裁断			
⑤	パペットの制作① ＊フェルトで制作3（頭部と胴体、裏地、手、リボン）									・裏布の準備 ・型紙、フェルトの裁断			
⑥	パペットの制作② ＊手袋で制作1（頭部と胴体、裏地、手、リボン）									・接着芯、裏布の準備 ・型紙、フェルトの裁断			
⑦	パペットの制作② ＊手袋で制作2（頭部（目や鼻、頬など含））									・接着芯、裏布の準備 ・型紙、フェルトの裁断			
⑧	パペットの制作② ＊手袋で制作3（胴体（手、リボン））									・接着芯、裏布の準備 ・型紙、フェルトの裁断			
⑨	パペットの制作② ＊手袋で制作4（頭部と胴体、裏地）									・裏布の準備 ・型紙、フェルトの裁断			
⑩	エプロンシアターの制作1 ＊構想、下書き、人形や背景の制作									・図案を考え、用紙に色付で描く ・必要な材料を準備、フェルトを裁断			
⑪	エプロンシアターの制作2 ＊人形や背景の制作									・図案を考え、用紙に色付で描く ・必要な材料を準備、フェルトを裁断			
⑫	エプロンシアターの制作3 ＊人形や背景の制作									・図案を考え、用紙に色付で描く ・必要な材料を準備、フェルトを裁断			
⑬	エプロンシアターの制作4 ＊人形や背景の制作									・図案を考え、用紙に色付で描く ・必要な材料を準備、フェルトを裁断			
⑭	エプロンシアターの制作5 ＊人形や背景の制作									作品を完成させる			
⑮	保育教材研究発表会 ＊学生発表（パペット、エプロンシアター）									・保育の場での活用を考え模擬保育を演じる。			
試験		小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考						
評価内容・方法		評価に加えず	評価に加えず	評価に加えず	50%	40%	10%						
使用教科書		・使用教科書は特になし ・適宜使用プリントを配布					参考図書		・幼稚園教育要領解説 ・保育所保育指針解説				
学生へのメッセージ		保育現場で活用できる作品を制作する積極性と意識を持ち取り組ましよう。また他学生の作品や演じ方を観察し、保育技術を身に付けよう。					履修上の注意		・欠席や遅刻はせず授業内で制作に取り組む。 制作物は全て評価対象とする。				
実務経験と科目の関連		保育にパペット人形を活用するための指導を行う。幼稚園等での長い現場経験から導き出したモノづくりのメソッドを学生に伝える											

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目	
				1年		2年					
				前期	後期	前期	後期				
64	こどもとおもちゃ	演習	1			■		選択	*	武田真理恵	該当する
科目区分		保育の内容・方法に関する科目							担当形態	単独	
ディプロ マとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。								○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										
おむろ との 関連	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。								○	子供の発達に合わせて適切におもちゃを選ぶ事によって心の栄養を与えてくれます。手作りおもちゃ、既製のおもちゃ、アナログゲームなど、作ったり遊んだりの繰り返しでアイデアの引き出しを増やしていきます。	
	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。								○		
	「読む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。								○		
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。								○	《キーワード》	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。								○	・子どもの発達とおもちゃ ・保育環境の中でのおもちゃ ・応用力	
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。											
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》					
・子どもの発達に合わせたおもちゃの選び方を知る 技能を身に付けることができる。 ・指導案作成に反映できるようにする。 ・実習先での様々な保育場面で活用、子どもの年齢などを理解し製作の指導をできるようにする						・身近な素材を使って、様々な保育教材が作れるようになる。 ・保育の実践にあたり、その方法及び技術に関する基礎知識を身につける。 ・子どもの発達年齢に合わせたおもちゃ選びができるようになる					
授業計画		授業計画							授業外学習及び準備等		
①		・おもちゃ概論 ・おもちゃインストラクター養成講座をふりかえる							・筆記用具、はさみ、のりなど		
②		1.子どもの発達とおもちゃ① 乳幼児のおもちゃ							・筆記用具、はさみ、のりなど		
③		1.子どもの発達とおもちゃ② 3～5歳児のおもちゃ							・筆記用具、はさみ、のりなど		
④		1.子どもの発達とおもちゃ③ 音の出るおもちゃ・言葉につながるおもちゃ							・筆記用具、はさみ、のりなど		
⑤		1.子どもの発達とおもちゃ④ 動きを楽しむおもちゃ							・筆記用具、はさみ、のりなど		
⑥		2.保育とゲーム① 世界のアナログゲームで遊ぶ							・筆記用具、はさみ、のりなど		
⑦		2.保育とゲーム② アナログゲームを作ろう							・筆記用具、はさみ、のりなど		
⑧		2.保育とゲーム③ 作ったゲーム、持ち寄ったゲームで遊ぶ							・筆記用具、はさみ、のりなど 作品		
⑨		3.おもちゃデザイン論① 構成玩具、積み木研究							・筆記用具、はさみ、のりなど		
⑩		3.おもちゃデザイン論② 手づくりおもちゃを作ろう							・筆記用具、はさみ、のりなど		
⑪		3.おもちゃデザイン論③ 手づくりおもちゃを指導しよう							・筆記用具、はさみ、のりなど		
⑫		3.おもちゃデザイン論④ オリジナルのおもちゃ製作 1							・筆記用具、はさみ、のりなど		
⑬		3.おもちゃデザイン論⑤ オリジナルのおもちゃ製作 2							・筆記用具、はさみ、のりなど		
⑭		3.おもちゃデザイン論⑥ オリジナルのおもちゃ製作 3							・筆記用具、はさみ、のりなど		
⑮		おもちゃ研究発表会 *学生発表 まとめ							・筆記用具、はさみ、のりなど		
評価内容・方法		試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考			
		評価に加えず	評価に加えず	評価に加えず	50%	40%	10%				
使用教科書		・使用教科書は特になし ・適宜使用プリントを配布					参考図書		・幼稚園教育要領解説 ・保育所保育指針解説		
学生への メッセージ		保育現場で活用できるおもちゃ（既製品・手づくりおもちゃ）の引き出しを増やし、保育技術を身に付けましょう。					履修上の注意		・欠席や遅刻はせず授業内で制作に取り組む。 制作物は全て評価対象とする。		
実務経験と 科目の関連		幼稚園などでの長い現場経験や、おもちゃコンサルタントとしての活動から導き出したモノづくりのメソッドや知識を学生に伝える									

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目		
				1年		2年		卒 業	幼 2 種	保 育 士				
				前期	後期	前期	後期							
67	保育実習Ⅱ	実習	2			8月	○		○	相川悦美 ほか専任教員	ホームページ裏表参照			
科目区分	保育実習													
ディ・09 8' 9' 20' の 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										○			
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○			
おむす 8' 9' 20' の 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	保育実習Ⅱでの学びを踏まえて保育実践力をより確かなものにする。積極的に保育の場に参加し、子どもへの援助技術や知識を体系的に習得するとともに保護者支援についても学びを深める。		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										○			
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										○			
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○			
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。										○			
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》								
・保育所(園)の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 ・既習の教科や保育実習Ⅰの経験を生かして、子どもの保育および保護者支援について総合的に学ぶ。 ・保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。						・子どもと積極的にかかわり、援助・指導の仕方などを学んだ技術を部分・責任実習などの保育場面でも実践する。 ・地域社会における子育て支援などを含めた多様な保育所(園)の機能や社会的役割とその意味について学ぶ。 ・プライバシーの保護や守秘義務についての実態を知る。								
実習内容													準備等	
《実習施設／実習期間》 私立保育所（一部公立保育所）／ 2年生 8月														
《実習内容》 ・一日の保育の流れを把握し、子どもたちとのかかわりを通し、乳幼児理解を深める。 ・子どもの個人差について理解し、援助方法や対応方法を学ぶ。 特に発達の遅れや生活環境に伴う子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。 ・指導計画の立案および保育の実践を体験し、保育技術を習得するとともに、実践を通して反省・考察を行い新たな課題を見つける。 ・子どもとのかかわりの中で子どもの最善の利益への配慮を学ぶ。 ・保育準備や環境構成・整備等、保育士としての心構えや態度を身に付け、自覚を深める。 ・地域社会に対する理解を深め、連携の方法について学ぶ。 ・保育士としての職業倫理を理解し、保育士に求められる資質、能力、技術を自己に照らし合わせ、課題を明確化させる。 ・保育所におけるさまざまな保育ニーズへの対応など、子育て支援の様子を学ぶ。													※ 事前の準備 ・子どもの心身の発達の理解 ・自作の保育教材の練習 ・ピアノ弾き歌い練習 ・手遊び、絵本、紙芝居の読み聞かせ練習 ・健康診断受診 ・腸内細菌検査受診 ・麻疹風疹抗体検査または麻疹風疹予防接種受診	
《実習計画》 ①授業で【保育実習指導Ⅱ】の受講 ②実習課題、心構えの設定 ③実習保育所(園)での事前オリエンテーション ④実習保育所(園)への提出物確認 ⑤実習記録、実習自己評価の提出 ⑥実習事後指導（個別面談）														
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考		実習保育所(園)における実習評価および実習態度、実習終了後の記録、自己評価の提出などを基に総合的に評価する。基準に満たない場合には、再実習（再履修）となる					
使用教科書	指定しない						参考図書		実習の手引き（学校作成） 保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説					
学生への メッセージ	保育士は子どもの成長において身近な人的環境になる大切な仕事です。意識しながら実習に取り組みましょう。						履修上の注意		保育実習指導Ⅱの単位が修得できていない場合は、保育実習Ⅱは実施できない。					
実務経験と 科目の関連	保育所(園)（幼保連携型認定こども園・保育所型認定こども園を含む）に勤務する保育士（保育教諭）が、これまでの実務経験を活かして、認可保育所(園)での実習指導を行う。													

2025年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士			
				前期	後期	前期	後期						
70	保育実習指導Ⅱ	演習	1				■		○		○	相川怜美	該当しない
科目区分	保育実習										担当形態	単独	
ディパ & リーとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										○	保育実習Ⅰの経験を活かし、保育実習の意義や目的を総合的に考え理解する。グループワークやプレゼンテーションを通して具体的な保育計画の作成を行う。また保育士として地域の子育て支援や保護者支援へのかわり、職務内容についても考える。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○		
わかば & リーとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	《キーワード》	
	「読む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											・子ども理解	
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										○	・保育士の職務と専門性	
	学習評価は、成績評価基準を示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○	・保育実践力の向上	
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。													
《一般目標》							《到達目標（行動目標）》						
・履修した講義内容や関連性を踏まえ、保育実践力を身に付ける。							・実習先保育所(園)の特色および実習内容を理解し、説明することができる。						
・実習に関する知識や技術の確立、実習関係書類の作成や実習先のオリエンテーション等、事前の準備を進め準備を行う。							・子どもの発達や興味関心、保育の目標等に応じた保育を構築し、指導案を作成することができる。						
							・模擬保育を通して、自らの保育実践を評価・省察し、改善することができる。						
							・保育所(園)における子育て支援の目的と方法を説明することができる。						
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	保育実習Ⅱの意義・目的（保育実習Ⅱにおける自己課題）										実習課題の提出		
②	保育所保育の理解を深める①（児童福祉施設としての保育所の役割）												
③	保育所保育の理解を深める②（子どもの保育と保護者支援）												
④	責任実習の実践（DVD視聴、立案する際の留意点について確認）												
⑤	責任実習の実践（子どもの生活と責任実習を行う際のポイント）												
⑥	指導計画の考え方・立て方										実習関係書類を作成		
⑦	実践的指導①（責任実習を想定した指導案の作成・保育教材研究）										保育教材の作成準備		
⑧	保育の計画と実践①（模擬保育）～乳幼児の子どもの姿～												
⑨	保育の計画と実践②（模擬保育）～ねらいと内容～												
⑩	保育の計画と実践③（模擬保育）～保育計画の作成～												
⑪	保育の計画と実践④（模擬保育）～日案の作成～												
⑫	保育の計画と実践⑤（模擬保育）～反省と考察～										指導案と保育教材の提出		
⑬	実習直前指導①（オリエンテーション時の留意事項と心構え）												
⑭	実習直前指導②（必要な書類の作成、事前訪問の確認等）												
⑮	実習に臨むにあたっての最終確認と実習後の流れ												
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考						
	評価に加えず	評価に加えず	30%	40%	20%	10%							
使用教科書	幼稚園・保育所・認定こども園パーフェクトガイド（わかば社）、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、実習の手引き						参考図書						
学生へのメッセージ	保育所の機能や役割について、家庭や地域との関係的な視点から、保育および子育て支援について理解を深めることができるような実習にしましょう。						履修上の注意		レポートや実習に関する書類等は提出期限を守りましょう。保育実習指導Ⅱの単位が修得できていない場合は、保育実習Ⅱは実習できない。				
実務経験と科目の関連													

2025年度 教科目概要

2025年4月1日発行

越谷保育専門学校

埼玉県越谷市東越谷3-10-2 〒343-0023
TEL. 048-965-4111 FAX. 048-962-6161

